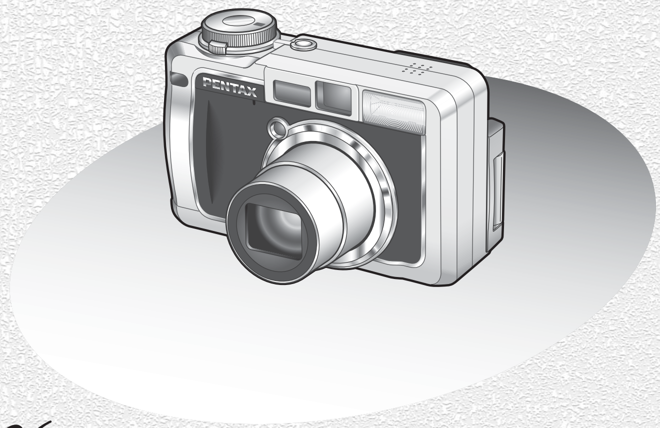
PENTAX

デジタルカメラ

Optio 750Z

使用説明書



PictBridge

カメラの正しい操作のため、ご使用前に
必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタルカメラOptio 750Zをお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を充分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

PENTAXはペンタックス株式会社の商標です。
Optioおよびオプティオはペンタックス株式会社の登録商標です。
SDロゴは商標です。
その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。

本機を使用するにあたって

- 強い電波や磁気を発生する施設などの周囲では、カメラが誤動作を起こす場合があります。
- 液晶モニタに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

本製品はPRINT Image Matchingに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンタでの出力及び対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。PRINT Image Matchingに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

PictBridgeについて

PictBridgeは、プリンタとデジタルカメラを直接接続して、画像をプリントアウトするダイレクトプリントの統一規格で、カメラ側から簡単な操作で画像をプリントできます。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび液晶モニタの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

ご注意ください

この製品の安全性については充分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

⚠ 警告	このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。
⚠ 注意	このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

⚠ **警告**

- カメラを分解・改造などしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- SD メモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- ACアダプタは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外のACアダプタをご使用になったり、専用のACアダプタを指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、電池およびACアダプタを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

- 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- 充電式リチウムイオンバッテリーD-LI7以外は充電しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどの恐れがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などの恐れがあります。
- バッテリーの液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害をおこす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こした時は、速やかに電池を取り出してください。その際は、やけどに充分ご注意ください。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ちつづけると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目についたり、口に入らないよう十分にご注意ください。

バッテリー充電器とACアダプタについて

⚠ 警告

- 指定された電源以外の電圧で使用しないでください。指定以外の電源・電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。AC指定電圧は、100-240Vです。
- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 万一、内部に水などが入った場合は、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグをはずし、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいてください。火災の原因となります。

注意

- AC コードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理にまげたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、AC コードの接続部をショートさせたり、さわったりしないでください。
- バッテリー充電器をお使いにならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いておいてください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器で充電式リチウムイオンバッテリーD-LI7以外の電池は充電しないでください。他の電池を充電しようとすると、発熱や、充電器の故障の原因となります。

取り扱い上の注意

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証についてはご容赦ください。
- このカメラはレンズ交換式ではありません。レンズの取り外しはできません。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。

- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また、高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
- 強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。
- カメラの使用温度範囲は0℃～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、「SDメモリーカード使用上の注意」（p.19）をご覧ください。
- 破損や故障の原因になりますので、液晶モニタの表面を強く押さないでください。
- カメラを腰のポケットに入れた状態で椅子などに座ると、カメラが変形したり液晶モニタが破損する恐れがありますのでご注意ください。
- 三脚使用時は、ネジの締め過ぎに十分ご注意ください。

LED安全基準について
この装置は、LEDに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1適合のデジタルスチルカメラです。

目次

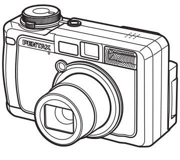
操作説明中で使用されている表記の意味は次のようになっています。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。
USER, M, Tv, Av, P, PICT, ■■■, 3D, ●, 🎥, 🎙, ▭	タイトルの上に表示されたマークは、その機能が使える撮影／録音モードを表します。 例） USER M Tv Av P ■■■ 3D ● 🎥 **シャープネスを設定する**

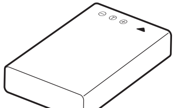
本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

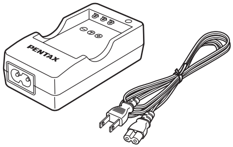
主な同梱品の確認



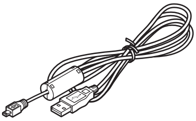
本体
Optio 750Z



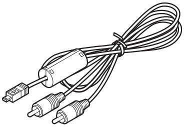
充電式リチウムイオン
バッテリー D-LI7（※）



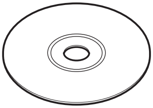
バッテリー充電器キット
K-BC7J（※）



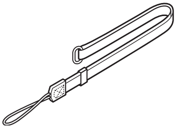
USBケーブル
I-USB7（※）



AVケーブル
I-AVC7（※）



ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW22



ストラップ
O-ST17（※）



使用説明書
（本書）



使用説明書
（PC活用編）

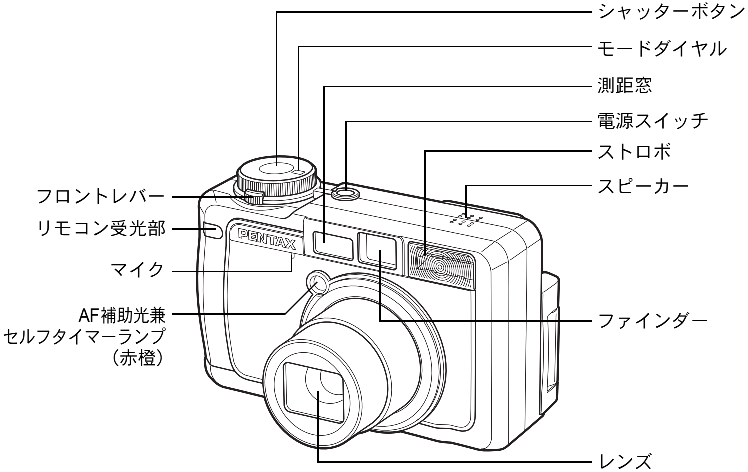


保証書

（※）の製品は、別売アクセサリーとしてもご用意しております。
その他の別売アクセサリーについては、「別売アクセサリー一覧」（p.184）をご覧ください。

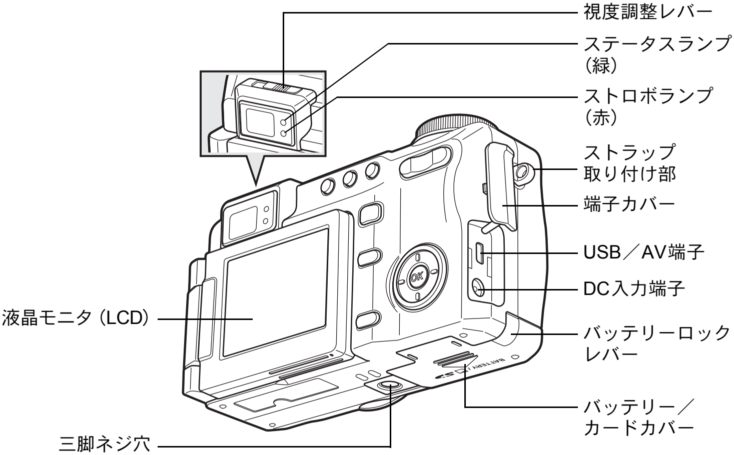
各部の名称

前面



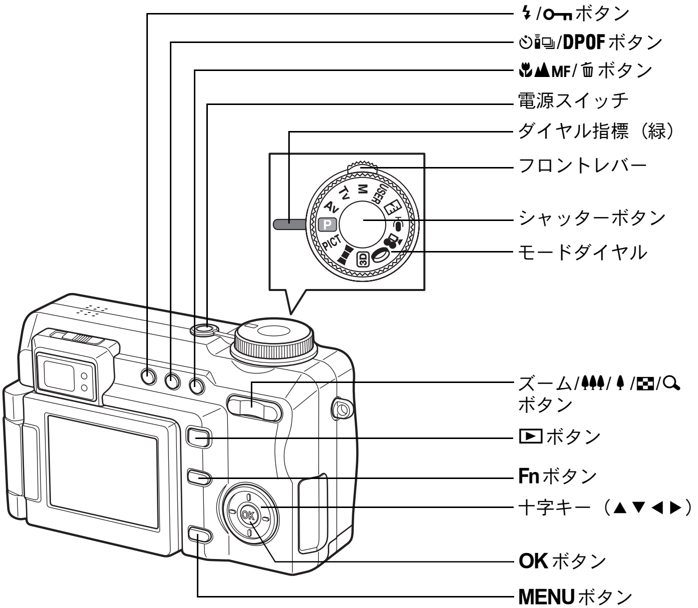
シャッターボタン
モードダイヤル
測距窓
電源スイッチ
ストロボ
スピーカー
フロントレバー
リモコン受光部
マイク
AF補助光兼
セルフタイマーランプ
（赤橙）
ファインダー
レンズ

背面



視度調整レバー
ステータスランプ
（緑）
ストロボランプ
（赤）
ストラップ
取り付け部
端子カバー
USB／AV端子
DC入力端子
液晶モニタ（LCD）
バッテリーロック
レバー
バッテリー／
カードカバー
三脚ネジ穴

操作部の名称



ガイド表示について

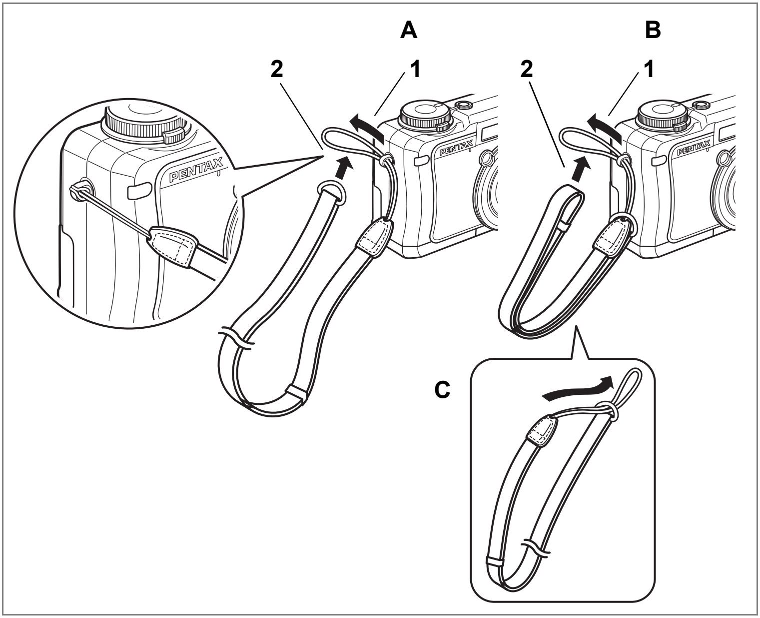
操作中は液晶モニタにボタン操作のガイドが表示されます。
ガイド表示では、ボタンは次のように表されます。

十字キー（▲）	▲
十字キー（▼）	▼
十字キー（◀）	◀
十字キー（▶）	▶
MENUボタン	MENU
シャッターボタン	SHUTTER
Fnボタン	Fn

ズーム/ /Q ボタン トリミング指定時	Q
DPOFボタン	DP
ボタン	
ボタン	
OKボタン	OK
フロントレバー	

ストラップを取り付ける

付属のストラップ（O-ST17）は、そのままカメラに取り付けると、首から下げられるネックストラップになります。また短く折りたたんでから取り付けて、コンパクトなハンドストラップとして使うこともできます。



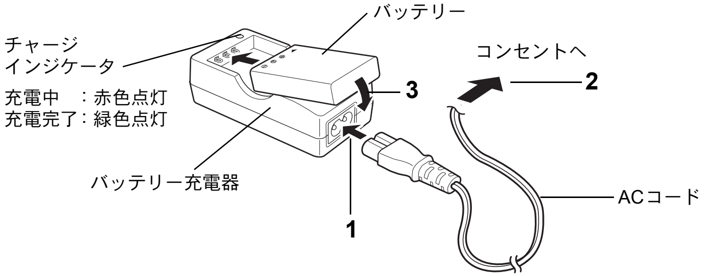
1　ストラップの細いひもの部分を、本体のストラップ取り付け部に通す

2　ストラップ端を細いひもの輪にくぐらせて引き締める

ストラップを短くして使うには

図のCのように細いひもの部分をストラップ端の金具にくぐらせると、短いハンドストラップになります。短くしたストラップは、Bの手順でカメラに取り付けます。

電源を準備する



バッテリーを充電する

はじめてご使用になるときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、バッテリーを充電してください。

1　バッテリー充電器D-BC7にACコードを接続する

2　ACコードをコンセントに差し込む

3　バッテリーをラベルが上向きになるようにセットする

充電中はチャージインジケータが赤色に点灯します。
充電が完了すると、チャージインジケータが緑色に点灯します。

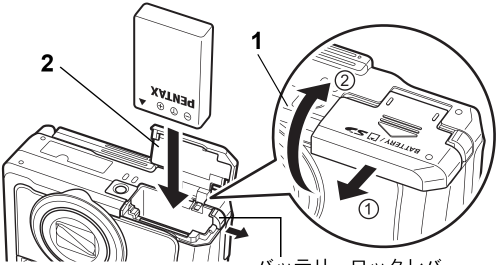
4　充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り出す

メモ

- 充電時間は、最大で約180分です。周囲の温度が0℃～40℃の範囲で充電してください。（周囲の温度や充電状態によって異なります。）
- 正しく充電しても使用できる時間が短くなったらバッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

注意

- 付属のバッテリー充電器キットK-BC7Jでは、専用の充電式リチウムイオンバッテリー D-LI7以外のバッテリーは充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- バッテリーを正しい向きにセットしてもインジケータランプが点灯しない場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーと交換してください。



バッテリーをセットする

同梱のバッテリーをセットします。はじめてご使用になるときは、バッテリーを充電してからセットしてください。

1　バッテリー／カードカバーを開ける

①の方向に引き出してから②の方向に引き上げます。

2　バッテリーの▲マークをカメラのレンズ側に向け、バッテリーの側面でバッテリーロックレバーを矢印の方向に押しながら挿入する

ロックされるまでバッテリーを挿入してください。

3　バッテリー／カードカバーを閉じる

バッテリーを取り出す

1　バッテリー／カードカバーを開ける

2　バッテリーロックレバーをバッテリー挿入時と同じ方向に押す

バッテリーが少し飛び出すので、引き抜いてください。

メモ　長時間連続してご使用になるときは、ACアダプタキットK-AC7J（別売）をご使用ください。(☞p.17)

注意

- 充電式リチウムイオンバッテリー D-LI7が、このカメラの専用バッテリーです。他のバッテリーを使用すると、カメラが破損し作動しなくなることがあります。
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると故障の原因になります。
- 電源スイッチがオンのときはバッテリーを取り出さないでください。
- カメラを長時間使用しない場合はバッテリーを取り出した状態で保管してください。
- バッテリーを長時間取り出していると、日時の設定がリセットされることがあります。

• 撮影可能枚数、撮影可能時間と再生時間の目安
（23℃・液晶モニタ点灯・専用バッテリー D-LI7フル充電時）

静止画撮影枚数（ストロボ使用率50％）	再生時間
約245枚	約4時間30分

- 静止画撮影枚数はCIPA規格に準じた測定条件、再生時間については当社の測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

メモ

- 使用環境の温度が下がると、バッテリーの性能が低下することがあります。
- 海外旅行など長期のおでかけ、寒冷地で撮影する場合や、大量に撮影する場合は、予備のバッテリーをご用意ください。

• バッテリーの残量表示

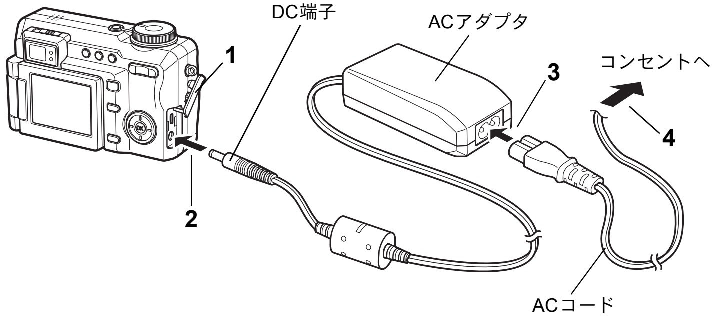
液晶モニタに表示されたで、バッテリーの残量を確認できます。

画面表示	バッテリーの状態
（緑）	バッテリーがまだ十分に残っています。
（緑）	少し減っています。
（黄）	だいぶ減っています。
（赤）	残量がほとんどありません。
「電池容量がなくなりました」	メッセージ表示後、電源がオフとなります。

● リサイクルについて

Li-ion

このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。ご使用済みの小型充電式電池を廃棄するときは、端子部に絶縁テープをはって、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



ACアダプタを使用する

長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、ACアダプタキットK-AC7J（別売）のご使用をおすすめします。

1 カメラの電源が切れていることを確認してから、端子カバーを開ける

2 ACアダプタのDC端子を、カメラのDC入力端子に接続する

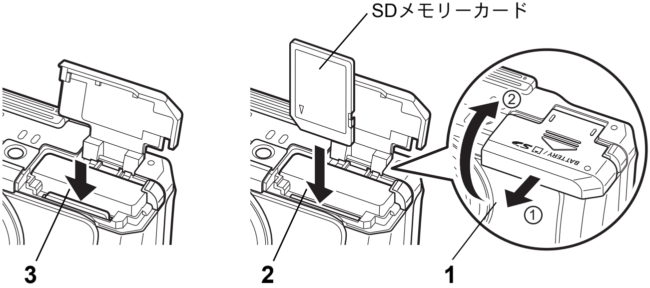
3 ACコードをACアダプタに接続する

4 電源プラグをコンセントに差し込む

注意

- AC アダプタの接続やとり外しは、必ずカメラの電源が切れた状態で行ってください。
- 電源および接続ケーブルはしっかりと差し込んでください。記録中にケーブルが外れると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプタを使用する場合は、火災や感電に十分ご注意ください。ご使用の前に、必ず「ご注意ください」（p.1）をお読みください。
- ACアダプタをご使用になるときは、ACアダプタキットK-AC7Jの使用説明書をあわせてご覧ください。
- AC アダプタを接続しても、カメラ内のバッテリーを充電することはできません。

SDメモリーカードをセットする



このカメラで使用できるカードは、SDメモリーカードです。撮影した画像や録音した音声は、SDメモリーカードに記録されます。
SDメモリーカードをセットするときや取り出すときは、必ず電源をオフにしてください。

1　バッテリー／カードカバーを開ける

①の方向に引き出してから②の方向に引き上げます。

2　SDメモリーカードのラベル面をレンズ側に向け、カチッと音がするまでしっかり押し込む

カードがしっかり入っていないと、画像や音声が正常に記録されないことがあります。

3　バッテリー／カードカバーを閉じる

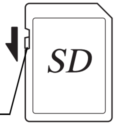
カードを取り出すときは、いったんカードを押し込んでください。カードが少し飛び出すので、引き抜いてください。

メモ

- 撮影できる画像の枚数は、使用するSDメモリーカードの容量と画像の記録サイズ、画質によって異なります。(☞p.21)
- SDメモリーカードにアクセス中（データの記録や読み出し中）は、ステータスランプとストロボランプが点滅します。

SDメモリーカード使用上の注意

- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録、消去またはカードのフォーマットをすることが禁止され、それまで保存したデータが保護されます。
液晶モニタでは🔒と表示されます。



ライトプロテクトスイッチ

- カメラ使用直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- SDメモリーカードへのデータ記録中や、画像・音声の再生中、またはUSBケーブルでパソコンと接続中には、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- 未使用または他のカメラで使用したカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。フォーマットについては「SDメモリーカードをフォーマットする」（p.150）をご覧ください。
- SDメモリーカードのフォーマット中には絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で消去される場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間カードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードにデータ記録中、またはデータ読み出し中にカードを取り出したり、ACアダプタやバッテリーを抜いたとき
- SDメモリーカードには寿命があります。長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や、保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。
- 一部の書込み速度の遅いSDメモリーカードでは、カードに空き容量があっても動画撮影時に途中で撮影が終了したり、撮影、再生時に動作が遅くなる場合があります。
- SDメモリーカードご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。

静止画の記録サイズと画質

画像の記録サイズと画質は、画像の用途に応じて設定します。
記録サイズの数値や画質の★の数は、多くなるほどプリントした時に鮮明な画像が得られますが、画像の容量が増えるので撮影できる枚数は少なくなります。
ただし、写真のきれいさには画質や、露出制御、使用するプリンタの解像度なども関係してきますので、むやみに大きくする必要はありません。
はがきサイズにプリントする場合は1024×768程度で十分です。
「4:3」はデジタルカメラで撮影した画像の通常の横縦比です。「3:2」を選ぶと、フチなし印刷したときに被写体の一部が切れる失敗を少なくすることができます。

● 選べる記録サイズと適した用途

画像の横縦比		用途
4:3	3:2	
3056×2296	3056×2040	↑ 高画質、大型プリント、画像加工用
2592×1944	2592×1728	
2048×1536	2048×1368	きれい
1600×1200	1600×1064	
1024×768	1024×680	はがきサイズプリント用
640×480	640×424	ホームページ掲載、電子メール添付用

初期設定では、横縦比4:3の3056×2296が選択されています。

● 選べる画質と適した用途

TIFF		画像を非圧縮データ（TIFF形式）として記録します。同梱のソフトウェアACDSeeなどで画像を加工するのに適しています。記録サイズ3056×2296、2592×1944でのみ指定できます。
★★★	S.ファイン	圧縮率が最も低く、写真用のプリントなどに適しています。
★★	ファイン	圧縮率が標準で、パソコンの画面で画像を見るときに適しています。
★	エコノミー	圧縮率が最も高く、電子メールへの添付やホームページ作成用に適しています。

初期設定では、★★が選択されています。

静止画の記録サイズと画質の設定は、「撮影」メニューで行います。

記録サイズを選択する☞p.91

画質を選択する☞p.93

● 記録サイズ／画質と撮影可能枚数の目安

画質 / 記録サイズ(4:3)	TIFF	★★★ S.ファイン	★★ ファイン	★ エコノミー
3056×2296	約2枚	約15枚	約30枚	約47枚
2592×1944	約4枚	約22枚	約44枚	約67枚
2048×1536	—	約34枚	約67枚	約101枚
1600×1200	—	約56枚	約110枚	約149枚
1024×768	—	約121枚	約215枚	約298枚
640×480	—	約258枚	約352枚	約484枚

画質 / 記録サイズ(3:2)	TIFF	★★★ S.ファイン	★★ ファイン	★ エコノミー
3056×2040	—	約17枚	約34枚	約56枚
2592×1728	—	約24枚	約47枚	約75枚
2048×1368	—	約38枚	約75枚	約121枚
1600×1064	—	約61枚	約121枚	約184枚
1024×680	—	約149枚	約242枚	約322枚
640×424	—	約298枚	約387枚	約484枚

- この表の数値は、64MBのSDメモリーカードを使用した場合の枚数です。
- この数値は、CIPA規格に準じた測定条件による目安です。被写体、撮影状況、撮影モード、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。

動画の記録サイズと画質

動画の記録サイズと画質は、動画の用途に応じて設定します。
記録サイズの数値は画像の解像度を示します。数値が大きいほどきめの細かい画質になりますが、ファイルサイズは大きくなります。
フレームレートは、1秒間に更新される画像の数を示します。フレーム数が多ければ滑らかな動きになりますがファイルサイズは大きくなります。
動画の記録サイズと画質の設定は「撮影」の動画メニューで行います。

動画の記録サイズを選択する☞p.111

フレームレートを選択する☞p.113

● 選べる記録サイズと適した用途

640×480	VGAサイズで高画質な動画を楽しめます。ただし記録時間は短くなります。
320×240	記録時間は長くなりますが、画像のサイズは小さくなります。

初期設定では、640×480が選択されています。

● 選べるフレームレートと適した用途（フレーム／秒）

30fps	動きの滑らかな動画で記録されます。記録時間は短くなります。
15fps	画像の容量が小さくなるため、記録時間が長くなります。

初期設定では、15フレーム／秒（fps）が選択されています。

● 記録サイズ／フレームレートと撮影可能時間の目安

フレームレート / 記録サイズ	30fps	15fps	音声
640×480	約50秒	約1分50秒	約2時間12分
320×240	約1分30秒	約2分50秒	

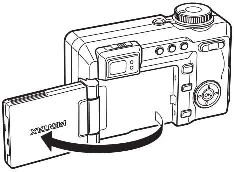
- この表の数値は64MBのSDメモリーカードを使用した場合の数値です。
- この数値は、当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。

液晶モニタを調整する

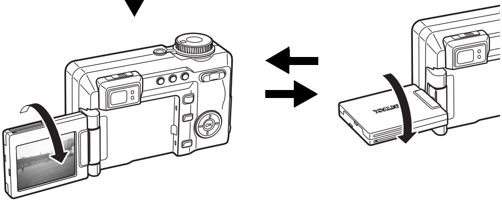
液晶モニタは横方向に180度、縦方向に270度回転させることができます。
セルフポートレートモードでの自分撮りや、低い位置での撮影、頭上での撮影などを楽に行えます。

注意　液晶モニタを回転させるときは、無理な力をかけないようご注意ください。

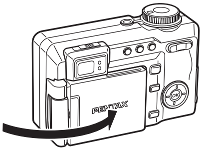
開く
液晶モニタの右端に指をかけて開きます。



回転する
レンズ側から下向きまで、270度回転できます。

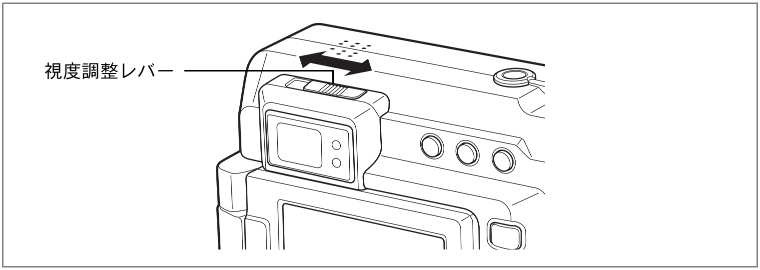


閉じる
液晶モニタを保護するために、使用しないときはたたんで収納してください。



メモ　セルフポートレートなど、液晶モニタをレンズ側に向けて撮影するときは、液晶モニタには被写体が鏡に映ったような状態（鏡像）で表示されますが、撮影画像はレンズの後ろ側から見た状態（正像）で記録されます。

ファインダーの視度を調整する

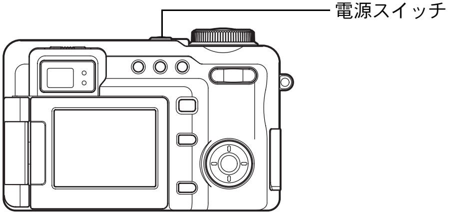


撮影者の視力に合わせて、ファインダーの度数を調整することができます。ファインダー内の表示が見えにくいときは、視度調整レバーを左右に動かして、見やすい位置に調整してください。
視度は、$-3m^{-1}$～$+1m^{-1}$の範囲で調整できます。

1　カメラを明るい方に向けて、ファインダーをのぞきながら、視度調整レバーを左右に動かす

カレンダーの文字など、輪郭のはっきりしたものに向けて合わせると、調整がしやすくなります。

電源をオン／オフする



1 電源スイッチを押す

電源がオンになります。
レンズカバーが開き、レンズが繰り出されます。
カメラの電源を入れたときに、「初期設定」あるいは「日時設定」の画面が表示された場合は、p.27の手順に従って設定を行ってください。

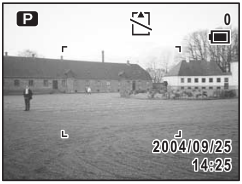
2 もう一度電源スイッチを押す

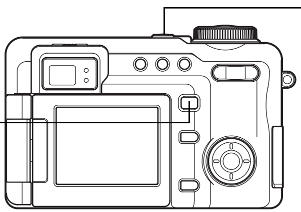
電源がオフになり、電源スイッチが消灯します。

撮影する☞p.48

カードチェック

電源をオンにすると、カードチェックが自動的に行われます。SDメモリーカードがセットされていないと、液晶モニタに が表示されます。
またSDメモリーカードのライトプロテクトスイッチがLOCKになっていると、 のかわりに が表示されます。ロック状態では画像や音声の記録はできません。





再生専用モード

再生専用モードは、画像を続けて再生するときに使用します。
シャッターボタンなどを押しても、撮影モードには移行しません。

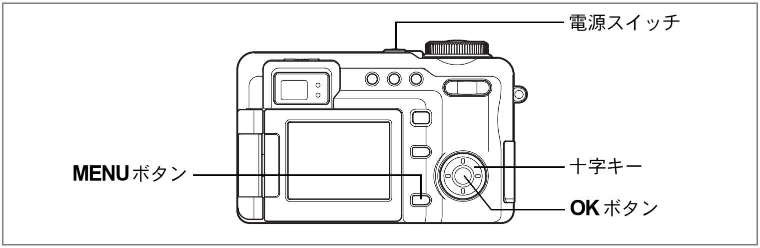
1　▶ボタンを押しながら、電源スイッチを押す

再生専用モードで起動します。レンズは収納されたままで繰り出されません。

メモ
- 再生専用モードから撮影モードへ切り替えるには、いったん電源をオフにしてから、もう一度オンにしてください。
- 撮影モードで、▶ ボタンを2秒以上押すと、再生モードに切り替わり、レンズが収納されます。再生専用モードと異なり、もう一度▶ボタンやシャッターボタンを押す、またはモードダイヤルを回すと撮影モードになります。

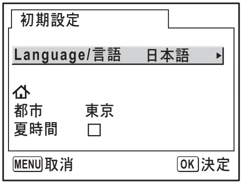
静止画を再生する☞p.116

初期設定をする



カメラの電源を入れたときに、以下のような画面が表示されたら、
☞の手順に従って初期設定をしてください。

初期設定の画面が表示された場合



☞p.28「言語を設定する」
☞p.29「日時を設定する」

日時設定の画面が表示された場合



☞p.29「日時を設定する」

上記のような画面が表示されない場合は、初期設定をする必要はありません。

言語を設定する

使用する言語を日本語に設定します。

1　十字キー（▶）を押す

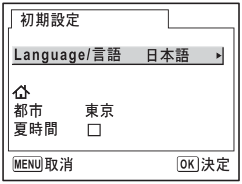
Language/言語 画面が表示されます

2　十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ



3　OK ボタンを押す

「日本語」を選んだときに「都市」、「夏時間」が右図のように表示されていたら、手順8に進んでください。



4　十字キー（▼）を押す

選択枠が「都市」に移動します。

5　十字キー（◀▶）を押して、「東京」を表示させる

6　十字キー（▼）を押す

選択枠が「夏時間」に移動します。

7　十字キー（◀▶）を押して、□（オフ）に設定する

8　OK ボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付、時刻を設定します。

1　十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。

2　十字キー（▲▼）を押して、日付の表示スタイルを設定する



3　十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

4　十字キー（▲▼）を押して、24h（24時間表示）または12h（12時間表示）を設定する

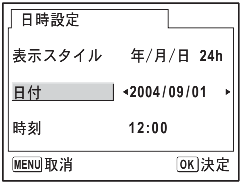


5　十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

6　十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。



7　十字キー（▶）を押す

選択枠が「西暦年」に移動します。

8　十字キー（▲▼）を押して、西暦年を設定する

同様に「月」「日」を設定します。
続いて時刻欄を設定します。
手順4で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。



9　OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。メニュー操作で設定した場合は「🔧詳細設定」メニュー画面に戻りますので、もう一度**OK** ボタンを押してください。

メモ

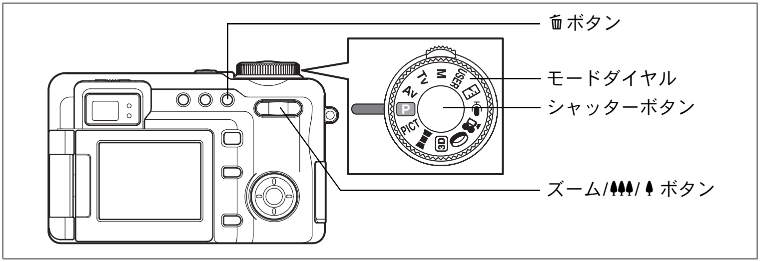
- 日時の設定終了後、**OK** ボタンを押すと、0秒にセットされます。
- 時報に合わせて**OK** ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定が行えます。

注意

- 初期設定の途中で **MENU** ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされますが、撮影することはできます。この場合は、次回電源を入れたときに再度、初期設定を行う画面が表示されます。
- 設定した言語や日時はメニュー操作で変更することができます。(☞p.151、p.155)

メモ

静止画を撮影する



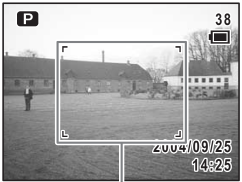
最も標準的な撮影方法を説明します。ストロボは、明るさに応じて自動的に発光します。

1 電源スイッチを押す

電源がオンになります。

2 モードダイヤルをⓅに合わせる

3 液晶モニタを見る



フォーカスフレーム

液晶モニタの中央でフォーカスフレームの中が、自動でピントが合う範囲です。
ズーム/ / ボタンを左右に押すと、被写体の写る範囲が変わります。

：被写体を拡大して写す

：被写体を広い範囲で写す

ファインダーをのぞいて写る範囲を確認することもできます。

注意

ファインダー内では、画面の横縦比は、設定にかかわらず常に4:3で表示されます。横縦比を3:2に設定して撮影する場合は、必ず液晶モニタで確認してください。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。
撮影した画像は液晶モニタに2秒間表示（クイックビュー）された後、SDメモリーカードに保存されます。（☞p.34）
SDメモリーカードに保存中はファインダー横の緑と赤のランプが交互に点滅します。

メモ：フォーカスフレームはファインダー内には表示されません。ピントを合わせる範囲は、必ず液晶モニタで確認してください。

シャッターボタンの押しかた

シャッターボタンは「半押し」と「全押し」の2段階になっています。

半押し

シャッターボタンを軽く押した状態です。ピント位置、露出、ホワイトバランスがロックされます。シャッター速度、絞り値は、シャッターボタンを半押ししたときだけ表示されます。半押しのとき、液晶モニタやステータスランプ、ストロボランプは次のような情報を表します。

1. フォーカスフレーム

ピントが合うと緑色の枠が点灯します。ピントが合っていないときは、枠が表示されません。

2. ステータスランプとストロボランプ

	ステータスランプ（緑）	ストロボランプ（赤）
点灯	ピントが合ったとき	ストロボ充電完了
点滅	ピントが合わないとき	ストロボ充電中

全押し

シャッターボタンを下まで押した状態です。撮影が行われます。

[ピント合わせの苦手な条件]

写したいものが下の例のような条件にある場合は、ピントが合わないことがあります。こんなときはいったん撮りたいものと同じ距離にあるものにピントを固定（シャッターボタン半押し）し、その後構図を撮りたい位置に戻してシャッターを切ります。

- 青空や白壁など極端にコントラストが低いもの
- 暗い場所、あるいは真っ暗なものなど、光の反射しにくい条件
- 細かい模様の場合
- 非常に速い速度で移動しているもの
- 遠近のものが同時に存在する場合
- 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい場合）

注意

AF補助光について

暗いところでのオートフォーカス処理では、被写体に対してAF補助光が照射されることがあります。

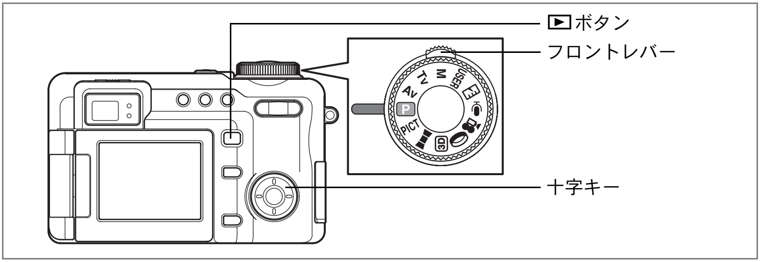
本製品のAF補助光は、LEDに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1に適合しています。AF補助光を直接見ても安全上の問題はありませんが、多少まぶしい感じがしますので、発光部を至近距離から直接のぞきこむことは避けてください。

クイックビュー

撮影直後には、撮影した画像が液晶モニタに2秒間表示（クイックビュー）されます。クイックビューの表示時間は変更できます。（☞p.102）

クイックビュー中に🗑ボタンを押すと、画像を消去できます。

静止画を再生する



画像を再生する

画像を再生します。

1　撮影後に▶ボタンを押す

撮影した画像が液晶モニタに表示されます。この状態を再生モードと呼びます。もう一度▶ボタンを押すか、シャッターボタンを押す、またはモードダイヤルを回すと、撮影できるようになります。



レンズを収納した状態で再生する

続けて再生をする場合は、レンズを収納した状態での使用をおすすめします。

1　撮影後に▶ボタンを2秒以上押し続ける

画面が再生モードに切り替わり、レンズが収納されます。
もう一度▶ボタンを押すか、シャッターボタンを押す、またはモードダイヤルを回すと、撮影できるようになります。

- 画像が保存されていないときは、「画像・音声がありません」と表示されます。
- 再生画像は、ズーム/⊞/🔍ボタンで拡大して見ることができます。(☞p.119)
- パソコンを使って再生する方法については、別冊『PC活用編 デジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむには』を参照してください。

前後の画像を再生する

静止画を前後に1枚ずつ送って再生します。

1 撮影後に▶ボタンを押す

撮影した画像が液晶モニタに表示されます。

2 フロントレバーを左右に押す または、十字キー（◀▶）を押す

前後の画像が表示されます。

表示された画像を回転表示する

1 撮影後に▶ボタンを押す

撮影した画像が液晶モニタに表示されます。

2 十字キー（▼）を押す

1回押すごとに、画像が時計回りに90度ずつ回転して表示されます。



3 OKボタンまたはMENUボタンを押す

もとの表示に戻ります。

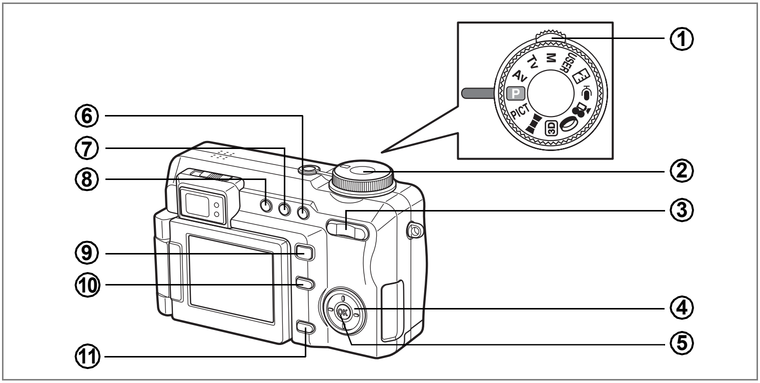
- 9画面表示では、回転させた画像も撮影時の方向で再生されます。
- 動画は回転表示できません。

表示した画像を消去するには

画像表示中に 🗑 ボタンを押すと、消去画面が表示されます。十字キー（▲）を押して「消去」を選び**OK**ボタンを押すと、この画像を消去することができます。（☞p.127）



ボタンの機能を使用する



撮影モード時

① フロントレバー

露出を補正します。マニュアル露出モードでは使用できません。（☞p.52）
USERモードのFnガイド画面でUSERモードを選択します。

② シャッターボタン

半押しすると、ピント合わせを行います。（フォーカスモードが▲、MFのときを除く）（☞p.33）
全押しすると、静止画を撮影します。（☞p.33）
動画モードでは動画の撮影を開始、終了します。（☞p.109）
録音モードでは、録音を開始、終了します。（☞p.146）

③ ズーム/♠♠♠/♠ボタン

撮影する範囲を変えます。（☞p.57）
フォーカス方式がMFのときは、手動でピント合わせをします。

④ 十字キー

（▲▼）　Avモード、Mモードで絞り値を変更します。（☞p.50、p.52）
（◀▶）　Tvモード、Mモードでシャッター速度を変更します。（☞p.51、p.52）
（▲▼◀▶）　PICTモードでピクチャーモードを切り替えます。（☞p.55）

（▲▼◀▶） Fnガイド画面では割り付けた機能を呼び出します。（☞p.164）

⑤ OK ボタン

液晶モニタに表示される撮影情報を切り替えます。（☞p.81）

⑥ 🌷▲MF ボタン

フォーカス方式を選択します。（☞p.84）
無印（オートフォーカス）→ 🌷（マクロ）→ s🌷（スーパーマクロ）→ ▲（無限遠）→ MF（マニュアルフォーカス）→ ▦（AFエリア移動）

⑦ ⏲▯⧉ ボタン

ドライブモードを選択します。（☞p.60～p.73）
無印（1枚撮影）→ ⧉（連続撮影）→
⏲（セルフタイマー）または ⏲2s（2秒セルフタイマー）→
⧉（オートブラケット）→ ⧉（インターバル撮影）→
⧉（多重露出）→ ▯（リモコン）または ▯3s（3秒後リモコン）

⑧ ⚡ ボタン

ストロボの発光方法を切り替えます。（☞p.87）
無印（オート発光）→ ⊘（発光禁止）→ ⚡（強制発光）→
◉A（オート＋赤目軽減）→ ◉⚡（強制発光＋赤目軽減）

⑨ ▶ ボタン

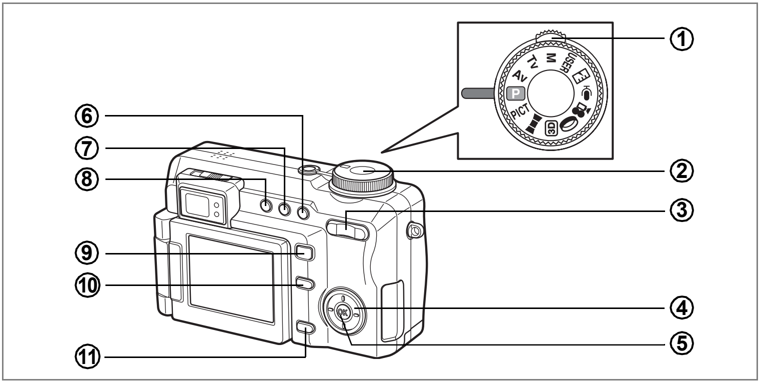
再生モードに切り替えます。（☞p.35）

⑩ Fnボタン

Fnガイド画面を表示します。続いて押すボタンや十字キー（▲▼◀▶）によって動作が決まります。十字キーにはあらかじめ機能を設定しておきます。（☞p.164）

⑪ MENUボタン

「📷撮影」メニュー画面を表示します。（☞p.42）



再生モード時

① フロントレバー

1画面表示時は、次の画像、前の画像を表示します。
9画面表示時は、次の9画面、前の9画面を表示します。
フォルダ表示時は、次の9フォルダ、前の9フォルダを表示します。

② シャッターボタン

半押し、または全押しすると撮影モードに切り替わります。（☞p.32）

③ ズーム/⊞/Q ボタン

1画面表示時に⊞を押すと9画像表示に、もう1度⊞を押すとフォルダ表示になります。Qを押すと、前の表示に戻ります。（☞p.117）
1画面表示時にQを押すと画像が拡大表示されます。⊞を押すと戻ります。（☞p.119）

④ 十字キー

（▲）	動画・音声を再生／一時停止します。（☞p.125）
（◀▶）	1画面表示の場合、前後の画像を表示します。（☞p.36） 動画表示の場合、コマ送り、コマ戻し、早送り、巻き戻しをします。（☞p.125） 音声再生の場合、早送り、巻き戻しをします。（☞p.147）
（▼）	画像を回転して表示します。（☞p.36） 再生中の動画・音声を停止します。（☞p.125、p.147）
（▲▼◀▶）	拡大表示時には、表示範囲を移動します。（☞p.119） 9画面表示時、フォルダ表示時には、画像またはフォルダを選択します。（☞p.117）

⑤ OK ボタン
液晶モニタに表示される情報を切り替えます。（☞p.121）
9画面表示時は、選択消去のためのチェックボックスをオン／オフします。（☞p.129）

⑥ 🗑 ボタン
再生中の画像を消去します。（☞p.127）

⑦ DPOF ボタン
プリントサービスのためのDPOF設定をします。（☞p.139）

⑧ O┳ ボタン
画像を消去できないようにします。（☞p.131）

⑨ ▶ ボタン
1画面表示時は、撮影モードに切り替えます。（☞p.35）
拡大表示、回転表示、9画面表示時は、1画面表示に戻ります。（☞p.117）
フォルダ表示時は、選択フォルダの9画面表示に変わります。（☞p.118）

⑩ Fn ボタン
静止画にボイスメモを録音します。（☞p.148）

⑪ MENU ボタン
「▶ 再生」メニュー画面を表示します。（☞p.42）

MENUを設定する

MENU ボタンを押すと、液晶モニタにメニューが表示されます。メニューを使用して機能の設定や設定した内容をメモリ（保存）したり、カメラの設定を変更することができます。

メニューの基本操作

メニュー操作中は、使用するボタンやキーの機能が液晶モニタにガイド表示されます。

例）「◘撮影」メニューの「画質」の設定をする

1　撮影モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

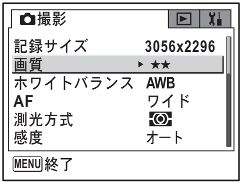


2　十字キー（▼）を押す

項目の選択に移動します。

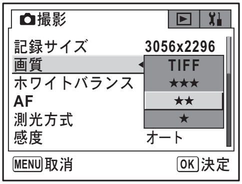
3　十字キー（▼）を押す

選択枠が「画質」に移動します。



4　十字キー（▶）を押す

選べる内容がポップアップで表示されます。
ポップアップには、現在のカメラの条件で選べる設定が表示されます。
例えばドライブモードが□などの場合、画質のポップアップには★★★、★★、★の3種類が表示され、選択できないTIFFは表示されません。



5　十字キー（▲▼）で設定を切り替える

十字キー（▲▼）を押すたびに、画質が切り替わります。

設定を保存して撮影をしたいとき

6　シャッターボタンを半押しするか、モードダイヤルを切り替える

設定が保存され、撮影できる状態になります。
全押しすると、設定を保存して撮影されます。

設定を保存して再生をしたいとき

6　▶ボタンを押す

設定が保存され、再生できる状態になります。

設定を保存して続いてメニュー操作をしたいとき

6　OKボタンまたは十字キー（◀）を押す

設定が保存され、手順3に戻ります。

変更を取り消してメニュー操作を続けたいとき

6　MENUボタンを押す

変更が取り消され、手順3に戻ります。

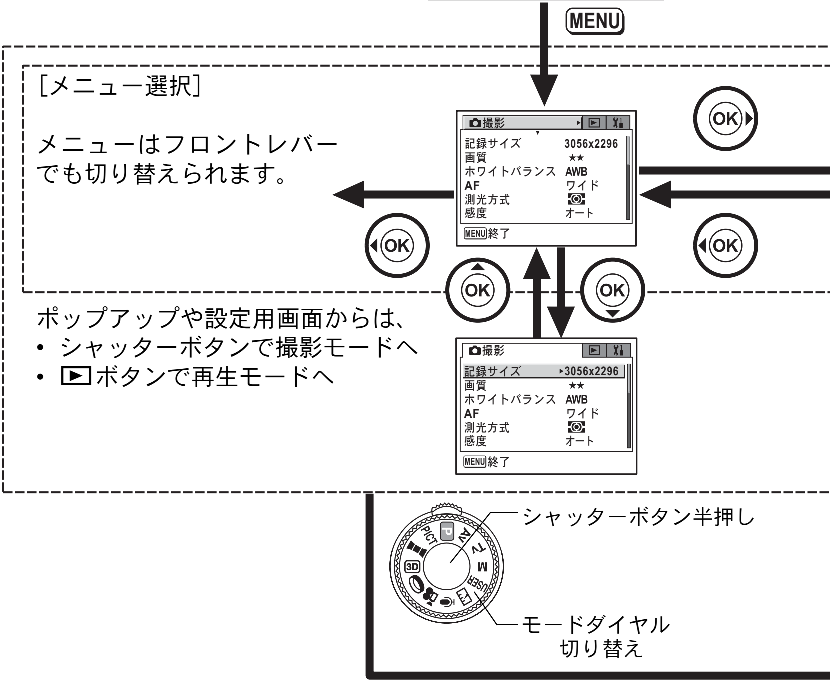
MENUボタンの機能は、画面によって異なります。ガイド表示を参照してください。

- MENU 終了 ：現在の設定を保存してメニュー操作を終了し、元の画面（撮影モード、または再生モード)に戻ります。
- MENU ↩ ：現在の設定を保存して、メインメニュー画面に戻ります。
- MENU 取消 ：現在の選択を保存せずにメニュー操作を終了し、元の画面（撮影モード、または再生モード）に戻ります。

メニュー操作の流れ

撮影中に**MENU**ボタンを押すと「📷撮影」メニューが表示されます。再生中に**MENU**ボタンを押すと「▶再生」メニューが表示されます。

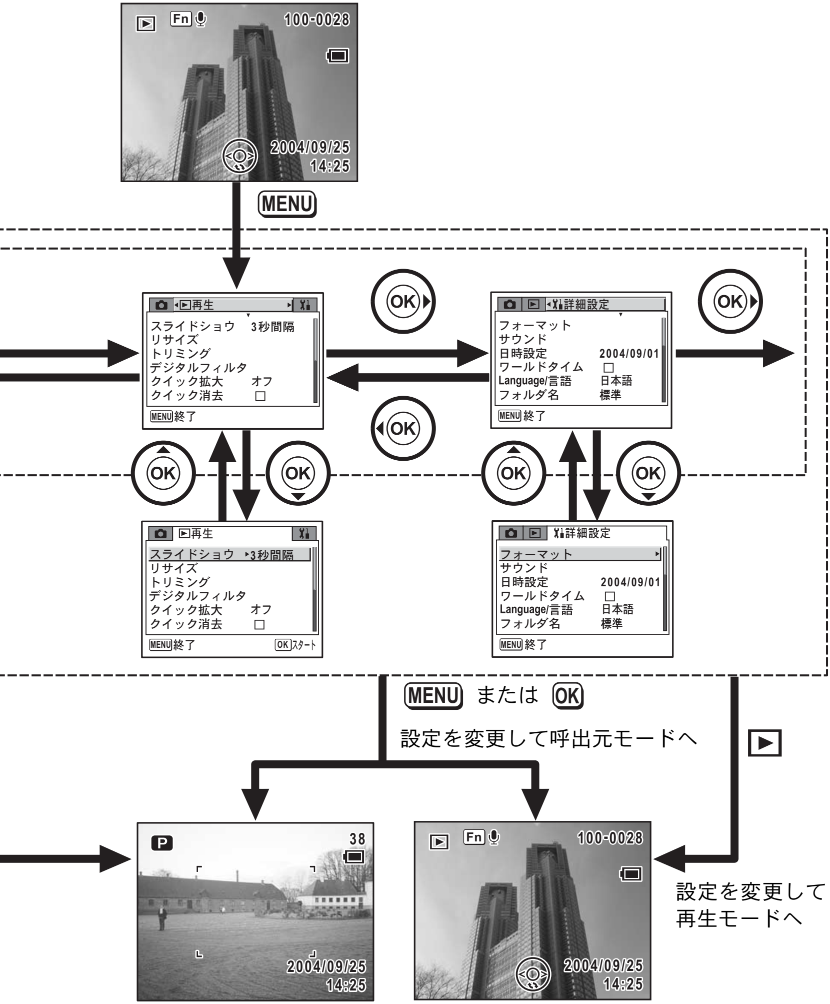




設定を変更して撮影モードへ

注意

- ポップアップを開いた状態で**OK**ボタンまたは十字キー（◀）を押すと、項目選択画面に戻ります。
- ポップアップを開いた状態で**MENU**ボタンを押すと、設定がキャンセルされます。



100-0028
2004/09/25
14:25
MENU
再生
スライドショウ 3秒間隔
リサイズ
トリミング
デジタルフィルタ
クイック拡大 オフ
クイック消去
MENU 終了
OK スタート
詳細設定
フォーマット
サウンド
日時設定 2004/09/01
ワールドタイム
Language/言語 日本語
フォルダ名 標準
OK
MENU または OK
設定を変更して呼出元モードへ
設定を変更して
再生モードへ
38

メニュー一覧

メニュー画面で設定できる項目とその内容を示します。カメラの電源をオフにしたとき設定を維持するかどうか、リセットしたときに初期設定値に復元するかどうかについては、付録の初期設定一覧（☞p.179）をご覧ください。

「📷撮影」メニュー

撮影に関するメニューです。

項目		内容	参照
記録サイズ		静止画像の画素数が選べます。	p.91
画質		静止画像の圧縮率が選べます。	p.93
ホワイトバランス		撮影時の光の状態に合わせて色を調整します。	p.95
AF	AFエリア	オートフォーカスの対象になる範囲を変更します。	p.97
	AFモード	オートフォーカスの方式を選びます。	p.97
	フォーカスリミット	レンズの移動範囲を状況に応じて制限します。	p.98
	AF補助光	被写体が暗くてオートフォーカスの苦手な条件で、AF補助光（赤橙）を投光します。	p.98
測光方式		露出を決定する測光方式を設定します。	p.100
感度		感度を設定します。	p.101
ストロボ光量補正		ストロボの発光光量を大きく、あるいは小さく調整します。	p.89
オートブラケット		撮影条件を自動で変えて撮影できます。	p.63
インターバル撮影		一定の間隔で一定枚数を連続して撮影できます。	p.66
動画	記録サイズ	動画の画素数が選べます。	p.111
	カラーモード	動画の色フィルタを選びます。	p.112
	フレームレート	フレームレート（1秒間に撮る画面数）を設定します。	p.113
	早送り動画	早送り動画撮影のフレームレートを設定します。	p.114
立体視法		3D写真の作成方法を設定します。	p.78
デジタルズーム		デジタルズーム撮影ができます。	p.58
クイックビュー		クイックビューの表示時間を設定します。	p.102
モードメモリ		電源オフ時に撮影機能の設定値をメモリするか、初期設定に戻すかを設定します。	p.107
画像仕上		画像の基本的な色調を設定します。	p.103
シャープネス		画像の輪郭をハードまたはソフトにします。	p.104
彩度		色の鮮やかさを設定します。	p.105
コントラスト		画像の明暗差を設定します。	p.106

「▶再生」メニュー

項目	内容	参照
スライドショウ	保存された画像を連続して再生します。	p.123
リサイズ	画像のサイズを変更します。	p.133
トリミング	画像周囲の不要な部分をカットします。	p.135
デジタルフィルタ	撮影した画像を赤、青、緑などのカラーフィルタを用いて加工します。	p.137
クイック拡大	ズーム/⊞/🔍ボタンを一度操作するだけで、画面を設定された倍率に拡大するように設定します。	p.120
クイック消去	オンに設定すると「消去」が選択された状態で消去画面が表示されます。	p.128
アラーム	決まった時刻に画像を表示しアラームを鳴らします。	p.166

「🔧詳細設定」メニュー

項目	内容	参照
フォーマット	SDメモリーカードをフォーマットします。	p.150
サウンド	音量、起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を設定します。	p.152
日時設定	日付、時刻、それぞれの表示スタイルを設定します。	p.151
ワールドタイム	ワールドタイムを設定します。	p.154
Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を切り替えます。	p.155
フォルダ名	フォルダ名を日付で設定することができます。	p.156
起動画面表示	カメラの電源を入れたときに起動画面として表示させる画像を設定します。	p.157
DISPLAY	液晶モニタに表示する情報を変更できます。	p.158
LCDの明るさ	液晶モニタの明るさを設定します。	p.159
ビデオ出力	テレビモニタへの出力方式を設定します。	p.160
USB接続	USB接続モードを変更します。	p.161
スリープ	節電機能を設定します。	p.162
オートパワーオフ	設定した時間で自動的に電源が切れるようにします。	p.163
Fn設定	十字キーに機能を設定します。	p.164
USER設定	よく使う撮影モードや機能をあらかじめ登録、保存します。	p.53
リセット	日時、言語、ワールドタイム以外の設定をご購入時の状態に戻します。	p.163

撮影する

撮影モードを選ぶ

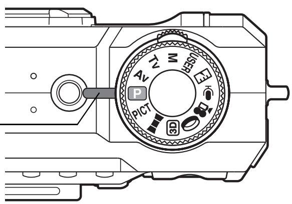
簡単にきれいな写真が撮れるカメラにお任せの撮影モードや、個性的な写真が取れるマニュアル設定モードなど、さまざまな撮影モードがあります。

撮影モード

PICT	ピクチャーモード	12種類のピクチャーモードが用意されています。撮影するシーンに合わせて、カメラが最適な露出、ホワイトバランスなどを設定します。手軽にイメージ通りの撮影ができます。	p.55
P	プログラムモード	一般的な撮影にむいています。カメラのさまざまな機能を駆使して撮影を楽しめます。	p.49
Av	絞り優先モード	絞り値はマニュアルで設定し、シャッター速度はカメラが自動的に設定して撮影するモードです。	p.50
Tv	シャッター優先モード	シャッター速度はマニュアルで設定し、絞り値はカメラが自動的に設定して撮影するモードです。	p.51
M	露出マニュアルモード	シャッター速度と絞り値を手動で設定して撮影するモードです。	p.52
USER	ユーザーモード	あらかじめユーザーモードに登録しておいた機能や設定で撮影をすることができます。	p.53
	動画モード	音声付きで動画を撮影します。	p.109
	デジタルフィルタモード	デジタルフィルタをかけて雰囲気のある画像を撮影できます。	p.74
3D	3D写真モード	3D画像を撮影します。	p.77
	パノラマアシストモード	付属のソフトウェアを使ってパノラマ写真合成をするために、画像の端と端を重ねるように撮影できます。	p.75

1 モードダイヤルを回して、ダイヤル指標にアイコンを合わせる

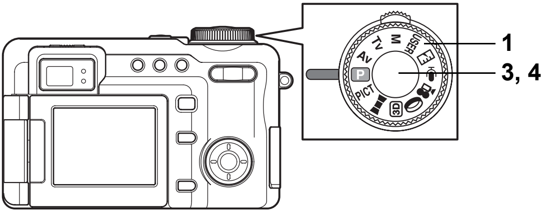
ダイヤル指標



メモ

- は音声を録音するモードです。（☞p.146）
- はカメラをデジタル露出計として使用するモードです。（☞p.169）

4 撮影



[P]

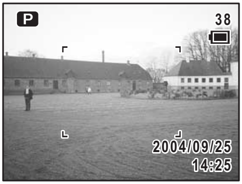
露出をカメラにまかせて撮影する（プログラムモード）

[P]（プログラムモード）では、シャッター速度と絞り値をカメラが自動的に設定して撮影します。ストロボの発光方式や連続撮影などその他の機能は自由に設定できます。

1 モードダイヤルを[P]に合わせる

2 使用する機能を設定する

機能の設定のしかたは、「撮影のための機能を設定する」（p.84～p.106）をご覧ください。



3 シャッターボタンを半押しする

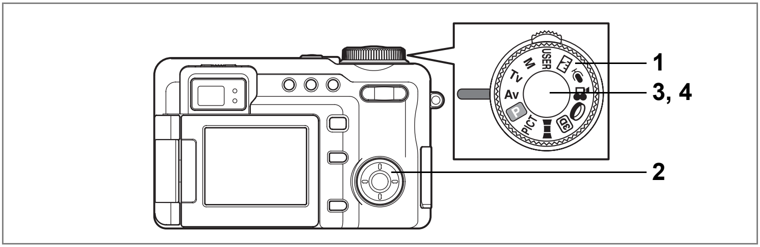
ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。
合焦すると、絞り値とシャッター速度が表示されます。

4 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

メモ　フロントレバーを操作すると、露出補正ができます。（☞p.59）

静止画を撮影する☞p.32



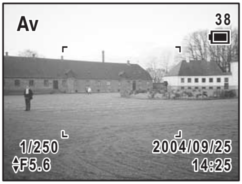
絞り優先で撮影する

絞り値を設定して撮影します。シャッター速度は、設定した絞り値にあわせて適正な露出になるように、カメラが自動的に設定します。絞り値を小さくすると背景が大きくぼけて、絞り値を大きくすると手前から奥までピントが合っているように見えます。ピントが合って見える幅（被写界深度）を意図的に変えて撮影したい場合に、この機能を使います。

1　モードダイヤルをAvに合わせる

2　十字キー（▲▼）で絞り値を選ぶ

十字キー（▲）を押すと開放、十字キー（▼）を押すと絞り込みになります。



3　シャッターボタンを半押しする

シャッター速度が適正な値に調節されます。

適正露出にならない場合、シャッター速度表示が赤色になります。

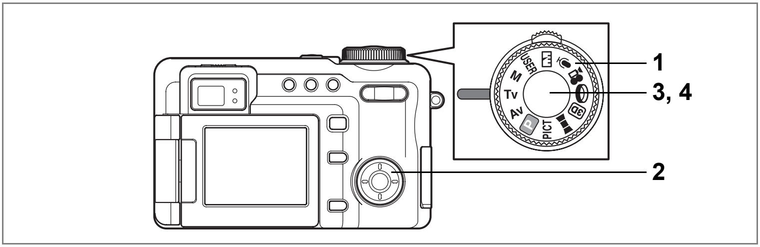
ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

4　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

メモ

遅いシャッター速度での撮影では、撮影後に画像からノイズを取り除く機能が働くため、記録時間が長くなります。



Tv

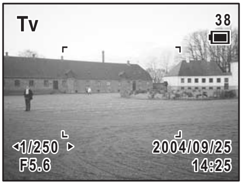
シャッター速度優先で撮影する

シャッター速度を設定して撮影します。絞り値は、設定したシャッター速度にあわせて適正な露出になるように、カメラが自動的に設定します。動きのある被写体を遅いシャッター速度で動きを強調する、あるいは手ぶれを防ぐために薄暗くても早いシャッター速度を選ぶなどの場合に使用します。

1　モードダイヤルをTvに合わせる

2　十字キー（◀▶）でシャッター速度を選ぶ

十字キー（▶）を押すと低速側に、十字キー（◀）を押すと高速側になります。



3　シャッターボタンを半押しする

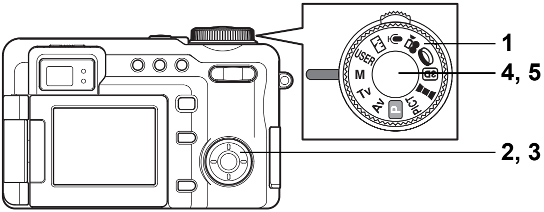
絞り値が適正な値に調節されます。
適正露出にならない場合、絞り値表示が赤色になります。
ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

4　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

メモ

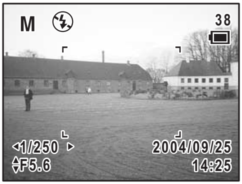
- 遅いシャッター速度での撮影では、撮影後に画像からノイズを取り除く機能が働くため、記録時間が長くなります。
- Tvモードでマニュアル設定できるシャッター速度は高速側で約1/1000秒までです。（オート設定の場合は高速側約1/2000秒）
- 設定したシャッター速度は次回Tvモード、Mモードを起動したときに、初期設定として表示されます。



M

マニュアル露出設定で撮影する

シャッター速度も絞り値も、撮影者が自由にセットして撮影します。個性的な写真を撮影したい場合にこの機能を使います。



1　モードダイヤルをMに合わせる

2　十字キー（▲▼）で絞り値を選ぶ

十字キー（▲）を押すと開放、十字キー（▼）を押すと絞り込みになります。

3　十字キー（◀▶）でシャッター速度を選ぶ

十字キー（▶）を押すと低速側に、十字キー（◀）を押すと高速側になります。
露出が適正でない場合、過不足分を露出バーに表示します。

4　シャッターボタンを半押しする

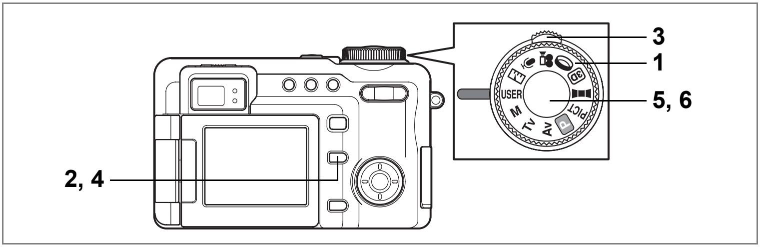
ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

メモ

- 遅いシャッター速度での撮影では、撮影後に画像からノイズを取り除く機能が働くため、記録時間が長くなります。
- **M**モードでは、ストロボのオート、または（オート+赤目軽減）は選択できません。
- **M**モードではフロントレバーでの露出調整はできません。



USER

好みの機能を登録して撮影する（ユーザーモード）

よく使う撮影モードや機能をあらかじめ登録できます。モードダイヤルを USER に合わせると、登録しておいたお好みの設定ですぐに撮影することができます。
USER1、USER2、USER3の 3 通りの設定が登録できます。（☞p.54）

1 モードダイヤルを USER に合わせる

画面左上に、現在のUSERモードが表示されます。このまま撮影する場合は、手順5に進みます。



2 Fnボタンを押す

Fnガイド画面が表示されます。



3 フロントレバーを左右に押してUSERモードを切り替える

4 Fnボタンを押す

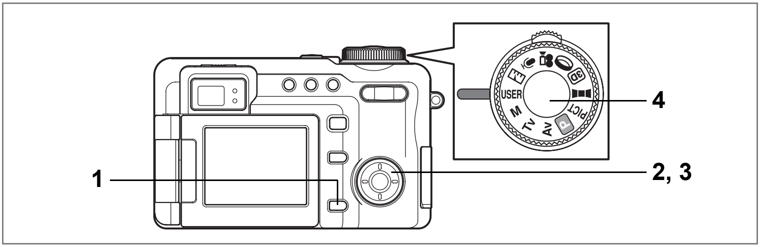
選んだUSERモードで、撮影できる状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6 シャッターボタンを全押しする

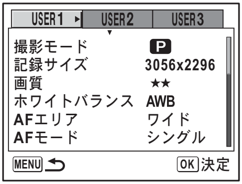
撮影されます。



USERモードに機能を登録するには

1　USERモードでMENUボタンを押す

USER設定画面が表示されます。USERモードに登録できる機能はp.182をご覧ください。



2　十字キー（◀▶）でUSER1～USER3を選ぶ

3　十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

各項目を好みの値に設定します。設定の仕方は、各項目をご覧ください。

4　シャッターボタンを半押しする

USER設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

メモ

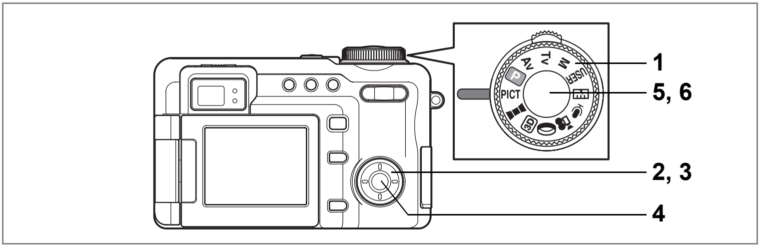
- 手順1のUSER設定画面は、「詳細設定」メニューから表示することもできます。
- 撮影モードは、P、M、Tv、Avの4種から選択します。その他の項目は通常のメニューと同様に設定します。

シーンにあわせた撮影をする（ピクチャーモード）

撮りたいシーンにあわせた設定で撮影します。

ピクチャーモードには、次の12のモードがあります。

	風景	木々の緑や青空などの輪郭や彩度を強調して鮮やかな色の画像に仕上げます。
	サーフ&スノー	晴天の海や湖、雪景色を明るく鮮やかに撮影します。(コントラストをやや高めにして、鮮やかに再現できます。)
	夕景	赤い夕焼け（朝焼け）を見た目のままに美しく表現します。(露出補正をかけて少し暗い夕暮れの雰囲気を出し、彩度をやや高くして色を鮮やかに撮影します。)
	花	色鮮やかな花をきれいに仕上げます。画像の明るさを確保し、背景が適度にボケるように制御しています。
	紅葉	紅葉の写真をきれいに仕上げます。
	料理	料理を見たままに鮮やかに仕上げます。
	ポートレート	肌色を美しく撮影できます。(コントラストをやや低めに設定することで肌がきれいに撮影できます。)
	セルフポートレート	自分撮りやツーショットで撮影するのに適したモードです。(撮影距離（腕の長さ）を考慮したフォーカス制御を行っています。)
	スポーツ	スポーツ風景など動きの激しい被写体をきれいに仕上げます。
	夜景	夜景など暗いシーンをきれいに仕上げます。
	夜景ポートレート	夕暮れや夜景、またそれらを背景とした人物撮影がきれいにできます。(最大4秒のスローシャッター、低速シンクロおよびノイズリダクション機能があります。)
	花火	花火の写真をきれいに仕上げます。



1　モードダイヤルをPICTに合わせる

2　十字キー（▲▼）を押す

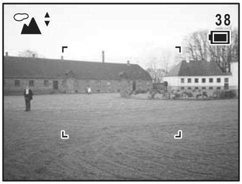
ピクチャーモードの選択画面が表示されます。



3　十字キー（▲▼◀▶）でピクチャーモードを選択する

4　OKボタンを押す

ピクチャーモードが選択され、撮影できる状態になります。



5　シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

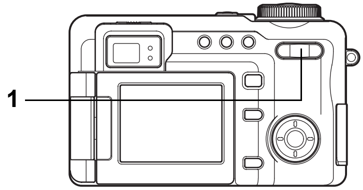
注意

暗いシーンでの撮影ではシャッター速度が遅くなりますので、カメラぶれしないよう、カメラを三脚などに固定して撮影してください。

メモ

- ピクチャーモードでは、彩度、コントラスト、シャープネス、ホワイトバランスが自動的に各モードに最適な値に設定され手動での変更はできません。
- 遅いシャッター速度での撮影では、撮影後に画像からノイズを取り除く機能が働くため、記録時間が長くなります。

シャッターボタンの押しかた☞p.33



USER M Tv Av Ⓟ PICT

ズームを使って撮影する

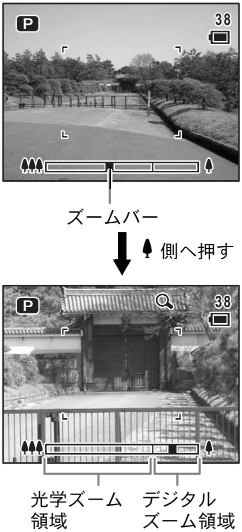
ズーム機能を使って、写る範囲を変えて撮影できます。

1 撮影モードでズーム/♠♠♠/♠ ボタンを押す

♠ 望遠：被写体を拡大して写す

♠♠♠ 広角：被写体を広い範囲で写す

ズームバーで現在の拡大状況が確認できます。



デジタルズーム機能がオフのときは、5倍までの光学ズーム撮影となります。デジタルズーム機能が「×8」のときは、光学ズームと合わせて最大約40倍相当まで拡大して撮影できます。

メモ

- 高倍率の撮影では、カメラぶれを防止するため三脚などのご利用をおすすめします。
- 動画撮影中はデジタルズームのみになります。
- ドライブモードをリモコンに設定すると、リモートコントロールE（別売）からズーム操作ができます。（☞p.72）

4 撮影

デジタルズーム機能を設定する

初期設定では、デジタルズームは「×2」に設定されています。最大まで拡大したいときは「×8」に、光学ズーム領域だけを使って撮影したい場合は、「オフ」に設定します。

1　撮影モードでMENUボタンを押す

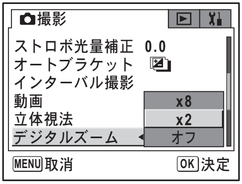
「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「デジタルズーム」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「×2」、「×8」、「オフ」を選ぶ

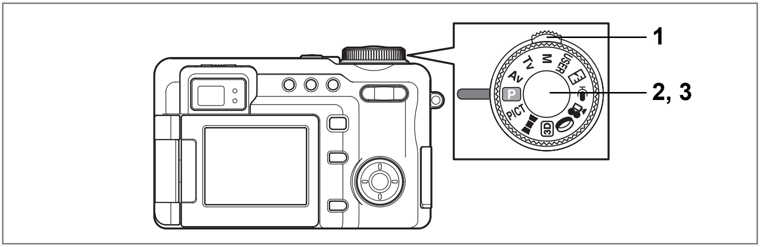


5　シャッターボタンを半押しする

デジタルズーム機能の設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

デジタルズーム機能の設定を保存する☞p.107

4
撮影



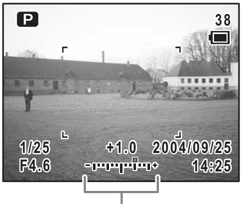
USER Tv Av P PICT 3D

露出を補正する

撮影する画像全体の明るさを調整します。
意図的に露出をオーバー（明るく）やアンダー（暗く）にして撮影する際に利用します。

1 撮影モードでフロントレバーを左右に押す

露出補正量を選択できます。
明るくする場合は＋側に、暗くする場合は－側に設定します。
露出補正の値は、－2.0EV～＋2.0EVの範囲を1/3EV単位で選択できます。



露出補正値

2 シャッターボタンを半押しする

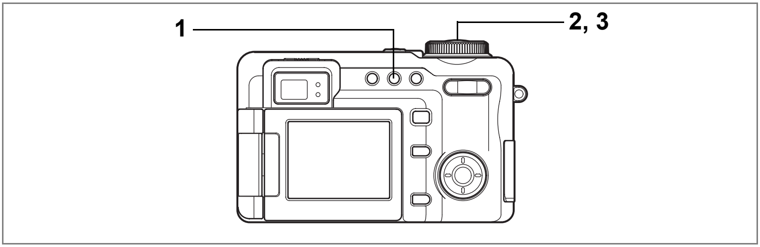
ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

3 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

露出補正値を保存する☞p.107

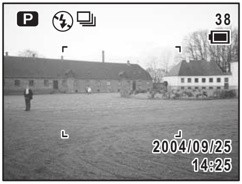
オートブラケット撮影をする☞p.63



PICT Ⓟ Tv Av M USER

連続して撮影する（連続撮影）

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。



1 撮影モードで ボタンを押して、液晶モニタに を表示させる

2 シャッターボタンを半押しする

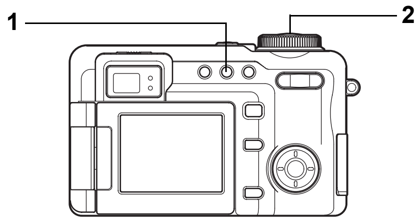
ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

3 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。
シャッターボタンを離すと、撮影が終了します。

注意
- 連続撮影では、ストロボは発光しません。
- 、3D、 モード、デジタルフィルタのSOFTでは、連続撮影はできません。
- 画質がTIFFの場合、連続撮影はできません。また、連続撮影モードではTIFF画質は選択できません。

メモ
- SDメモリーカードがいっぱいになるまで、連続撮影できます。
- 連続撮影の間隔は、記録サイズや画質の設定によって異なります。
- ピント、露出、ホワイトバランスは1枚目で固定されます。



USER M Tv Av P PICT 🌙 🎥

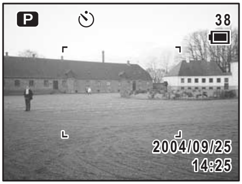
セルフタイマーを使って撮影する

シャッターボタンを押してから、10秒または2秒後に撮影されます。10秒セルフタイマーは、撮影者も含めて集合写真をとる場合などに利用できます。
2秒セルフタイマーは、シャッターボタンを押すことで生じるカメラぶれを避けて撮影するためなどに利用できます。

1 撮影モードで⏱📶🔲ボタンを押して、液晶モニタに⏱を表示させる

前回の設定によって、⏱または⏱2sが表示されます。

2 シャッターボタンを全押しする



⏱ シャッターを押してから約10秒後に撮影されます。セルフタイマーランプが約7秒間点灯し、その後3秒間点滅します。

⏱2s シャッターを押すとセルフタイマーランプが点滅し、約2秒後に撮影されます。

注意 静止画撮影の場合、セルフタイマーランプの点滅中に構図を変えると、ピントが合わなくなります。（☞p.84）

メモ
- 🎥モードでは、10秒（または2秒）後に動画撮影が始まります。
- カウントダウン中にシャッターボタンを半押しするとカウントダウンを中止します。全押しすると、10秒前（2秒前）に戻り、再カウントします。

こんなときは？ ☞p.187

⏲と⏲2Sを切り替えるには

1　液晶モニタに ⏲（⏲2S）が表示されている状態で、Fnボタンを押す

Fnガイド画面が表示されます。



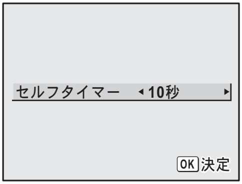
2　⏲📶⧉ ボタンを押す

セルフタイマー設定画面が表示されます。

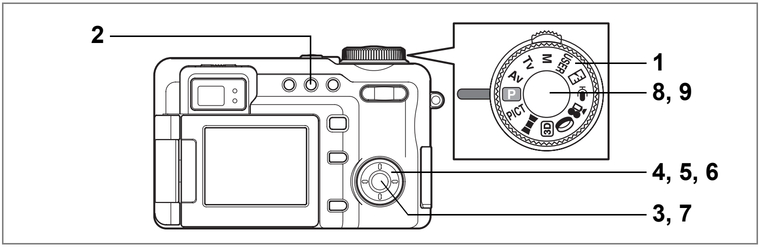
3　十字キー（◀▶）で「10秒」または「2秒」を選ぶ

4　OKボタンを押す

⏲または⏲2Sが選択され、撮影できる状態になります。



4 撮影



USER M Tv Av P PICT

撮影条件を自動で変えて撮影する（オートブラケット）

シャッターボタンを押したときに、露出やホワイトバランスなどの撮影条件を自動的に変えた写真を3枚連続して撮影できます。最適な条件の画像を選べます。

オートブラケット設定

	露出	標準、アンダー（暗い絵）、オーバー（明るい絵）の順で撮影します。ふり幅は0.3、0.7、1.0、1.3、1.7、2.0から選択できます。（☞p.59）
	ホワイトバランス	標準、赤みがかった（色温度が低い）側、青みがかった（色温度が高い）側の順で条件を変えます。ふり幅は、1、2、3、4、5から選択できます。（☞p.95）
	彩度	現在の設定、マイナス（低）側、プラス（高）側の順で条件を変えます。（☞p.105）
	シャープネス	現在の設定、マイナス（ソフト）側、プラス（ハード）側の順で条件を変えます。（☞p.104）
	コントラスト	現在の設定、マイナス（低）側、プラス（高）側の順で条件を変えます。（☞p.106）

1 モードダイヤルを 3D 以外に合わせる

2 ボタンを押して、を表示させる

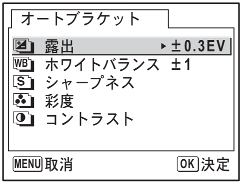
現在の設定にしたがったアイコンが表示され、設定内容が約5秒間表示されます。現在の設定値のまま撮影する場合は、手順8にすすみます。



4 撮影

3 設定内容表示中にOKボタンを押す

オートブラケット選択画面が表示されます。



4 十字キー（▲▼）で撮影条件を選ぶ

5 または の場合は十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー（▲▼）でふり幅を選ぶ

7 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。
オートブラケットする機能が画面に表示されます。



8 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

9 シャッターボタンを全押しする

注意

- を選択している場合は、手順9のシャッターボタン全押しで3枚連続で撮影されます。
- 他の項目を選択している場合には、手順9のシャッターボタン全押しで1枚だけ撮影し、内部処理で3枚分の画像を作成します。
- 、3D、、PICTモードの、デジタルフィルタのSOFTではオートブラケット撮影はできません。
- 画質がTIFFに設定されている場合、オートブラケット撮影はできません。また、オートブラケットモードではTIFF画質は選択できません。（☞p.93）

メモ

- 手順3のオートブラケット画面は、「撮影」メニューから表示することもできます。
- 2枚目、3枚目の撮影では、設定した露出など以外は1枚目と同じ条件で撮影されます。
- 手順2、手順7で**MENU**ボタンを2回押すと手順1の画面に戻り、再度設定値を変更することができます。

＋（）または＋（）を設定するには

セルフタイマーまたはリモコン（別売）を使ってオートブラケット撮影ができます。

1　液晶モニタにが表示されている状態で、Fnボタンを押す

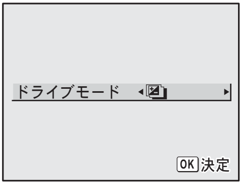
Fnガイド画面が表示されます。



2　ボタンを押す

ドライブモード設定画面が表示されます。

3　十字キー（◀▶）で「」、「＋（）」または「＋（）」を選ぶ



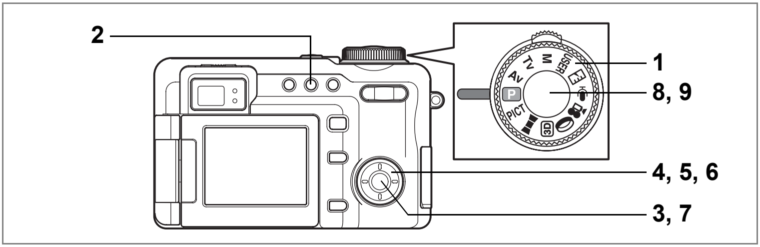
4　OKボタンを押す

撮影できる状態になります。
＋（）を選んだ場合、セルフタイマーを使ってオートブラケット撮影をします。
＋（）を選んだ場合、リモコン操作でオートブラケット撮影ができます。



メモ

セルフタイマーとリモコンのカウント時間は、セルフタイマーとリモコンそれぞれの設定に従います。（☞p.61、p.72）



USER M Tv Av Ⓟ PICT ◐

設定した時間間隔で撮影する（インターバル撮影）

設定した時刻から、設定した時間間隔で、設定した枚数を自動的に撮影します。

撮影間隔	10秒～99分	10秒から4分までの間は1秒単位で、4分から99分までの間は1分単位で設定できます。10秒以下に設定することはできません。
撮影枚数	2枚～99枚	—
撮影開始時間	0分後～ 23時間59分後	1分単位で設定できます。撮影開始時間を0分後に設定すると、シャッターボタンを押してすぐに1枚目の画像が撮影されます。

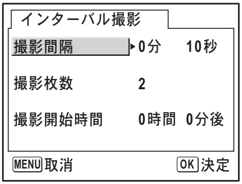
1　モードダイヤルを▮▮▮ 3D 🎥 ⊡ 🎤 以外に設定する

2　撮影モードで ◌ ボタンを押して、液晶モニタに ◌ を表示させる



現在のインターバル撮影設定内容が約5秒間表示されます。現在の設定値のまま撮影する場合は、手順8にすすみます。

3　設定内容表示中にOKボタンを押す



インターバル撮影設定画面が表示され、「撮影間隔」が選択されています。

4
撮影

4 撮影間隔を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で分を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で秒を設定し、十字キー（▶）を押す

「撮影間隔」に戻ります。

5 撮影枚数を設定する

1 十字キー（▲▼）で「撮影枚数」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で枚数を設定し、十字キー（▶）を押す

「撮影枚数」に戻ります。

6 撮影開始時間を設定する

1 十字キー（▲▼）で「撮影開始時間」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で時間を設定し、十字キー（▶）を押す

4 十字キー（▲▼）で分を設定し、十字キー（▶）を押す

「撮影開始時間」に戻ります。

7 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

8 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

9 シャッターボタンを全押しする

インターバル撮影を開始します。

撮影と撮影の間は、電源がオフになります。待機中に電源スイッチを押すと、液晶モニタに残り撮影枚数と撮影間隔が表示されます。

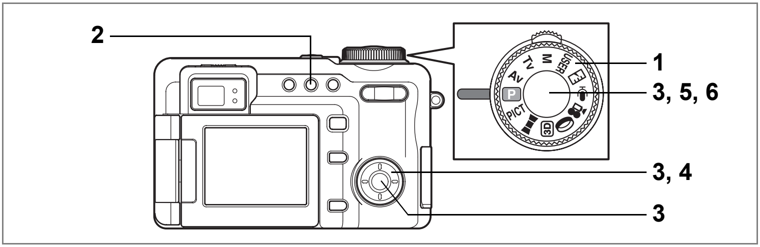
MENUボタンを押すと「インターバル撮影を中止しますか？」とメッセージが表示されます。**OK**ボタンを押すとインターバル撮影が中止されます。

注意

- 、 、3Dでは、インターバル撮影はできません。
- 画質がTIFFに設定されている場合、インターバル撮影はできません。また、インターバル撮影ではTIFF画質は選択できません。
- 手順3のインターバル撮影設定画面は、「撮影」メニューから表示することもできます。

メモ

- インターバル撮影中は、1枚目の撮影条件で、毎回の撮影を行います。設定がオートになっている項目は、オートであることが記憶されます。フォーカスモードがAFに設定されている場合は、撮影のたびにAF調整をします。
- 撮影中にSDメモリーカードの容量が足りなくなった場合には、インターバル撮影が終了しカメラの電源が自動的に切れます。
- 手順2、手順7で**MENU**ボタンを2回押すと手順1の画面に戻り、再度設定値を変更することができます。



USER M Tv Av P PICT

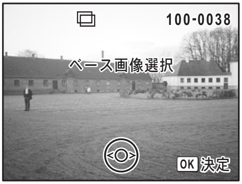
撮影した画像の上に撮影する（多重露出）

複数の画像を重ね合わせて撮影することができます。

注意　画質がTIFFの場合、多重露出撮影はできません。また、多重露出モードではTIFF画質は選択できません。

1　モードダイヤルを 3D 以外に設定する

2　撮影モードで ボタンを押して、液晶モニタに を表示させる



カメラ内にすでに撮影した画像がある場合、合成する元となる画像を選ぶ画面が表示されます。手順3へ進みます。
カメラ内に静止画像が 1 枚もない場合、「ベース画像撮影」と表示され、撮影モードになります。手順3'へ進みます。

3　十字キー（◄►）でベースとなる画像を選んで、OK ボタンを押す

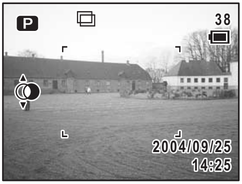
液晶モニタに選択した画像が透過表示されます。

3'　シャッターを押し、ベース画像を撮影する

液晶モニタに選択した画像が透過表示されます。

4 撮影

4 カメラを被写体に向け、十字キー（▲▼）で露出方法を選ぶ



◑：明るい画像を優先する
◐：暗い画像を優先する
◑◐：平均化する

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6 シャッターボタンを全押しする

クイックビュー画面が表示された後､「続けて撮影しますか？」とメッセージが表示されます。
「続けて撮影」を選択して**OK**ボタンを押すと、直前に合成した画像が再生され、さらに画像が合成できる状態になります。合成された画像は、元の画像とは別名で保存されます。

⧉＋⏲（⏲2s）または⧉＋リモコン（リモコン3s）を設定するには

セルフタイマーまたはリモコン（別売）を使って多重露出撮影ができます。

1 液晶モニタに⧉が表示されている状態で、Fnボタンを押す

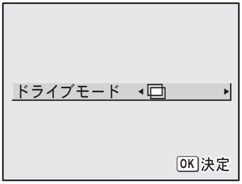
Fnガイド画面が表示されます。



2 ⏲リモコン連写ボタンを押す

ドライブモード設定画面が表示されます。

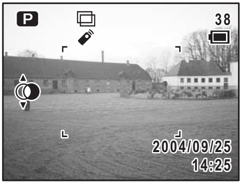
3 十字キー（◀▶）で「⧉」､「⧉＋⏲（⏲2s）」または「⧉＋リモコン（リモコン3s）」を選ぶ



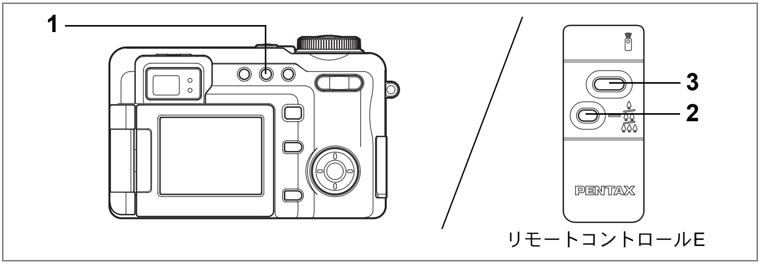
4 撮影

4　OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。
□＋セルフタイマー（2秒セルフタイマー）を選んだ場合、セルフタイマーを使って多重露出撮影をします。
□＋リモコン（3秒リモコン）を選んだ場合、リモコン操作で多重露出撮影ができます。



メモ　セルフタイマーとリモコンのカウント時間は、セルフタイマーとリモコンそれぞれの設定に従います。（☞p.61、p.72）



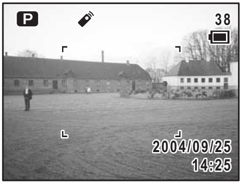
USER M Tv Av P PICT

リモコンを使って撮影する（別売）

ドライブモードをリモコン撮影に切り替え、ペンタックスカメラ用のリモートコントロール（別売）を使って撮影します。
リモコン受光部はカメラ前面にあります。リモコンはカメラのレンズ側から操作してください。

1　撮影モードで ボタンを押して、液晶モニタに を表示させる

前回の設定によって または 3s が表示されます。
セルフタイマーランプがゆっくり点滅し、リモコンで撮影できる状態になります。



2　ズームボタンを押して、ズーム操作をする（リモートコントロールEの場合）

ズームボタンを押すごとに、望遠→中間→広角の順序でズーム位置が切り替わります。

3　リモコンのシャッターボタンを全押しする

　すぐに撮影されます。
3s　セルフタイマーランプが早く点滅し、約3秒後に撮影されます。

注意　セルフタイマーランプの点滅中に構図を変えると、ピントが合わなくなります。

メモ
- 本体のボタンは、通常と同じように操作できます。
- リモコンの届く距離は、カメラ正面から約4m程度です。

4 撮影

リモコン用電池の寿命
リモコンからカメラへ約30,000回信号を送信することができます。電池の交換は最寄りのペンタックスお客様窓口にご相談ください。（交換は有料になります。）

と を切り替えるには

1　液晶モニタに （ ）が表示されている状態で、Fnボタンを押す

Fnガイド画面が表示されます。



2　 ボタンを押す

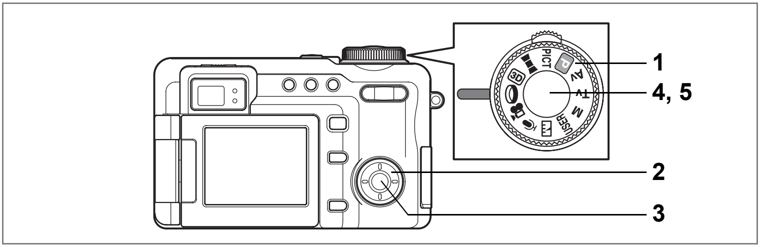
リモコン設定画面が表示されます。

3　十字キー（◀▶）で「0秒」または「3秒」を選ぶ

4　OKボタンを押す

 または が表示され、撮影できる状態になります。



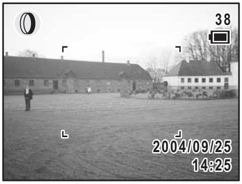


デジタルフィルタを設定して撮影する（デジタルフィルタ）

さまざまなデジタルフィルタを使用して撮影します。

1 モードダイヤルを に合わせる

前回選択したデジタルフィルタが表示されます。



2 十字キー（▲▼）でデジタルフィルタを選ぶ

デジタルフィルタは、白黒、セピア、赤、桃、紫、青、緑、黄、SOFTの9種類の中から選択できます。



3 OK ボタンを押す

デジタルフィルタが選択され、撮影できる状態になります。

4 シャッターボタンを半押しする

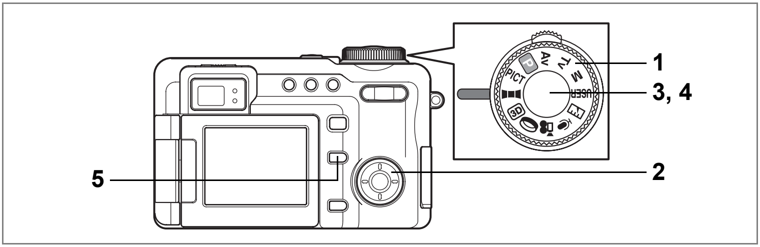
ピントが合うと、液晶モニタのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

メモ

- このデジタルフィルタは、静止画撮影用です。動画撮影では、「撮影」メニューの「動画」の設定画面にある「カラーモード」で、白黒、セピアのみ設定することができます。(☞p.112)
- 静止画の場合、撮影後にデジタルフィルタで加工することもできます。(☞p.137)
- SOFTを選んだ場合、連続撮影、オートブラケット撮影はできません。



パノラマ撮影をする（パノラマアシスト）

同梱のCD-ROM（S-SW22）に搭載されているソフトウェア（ACDSee for PENTAX）を使って何枚かの写真をつなぎ合わせたパノラマ写真を簡単に作成することができます。パノラマアシストを選択すると、あとでパノラマ写真合成が行いやすいよう、画像の端と端が重なるように撮影することができます。

1　モードダイヤルを▮■▮に合わせる

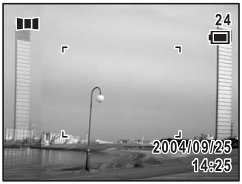
2　十字キーでつなげる方向を選ぶ



◀ ：画像を左につなぐ
▶ ：画像を右につなぐ
▲ ：画像を上につなぐ
▼ ：画像を下につなぐ

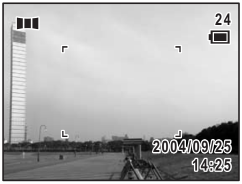
ここでは▶を選んだ場合について説明します。

3　1枚目の画像を撮影する



シャッターボタンを押すと1枚目の画像が撮影され、1枚目の画像の右端が液晶モニタの左端に透過表示されます。

4 カメラを右に移動し2枚目の画像を撮影する



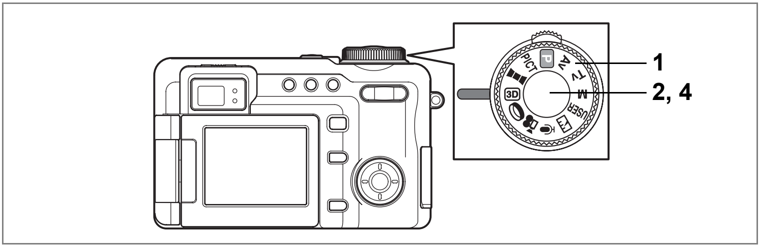
実画像が左端の透過表示に重なるようにカメラを移動し、シャッターを切ります。3枚目以降の画像も、手順3、4を繰り返して撮影します。

5 Fnボタンを押す

手順2の画面に戻ります。
パノラマ撮影を終了するには、モードダイヤルを▮■◖以外に切り替えてください。

注意

- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。付属のソフトウェア（ACDSee for PENTAX、ACD photostitcher）を使用します。パノラマ合成については、別冊の『PC活用編 デジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむには』を参照してください。
- パノラマアシスト撮影では、画質が TIFF に設定されていても ★★★（JPEG）で保存されます。



3D写真を撮影する（3D撮影モード）

横に並んだ2枚の写真を特殊な方法で見ると立体的に見える、3D写真を撮影します。
3D写真を見る方法には、平行法と交差法がありますが、初期設定では平行法用の3D写真が撮影されます。交差法での撮影への切り替えは、「立体視法を選ぶ」（p.78）を参照してください。

1 モードダイヤルを 3D に合わせる

液晶モニタの左側に1枚目の画像を撮影するための画面が表示されます。

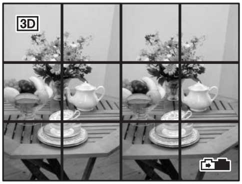
2 1枚目の画像を撮影する



被写体が左側画面の中央に入るようにしてシャッターボタンを押します。液晶モニタの左側に撮った画像が表示され、右側に2枚目の画像を撮影するための画面が表示されます。

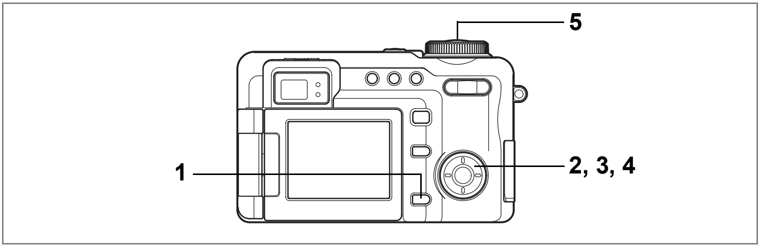
3 撮影姿勢を変えずに右に移動する

4 2枚目の画像を撮影する



被写体が画面右側の中央に入るようにしてシャッターボタンを押します。
3D撮影を中止する場合は、モードダイヤルを 3D 以外に切り替えてください。

注意 3D撮影では、画質がTIFFに設定されていても★★★（JPEG）で保存されます。

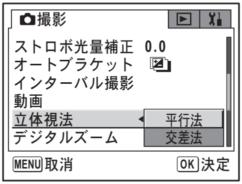


立体視法を選ぶ

1　MENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「立体視法」を選ぶ



3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「平行法」か「交差法」を選ぶ

「平行法」「交差法」ともに裸眼で楽しむこともできます。
3Dイメージビュワー（別売）で見るときは、「平行法」を選択してください。

5　シャッターボタンを半押しする

立体視法の設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

3D写真の撮影方法と観察方法

人間の目は約6～7cm離れているため、左右それぞれの目には微妙に角度のズレた景色が写っています。この左右の見え方を脳が処理することにより、立体的に見えます。この原理を応用した撮影方法および写真の観察方法が3D写真です。
1つの被写体を2回撮影するので、動く被写体の3D画像は撮影できません。人物を撮影するときは、動かないように声をかけ、すばやく2枚目の撮影を行います。三脚や適当な台を利用すれば、容易に右に水平移動できます。

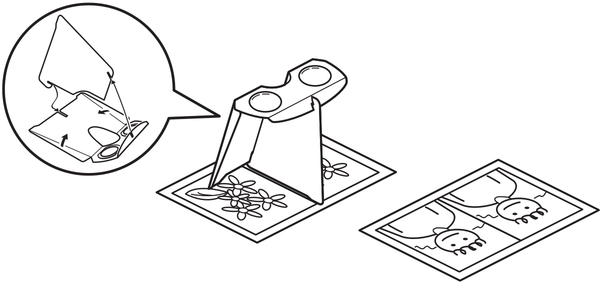
カメラの移動量は被写体までの距離の1/40程度が目安です。たとえば、被写体までの距離が3mあれば、移動量は3m÷40=7.5cmとなります。立体感の見え方には個人差がありますので、下記の表を参考にしていろいろ移動距離を変えて撮影してください。

被写体までの距離	0.1m	0.3m	0.5m	1m	3m	5m
カメラの移動距離	0.5cm	1cm	1.5cm	2.5cm	7.5cm	13cm

3D写真を観察する方法としては、左右の視線をほぼ平行にして（遠くを見るように）見る「平行法」と、左右の視線を交差させて見る「交差法」があります。ビュワーを使わずに3D写真を観察するためには多少の練習が必要になる場合があります。

3Dイメージビュワー（別売）の使い方

横幅が11cmから12cm程度になるようにプリントし、2枚の画像の中心に3Dイメージビュワーの仕切りを合わせて観察します。



メモ

人間の左右の目の間隔には個人差があるため、同じ大きさのプリントを見ても立体視が困難な場合があります。特にプリントサイズが大きすぎたり、小さすぎたりすると立体視は非常に困難になります。何度かプリントを試して立体視しやすい大きさを見つけてください。

注意

- 3Dイメージビュワーで絶対に太陽をのぞかないでください。
- 3D イメージビュワーを直接日光の当たる場所に放置しないでください。火災の原因となる恐れがあります。

3D写真（平行法）の参考例

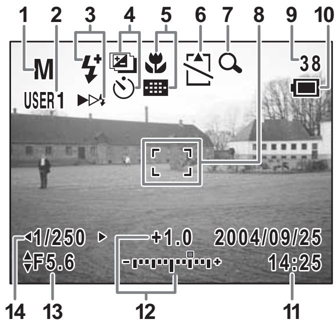


撮影情報を確認する

OK ボタンを押すたびに、液晶モニタの表示が切り替わります。
設定1と設定2はお好みに合わせて表示する情報を選ぶことができます。初期設定では、設定1はすべての情報が表示され、設定2は表示なしとなります。
ヒストグラム（画像の明度分布）を表示すると、LCD画面内に白とび部分は赤く、黒つぶれ部分は黄色く表示されます。ヒストグラムの横軸は明るさ（左端が最も暗く、右端が最も明るい）、縦軸はピクセル数を表わします。

通常表示
撮影情報を表示します。

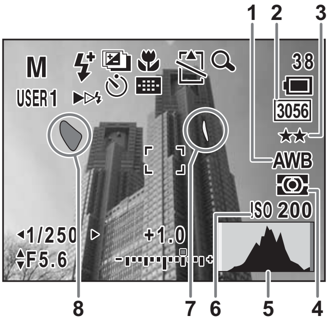
1 撮影モード（p.48）
2 ユーザーモード（p.53）
3 ストロボモード（p.87）
4 ドライブモード（p.60~p.73）
5 フォーカスモード（p.84）
6 カード状態警告（p.25）
7 デジタルズーム表示（p.57）
8 フォーカスフレーム（p.32）
9 撮影可能枚数
10 バッテリー残量表示（p.16）
11 現在の日時（p.29）
12 露出補正値（p.59）
13 絞り値（p.50）
14 シャッター速度（p.51）





設定1（フル表示）

1　ホワイトバランス（p.95）
2　記録サイズ（p.91）
3　画質（p.93）
4　測光方式（p.100）
5　ヒストグラム
6　感度（p.101）
7　黒つぶれ（黄色で表示）
8　白とび（赤で表示）



OK

表示なし

OK

LCDオフ

OK

通常表示へ

設定2（表示なし）

撮影情報を表示しません。

- オートフォーカス時にはフォーカスフレームが表示されます。
- 設定を変更した時には、数秒間設定内容が表示されます。

液晶モニタオフ

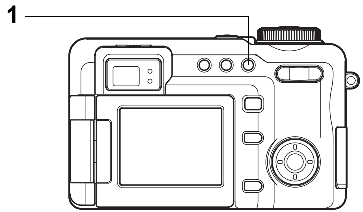
メモ

- 、3D、、では、液晶モニタはオフにできません。
- 動画撮影中は、**OK**ボタンを押してもLCD画面の表示を変更できません。また、動画撮影中にはヒストグラムを表示できません。

「白とび」「黒つぶれ」表示について

被写体の中で明るすぎて白くとんでしまう部分がある場合、その部分が赤の点滅で警告表示されます。また暗すぎて黒くつぶれてしまう部分は、黄色の点滅で警告表示されます。

撮影時の情報を確認する（再生モード）☞p.121



USER M Tv Av P PICT 3D

ピントの合わせ方を選ぶ（フォーカスモード）

フォーカスモード

（表示なし）	オートフォーカス	シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。被写体までの距離が60cm以上のときに使用します。
🌷	マクロ	被写体までの距離が約15cm～約65cmのときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。▦と併用して設定できます。
s🌷	スーパーマクロ	被写体までの距離が約2cm～約65cmのときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。▦と併用して設定できます。
▲	無限遠	遠くにあるものを撮影するときに使用します。ストロボは⊛（発光禁止）となります
MF	マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。
▦	AFエリア移動	オートフォーカスの対象となる範囲（AFエリア）の位置を変更します。11箇所から選べます。🌷、s🌷と併用して設定できます。

1　撮影モードで🌷▲MFボタンを押す

押すたびにフォーカスモードが切り替わり、液晶モニタにアイコン表示されます。
設定したフォーカスモードで撮影できます。

注意

- s🌷では、レンズ表面にゴミ等が付いているとそこにピントが合ってしまい、被写体にピントが合わないことがありますのでご注意ください。
- フォーカスモードを🌷またはs🌷に設定しているときは、ファインダーを見ながら撮影すると、撮影範囲がずれます。必ず液晶モニタで確認してください。

メモ

- フォーカスモードの初期設定は、オートフォーカスです。
- s🌷では、デジタルズームのみ使用できます。

フォーカスモードを保存する☞p.107

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

1　撮影モードで🌷▲MFボタンを押してMFを表示する

ピント合わせ中は、画面中央部が2倍に拡大して表示されます。

2　ズーム/🌲🌲🌲/🌲ボタンを押す

液晶モニタにMFバーが表示され、おおよその距離が表示されます。これを目安にズーム/🌲🌲🌲/🌲ボタンでピントを合わせます。

🌲　：遠くにピントが合う

🌲🌲🌲：近くにピントが合う



MFバー

3　OKボタンを押す

フォーカス位置が決まり通常の撮影画面に切り替わります。

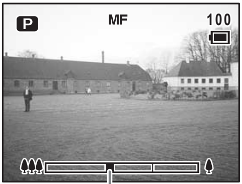
シャッターボタンを半押しまたは全押しするか、5秒以上経過した場合にもフォーカス位置が決まります。

🌷▲MFボタンを1回押すと手順1の画面に戻り、再度フォーカス位置の調整ができます。

4　ズーム/🌲🌲🌲/🌲ボタンを押して写る範囲を調整する

ピントの位置が決定すると、液晶モニタの表示が通常の撮影範囲に戻り、ピント合わせ中にMFバーが表示されていた位置に、かわってズームバーが表示されます。

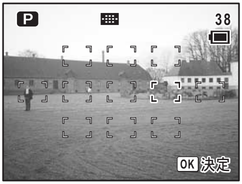
ここで被写体を拡大したり、広い範囲で写したい場合は、ズーム/🌲🌲🌲/🌲ボタンを押して、写る範囲を調整します。



ズームバー

AFエリアを移動する

1　撮影モードで🌷▲MFボタンを押して⊞を表示する



前回選択したAFエリア位置が表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）でAFエリアを選ぶ

🌷▲MFボタンを押すとオートフォーカスに切り替わります。

3　OKボタンを押す

AFエリアが確定します。
AFエリアを元に戻すには、再度🌷▲MFボタンを押します。

メモ　AFエリア移動時には、AFエリアはスポットになります。

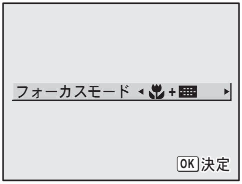
⊞と🌷、⊞とs🌷を併用する

マクロ、またはスーパーマクロモードでAFエリアを移動できます。

1　⊞、🌷またはs🌷モードでFnボタンを押す

Fnガイド画面が表示されます。

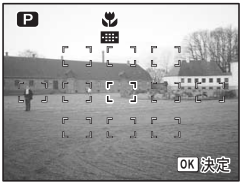
2　🌷▲MFボタンを押す



フォーカスモード設定画面が表示されます。

3　十字キー（◀▶）でフォーカスモードの組み合わせを選ぶ

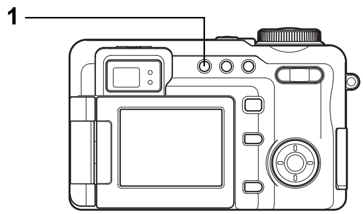
4　OKボタンを押す



AFエリアの移動画面が表示されます。

5　十字キー（▲▼◀▶）でAFエリアの位置を決め、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。



USER M Tv Av Ⓟ PICT 3D ◐

ストロボの発光方法を選択する

ストロボの発光方法

(表示なし)	オート	暗い時や逆光の時にストロボを発光します。後幕発光が選択できます。
⊛	発光禁止	暗い時や逆光の時でも発光しません。夕景撮影や美術館などストロボの使えない場所での撮影にご利用ください。
ϟ	強制発光	明るさにかかわらず、常にストロボを発光します。後幕発光が選択できます。
◉A	オート＋赤目軽減	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。自動的にストロボを発光します。
◉ϟ	強制発光＋赤目軽減	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。常にストロボを発光します。
▶▷ϟ	後幕	ストロボを後幕発光に設定します。(通常は先幕発光となります。) 後幕発光では露光が終わる直前のタイミングで発光させます。遅いシャッター速度で撮影する場合、通常のストロボとは異なる雰囲気の写真が撮れます。オートまたは ϟ の場合にだけ設定できます。

メモ

- 🎥モード、PICTモードの▩、ドライブモードが⧉または⧈、フォーカスモードが▲または🌷に設定されているときは、常に発光禁止になります。
- 赤目軽減機能を使用した場合は、本発光の前にプリ発光（予備発光）を行います。
- Mモードでは、ストロボ発光方法のオート、◉Aは選択できません。

4 撮影

1 撮影モードで⚡ボタンを押す

押すたびに発光方法が切り替わり、液晶モニタにアイコン表示されます。
設定したストロボ発光方法で撮影ができる状態になります。

ストロボ発光方法を保存する☞p.107

後幕発光を選択するには

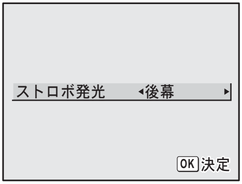
ストロボの発光方法がオートまたは⚡（強制発光）のとき、ストロボを後幕発光にすることができます。通常の先幕発光では、シャッター羽根が開いた直後にストロボが発光しますが、後幕発光では、シャッター羽根が閉じる直前にストロボが発光します。このため低速シャッターで後幕発光を利用すると、動く被写体の光跡が後ろに流れるように写しこむことができます。

1 オートまたは⚡モードでFnボタンを押す

Fnガイド画面が表示されます。

2 ⚡ボタンを押す

ストロボモード設定画面が表示されます。



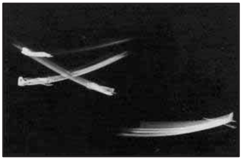
3 十字キー（◀▶）で「先幕（通常）」と「後幕」を選ぶ

4 OKボタンを押す

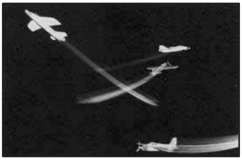
撮影できる状態になります。

> **注意** 赤目軽減機能設定中は、後幕発光は設定できません。

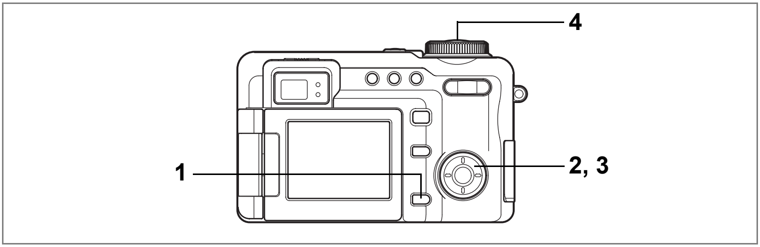
先幕発光と後幕発光での撮影例を示します



先幕発光（通常）



後幕発光



USER M Tv Av P PICT 3D

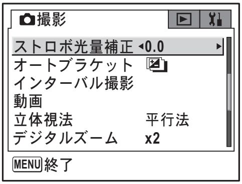
ストロボの光量を補正する

Optio 750Zでは、背景の明るさを変えずにストロボの光量だけを変えることができます。

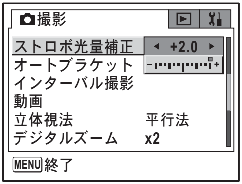
1 撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「ストロボ光量補正」を選ぶ



3 十字キー（◀▶）で光量補正量を選ぶ



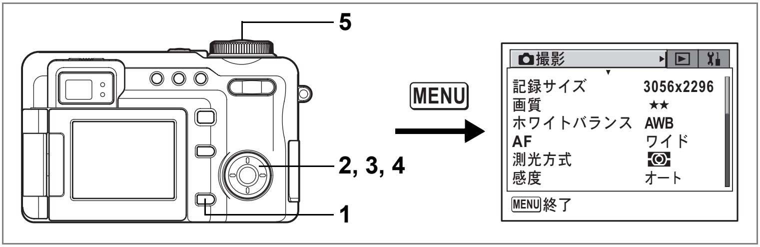
ストロボを明るくするには＋側に、暗くするには－側に設定します。
撮影モードでシャッターボタンを半押ししたとき、光量補正＋の場合は⚡+、光量補正－の場合は⚡-のように＋や－がついたストロボアイコンが表示されます。

4 シャッターボタンを半押しする

ストロボ光量補正の設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

メモ

- 露出補正と組み合わせると、背景の明るさとストロボの光量を別々に変えることができます。
- 被写体の明るさや距離によっては、設定した補正値どおりに補正されないことがあります。
- 手順3で十字キー（▲▼）を押すと、光量補正が確定し、前のメニュー、次のメニューに移動します。



USER M Tv Av P PICT 3D

記録サイズを選択する

静止画像の横縦比を4:3と3:2から選べます。
「4:3」はデジタルカメラで撮影した画像の通常の横縦比です。「3:2」を選ぶと、フチなし印刷したときに被写体の一部が切れる失敗を少なくすることができます。
また記録画素数をそれぞれ6種類から選べます。
記録サイズが大きいほど、プリントしたときに、より鮮明な画像が得られます。ただし、写真のきれいさには画質や、露出制御、使用するプリンタの解像度なども関係してきますので、むやみに大きくする必要はありません。
はがきサイズにプリントする場合は1024×768程度で十分です。
画素数が多くなるほど、画像が大きくなり容量も増えます。画像の容量は画質の設定（☞p.93）によっても異なります。

記録サイズ

画像の横縦比			用途
4:3	3:2		
3056×2296	3056×2040	↑	高画質、大型プリント、画像加工用
2592×1944	2592×1728		
2048×1536	2048×1368	きれい	
1600×1200	1600×1064		
1024×768	1024×680		はがきサイズプリント用
640×480	640×424		ホームページ掲載、電子メール添付用

1 撮影モードでMENUボタンを押す

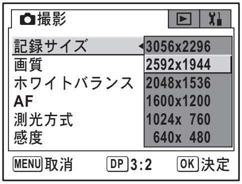
「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「記録サイズ」を選ぶ

4 撮影

3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。



4　十字キー（▲▼）で記録サイズを切り替える

DPOF ボタンを押すと記録する画像の横縦比が、4:3から3:2に切り替わります。3:2を選ぶと、記録サイズの後ろに 3:2 と表示されます。3:2を選ぶと、液晶モニタの表示が右のように切り替わりますので、この範囲に写したいものを入れて撮影してください。

4:3



3:2

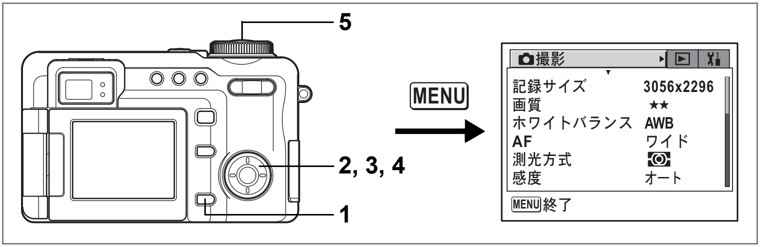


5　シャッターボタンを半押しする

記録サイズの設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

注意　ファインダー内では、画面の横縦比は、設定にかかわらず常に4:3で表示されます。横縦比を3:2に設定して撮影する場合は、必ず液晶モニタで確認してください。

静止画の記録サイズと画質☞p.20



USER M Tv Av P PICT

画質を選択する

静止画像の圧縮率が選べます。
★の数が多いほど、圧縮率は低くなります。画像はきれいになり容量も増えます。また、画像の容量は、記録サイズの設定（☞p.91）によっても異なります。

画質

TIFF		画像を非圧縮データ（TIFF形式）として記録します。同梱のACDSeeなどで画像を加工するのに適しています。
★★★	S.ファイン	圧縮率が最も低く、写真用のプリントなどに適しています。画像はJPEG形式で保存されます。
★★	ファイン	圧縮率が標準で、パソコンの画面で画像を見るときに適しています。画像はJPEG形式で保存されます。
★	エコノミー	圧縮率が最も高く、電子メールへの添付やホームページ作成用に適しています。画像はJPEG形式で保存されます。

1 撮影モードでMENUボタンを押す

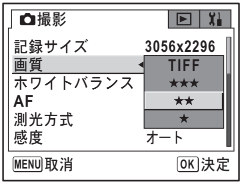
「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「画質」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で画質を切り替える



4
撮影

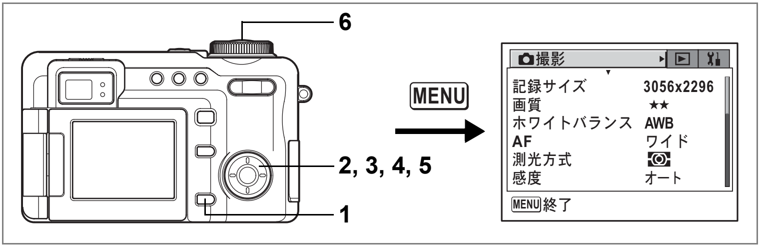
5 シャッターボタンを半押しする

画質の設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

メモ

- ドライブモードが□、□、□または□の場合には、TIFFは選択できません。
- TIFF画像は、横縦比が4:3で、記録サイズが3056×2296または2592×1944の場合にのみ選択できます。

静止画の記録サイズと画質☞p.20



USER M Tv Av P

ホワイトバランスを調整する

撮影時の光の状態に応じて画像を自然な色あいに調整する方法を設定します。

ホワイトバランス

AWB	オート	調整をカメラにまかせます。
	太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。
	日陰	日陰で撮影するときに設定します。
	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
	蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。蛍光灯には、W（白色）、D（昼光色）、N（昼白色）の3種類があります。
	マニュアル	手動で調整して撮影するときに設定します。

1 撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「ホワイトバランス」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ホワイトバランス選択画面が表示されます。



4 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

4 撮影

5　（蛍光灯）の場合は十字キー（◀▶）で、「W（白色）」「D（昼光色）」「N（昼白色）」を選ぶ



6　シャッターボタンを半押しする

ホワイトバランスの設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

ホワイトバランスを保存する☞p.107

オートブラケット撮影をする☞p.63

マニュアルで設定する

あらかじめ、白い紙などホワイトバランスの調整に用いる素材を用意しておきます。

1　ホワイトバランス選択画面で（マニュアル）を選ぶ

2　ホワイトバランスの調整に用いる素材（白い紙など）にレンズを向け、液晶モニタ画面いっぱいに素材がはいるよう、カメラを構える



3　シャッターボタンを全押しする

ホワイトバランスが自動的に調整されます。

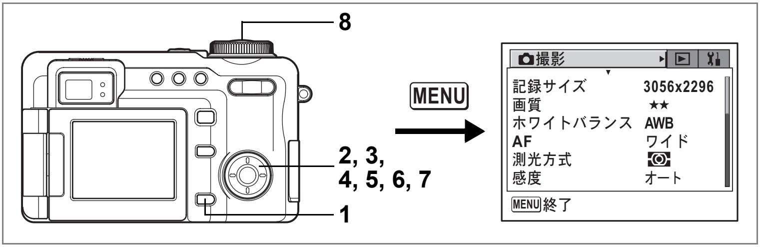
4　OKボタンを押す

今行った設定が保存され、「撮影」メニュー画面に戻ります。

5　MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

メモ　PICTではホワイトバランスの変更は無効です。



USER M Tv Av P PICT 3D

オートフォーカス条件を設定する

オートフォーカスに関するいろいろな条件を設定します。

オートフォーカス範囲を設定する（AFエリア）

オートフォーカスの対象となる範囲（AFエリア）を設定します。

AFエリア

ワイド	通常範囲に設定します。
スポット	フォーカスが合う範囲を狭くします。

メモ　フォーカスモードが の場合は常にスポットAFとなります。撮影モードが の場合は固定焦点になります。

オートフォーカスモードを設定する（AFモード）

オートフォーカスの方式を選びます。

AFモード

シングル	シャッターボタンを半押ししたときにピントを合わせます。ピントが合うとフォーカスをロックします。
コンティニュアス	液晶モニタ表示中は常にピントを合わせ続けます。

フォーカスリミットを設定する

レンズの移動範囲を状況に応じて制限します。
フォーカスリミットを☑にすると、レンズの移動が通常の撮影では遠距離側に、マクロ撮影では近距離側に制限されます。素早いピント合わせが可能になります。

AF補助光を設定する

AF補助光を☑にすると、被写体が暗くて、オートフォーカスの苦手な条件で、AF補助光（赤橙）が投光され、ピントが合わせやすくなります。

> **注意**
> 本製品のAF補助光は、LEDに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1に適合しています。AF補助光を直接見ても安全上の問題はありませんが、多少まぶしい感じがしますので、発光部を至近距離から直接のぞきこむことは避けてください。

1 撮影モードでMENUボタンを押す

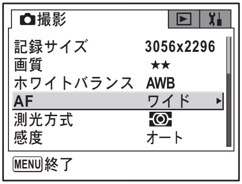
「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「AF」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

AF画面が表示されます。

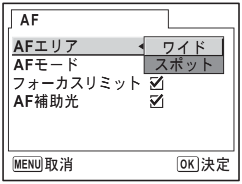
4 十字キー（▲▼）を押して「AFエリア」を選ぶ



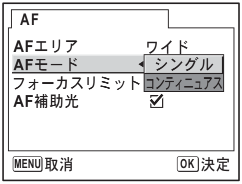
5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー（▲▼）でAFエリアを切り替える

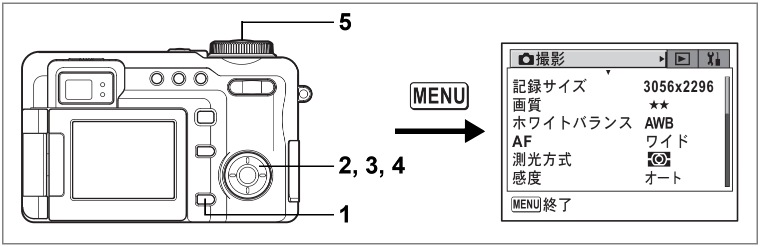


7 手順4～6を繰り返して「AFモード」、「フォーカスリミット」、「AF補助光」を設定する



8 シャッターボタンを半押しする

AFの設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。



USER M Tv Av P PICT 3D

測光方式を設定する

画面のどの部分で明るさを測り、露出を決定するのかを設定します。

測光方式

	分割測光	画面全体をきめ細かく測光して露出を決定します。
	中央部重点測光	画面中央を重点的に測光して露出を決定します。
	スポット測光	画面の中央のみを測光して露出を決定します。

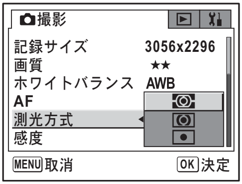
1 撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「測光方式」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

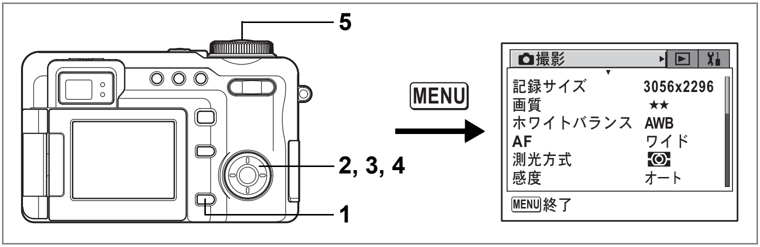


4 十字キー（▲▼）で測光方式を選ぶ

5 シャッターボタンを半押しする

測光方式の設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

測光方式を保存する☞p.107



USER M Tv Av P PICT 3D

感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、感度を設定することができます。

感度

オート	設定をカメラにまかせます。
80	• 感度が低い（数字が小さい）ほど、ノイズの少ない画像が得られます。暗い場所ではシャッター速度が遅くなります。 • 感度が高い（数字が大きい）ほど、暗い場所でもシャッター速度を早くできます。画像にはノイズが増えます。
100	
200	
400	

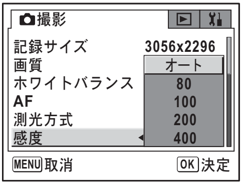
1　撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「感度」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。



4　十字キー（▲▼）で感度を選ぶ

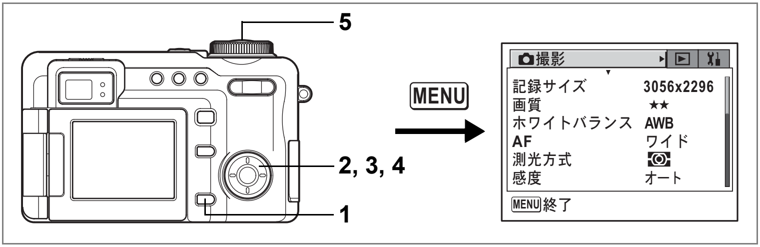
5　シャッターボタンを半押しする

感度の設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

注意

「撮影」メニューで設定した「感度」は、デジタル露出計モードには反映されません。デジタル露出計モードの感度を設定する場合は、「デジタル露出計」メニューで設定してください（☞p.169）。

感度を保存する☞p.107



USER M Tv Av P PICT 3D

クイックビューの時間を設定する

クイックビュー（撮影直後の画像表示）の表示時間を0.5秒、1秒、2秒、3秒、4秒、5秒、オフ（表示しない）から選びます。

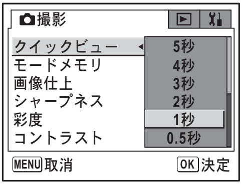
1　撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「クイックビュー」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

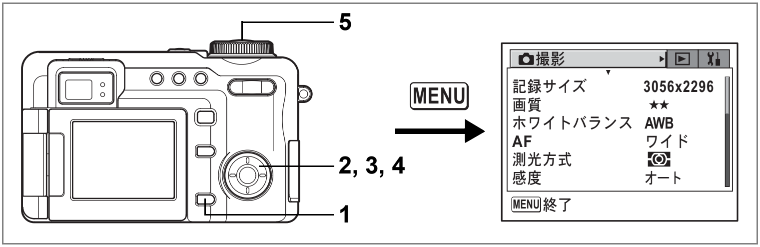


4　十字キー（▲▼）で表示時間を選ぶ

5　シャッターボタンを半押しする

クイックビューの設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

クイックビュー ☞p.34



USER M Tv Av P

画像仕上を選択する

画像の基本的な色調を好みに応じて変更します。

画像仕上

標準	標準的な色調に仕上げます。
鮮やか	鮮やかな色調に仕上げます。

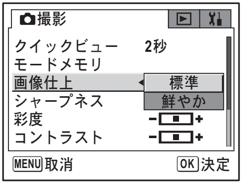
1　撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「画像仕上」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

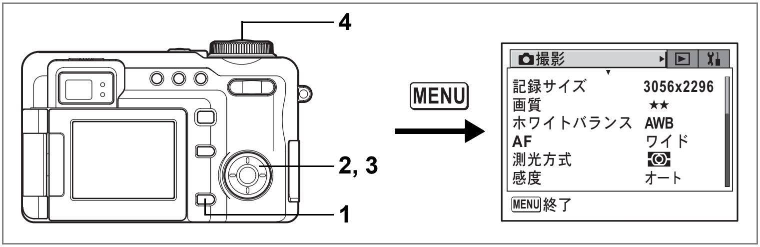
ポップアップが表示されます。



4　十字キー（▲▼）で画像仕上設定を選ぶ

5　シャッターボタンを半押しする

画像仕上の設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。



USER M Tv Av P 3D

シャープネスを設定する

画像の輪郭をハードまたはソフトにします。

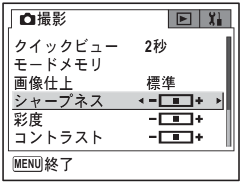
1 撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「シャープネス」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で（ソフト）（標準）（ハード）を切り替える

－側がソフト、＋側がハードになります。



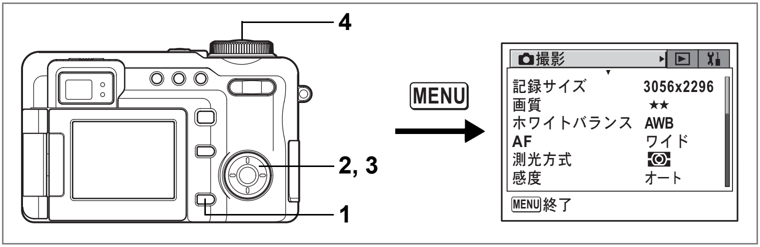
4 シャッターボタンを半押しする

シャープネスの設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

メモ

PICTではシャープネスの変更は無効です。

オートブラケット撮影をする☞p.63



USER M Tv Av P 3D

彩度を設定する

色の鮮やかさを設定します。

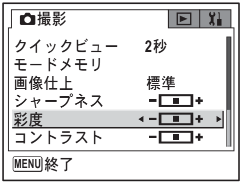
1 撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「彩度」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で（低）（標準）（高）を切り替える

－側が彩度が低く、＋側が彩度が高くなります。

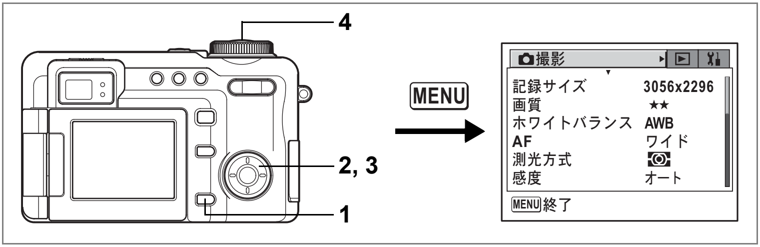


4 シャッターボタンを半押しする

彩度の設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

メモ：PICTでは彩度の変更は無効です。

オートブラケット撮影をする☞p.63



USER M Tv Av P 3D

コントラストを設定する

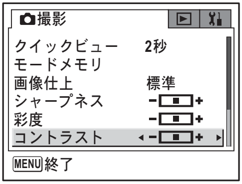
画像の明暗差を設定します。

1 撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「コントラスト」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で（低）（標準）（高）を切り替える



－側がコントラストが低く、＋側がコントラストが高くなります。

4 シャッターボタンを半押しする

コントラストの設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

メモ PICTではコントラストの変更は無効です。

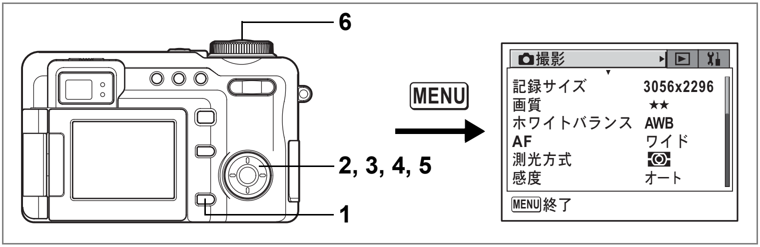
オートブラケット撮影をする☞p.63

設定を保存する（モードメモリ）

撮影のための設定には、電源をオフにしても常に設定が維持されるものと、初期設定に戻すかどうかを選べるものがあります。初期設定に戻すかどうかを選べる項目を表に示します。☑（オン）を選ぶと、電源オフ直前の設定状態をメモリします。□（オフ）を選ぶと、電源をオフにしたときに初期設定に戻ります。ここに示した以外の項目は、電源をオフにしても常に設定が保存されます。

項目	内容	初期設定
ストロボ	⚡ボタンで設定したストロボモード（☞p.87）	☑
ストロボ光量補正	「📷 撮影」メニューの「ストロボ光量補正」で設定した光量補正値（☞p.89）	□
ホワイトバランス	「📷 撮影」メニューの「ホワイトバランス」での設定（☞p.95）	□
露出補正	フロントレバーで設定した露出補正値（☞p.59）	□
デジタルズーム	「📷 撮影」メニューの「デジタルズーム」での設定（☞p.58）	☑
測光方式	「📷 撮影」メニューの「測光方式」で設定した測光方式（☞p.100）	□
感度	「📷 撮影」メニューの「感度」で設定した値（☞p.101）	□
フォーカス方式	🌷▲MFボタンで設定したフォーカス方式（☞p.84）	□
ズーム位置	ズームボタンで設定した光学ズーム位置（☞p.57）	□
MF位置	🌷▲MFボタンで設定したマニュアルフォーカスでのピントの合う距離（☞p.85）	□
DISPLAY	液晶モニタの表示モード（☞p.81、121）	□
ファイルNo.	ファイル番号。オンにすると、SDメモリーカードを入れ替えた場合でも連続したファイル番号を使用。	☑
ドライブモード	⏲ボタンで設定したドライブモード（☞p.60~73）	□

メモ　デジタルズーム領域で設定したズーム位置は、「モードメモリ」の「ズーム位置」をオンにしても保存されません。



モードメモリ

☑	電源オフ直前の状態を保存します。
□	電源をオフにすると初期設定に戻ります。

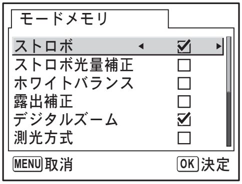
1 撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「モードメモリ」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

モードメモリ画面が表示されます。



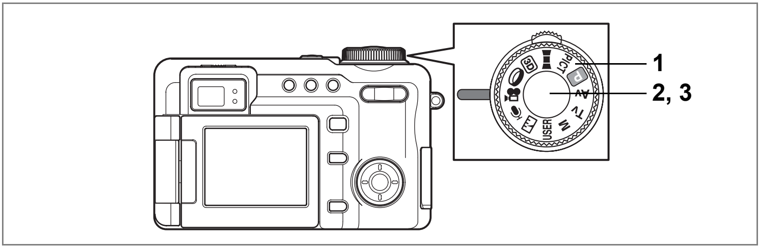
4 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

6 シャッターボタンを半押しする

モードメモリの設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

動画を撮影する



動画を撮影する

動画を撮影します。音声も同時に記録されます。

1　モードダイヤルを に合わせる

撮影を開始する前には、光学ズームで被写体の写る範囲を調整することができます。
ズーム/ / ボタンを左右に押すと、被写体の写る範囲が変わります。

- ：被写体を拡大して写す
- ：被写体を広い範囲で写す

2　シャッターボタンを全押しする

撮影が開始されます。
液晶モニタに次の情報が表示されます。



1 動画モードアイコン
2 録画中に点滅
3 撮影可能時間

画質が320×240のときは、ズーム/ / ボタンを左右に押すと、デジタルズームで被写体の写る範囲が変わります。
画質が640×480のときは、動画撮影開始後は、デジタルズーム、光学ズームとも使用できません。撮影開始前に設定したズーム倍率で撮影してください。

3 シャッターボタンを全押しする

撮影が終了します。

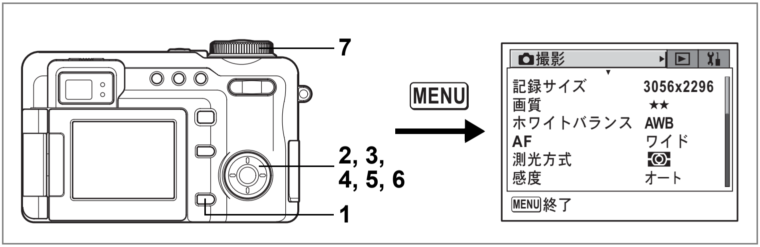
注意

- 動画モードでは、ストロボは発光しません。
- 動画撮影中はファインダー横のステータスランプが点灯します。

動画を再生する☞p.125

シャッターボタンを押し続けて撮影する

シャッターボタンを1秒以上押し続けると、シャッターボタンを押し続けている時間だけ撮影されます。シャッターボタンから指を離すと撮影が終了します。



動画の記録サイズを選択する

動画の記録画素数を「640×480」、「320×240」から選べます。
画素数が多くなるほど、画像が大きくなり容量も増えます。画像の容量は画質の設定（☞p.22）によっても異なります。

動画の記録サイズ

640×480	VGAサイズで高画質な動画を楽しめます。ただし記録時間は短くなります。
320×240	記録時間は長くなりますが、画像のサイズは小さくなります。

1　撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

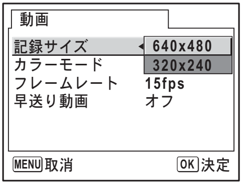
3　十字キー（▶）を押す

動画画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「記録サイズ」を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。



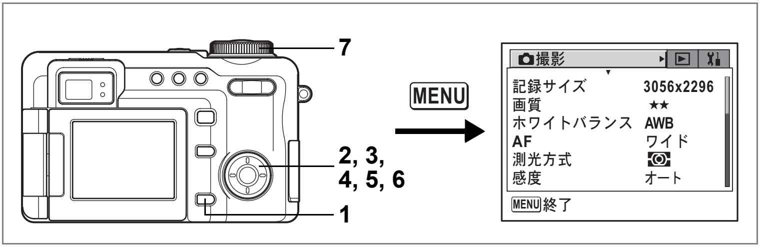
6　十字キー（▲▼）で記録サイズを切り替える

7　モードダイヤルを に合わせる

動画の記録サイズが設定され、動画撮影ができる状態になります。

動画の記録サイズと画質☞p.22

4
撮影



撮影色を設定して動画を撮影する（カラーモード）

動画撮影時には、色フィルタを選んで撮影できます。通常のカラー撮影のほかに、白黒とセピアが選べます。

1　撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

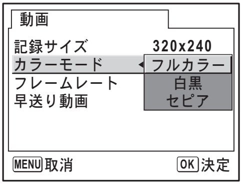
3　十字キー（▶）を押す

動画画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「カラーモード」を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

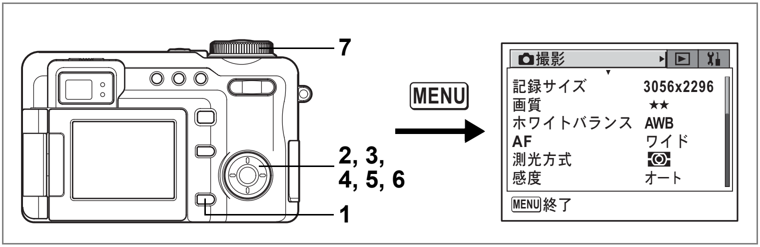


6　十字キー（▲▼）で色を選ぶ

7　モードダイヤルを に合わせる

カラーモードが設定され、動画が撮影できる状態になります。

メモ　静止画撮影用にはデジタルフィルタを使用します。（☞p.74）



フレームレートを選択する

フレームレート（1秒間に撮る画面数）を設定します。フレームレートが大きければ、滑らかな画像になりますが、データ量が増えます。30fps（フレーム／秒）と15fps（フレーム／秒）が選べます。

1　撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

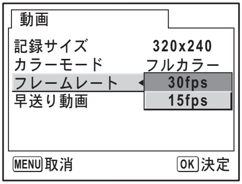
3　十字キー（▶）を押す

動画画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「フレームレート」を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

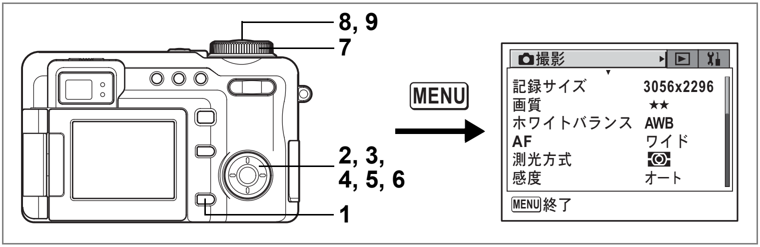


6　十字キー（▲▼）で「30fps」と「15fps」を切り替える

7　モードダイヤルを動画に合わせる

フレームレートが設定され、動画撮影ができる状態になります。

動画の記録サイズと画質☞p.22



早送り動画を撮影する

早送り動画を設定すると、フレームレート（1秒間に撮る画面数）を遅らせて動画を撮影します。撮影した動画は通常のフレームレートで再生されますので、被写体が早送りされているように見えます。例えば「×2」に設定すると通常の半分のコマ数で撮影し通常のコマ数で再生されますので、再生すると2倍のスピードで動きます。

1　撮影モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

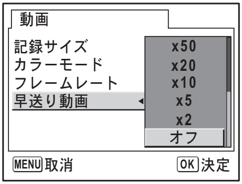
3　十字キー（▶）を押す

動画画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「早送り動画」を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。



6　十字キー（▲▼）で、早送り倍率を切り替える

7　モードダイヤルを に合わせる

早送り動画撮影ができる状態になります。

8 シャッターボタンを全押しする



早送り動画撮影を開始します。
液晶モニタには、早送りの設定が表示されます。

9 シャッターボタンを全押しする

撮影が終了します。

メモ

フレームレートの設定（p.113）に関わらず、早送り動画撮影時には15fpsの音無し動画となります。

再生する

撮影モードと再生モードの切り替え

撮影し、記録するモードを撮影モードと呼びます。撮影して記録した画像を再生するモードを再生モードと呼びます。再生モードでは、再生した画像に簡単な画像処理もできます。
撮影モードと再生モードの切り替えは、次のように行います。

撮影モードから再生モードへ切り替える

1 ▶ボタンを押す

再生モードに切り替わります。

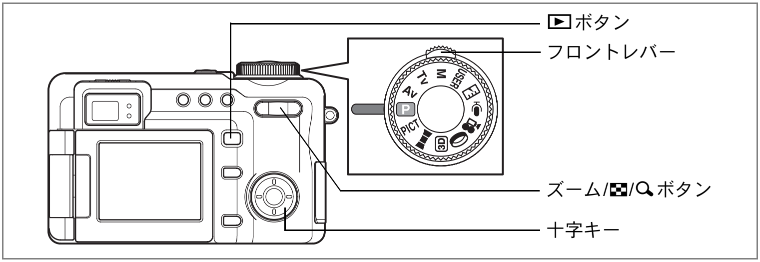
再生モードから撮影モードへ切り替える

1 ▶ ボタンまたはシャッターボタンを半押しまたは全押しする

撮影モードに切り替わります。

静止画を再生する

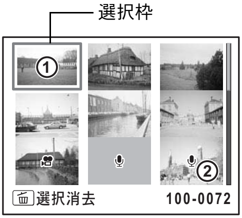
操作方法は「画像を再生する」（p.35）をご覧ください。



9画像表示、フォルダ表示をする

撮った画像を液晶モニタに同時に9枚ずつ表示できます。

1　再生モードで、ズーム /⊞/🔍 ボタンの⊞を押す



画像が9コマずつ表示されます。
十字キー（▲▼◀▶）で選択枠が移動します。10以上の画像が記録されている場合、フロントレバーを操作するか、①の画像を選択しているときに十字キー（◀）を押すと前の9画像が表示され、②の画像を選択しているときに十字キー（▶）を押すと次の9画像が表示されます。

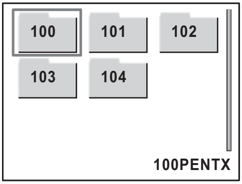
画像の上に表示される記号の意味を示します。

無印	：ボイスメモなしの静止画
🎙（画像あり）	：ボイスメモ付きの静止画
🎥	：動画（1コマ目の画像が表示されます。）
🎙（画像なし）	：録音のみのファイル

ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍か**OK**ボタンを押すと、選択した画像の全画面表示に切り替わります。
▶ボタンを押すと、撮影モードに切り替わります。

2 ズーム/▦/Q ボタンの▦を押す

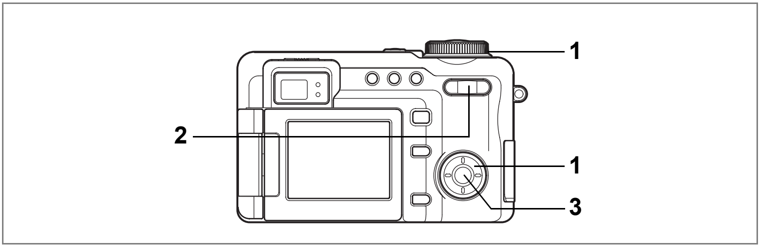
フォルダの一覧が表示されます。



3 十字キー（▲▼◀▶）でフォルダを選ぶ

ズーム/▦/Q ボタンのQか**OK**ボタン、または▶ボタンを押すと、フォルダ内の画像が9画像表示されます。

続いてズーム/▦/Q ボタンのQか**OK**ボタン、または▶ボタンを押すと、選択した画像の全画面表示に切り替わります。



再生画像を拡大する

再生する画像を最大10倍まで拡大表示できます。拡大中は液晶モニタにガイドが表示されます。

1　再生モードに入り、フロントレバーまたは十字キー（◀▶）で拡大表示したい画像を選ぶ

2　ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍を押す

画面が大きく（1倍～10倍）表示されます。押し続けると連続的に大きさが変わります。



拡大表示中にできる操作

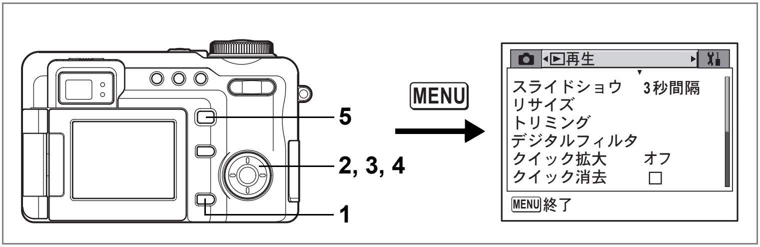
十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動する
ズーム/⊞/🔍ボタン（🔍）	画像を大きくする
ズーム/⊞/🔍ボタン（⊞）	画像を小さくする

3　OKボタンを押す

×1の画像に戻ります。

注意　動画は拡大表示できません。

5 画像の再生と消去



クイック拡大をオン／オフする

拡大再生時にズーム/⊞/🔍ボタンの🔍を1回押すだけで、画像を設定された倍率まで拡大できます。

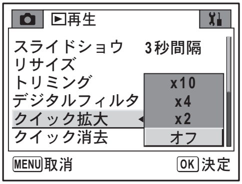
1　再生モードでMENUボタンを押す

「▶再生」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「クイック拡大」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。



4　十字キー（▲▼）で倍率を切り替える

×2、×4、×10　：ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍を1回押すと、設定された倍率まで一気に拡大し、その後は1段階ずつ拡大

オフ　：ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍を1回押すと、×1.1～×10.0の範囲で1段階ずつ拡大

5　▶ボタンを押す

再生できる状態になります。

設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

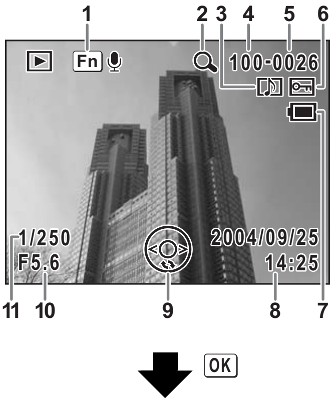
撮影時の情報を表示する

再生モード時に**OK**ボタンを押すと、表示中の画像に関する撮影情報などの表示（ディスプレイモード）が切り替わります。

通常表示	：表示されている画像の撮影条件などを表示します。
ヒストグラム表示	：画像の明度分布を表示します。ヒストグラムの横軸は明るさ（左端が最も暗く、右端が最も明るい）、縦軸はピクセル数を表わします。画面内で白とび部分は赤く、黒つぶれ部分は黄色く点滅表示されます。

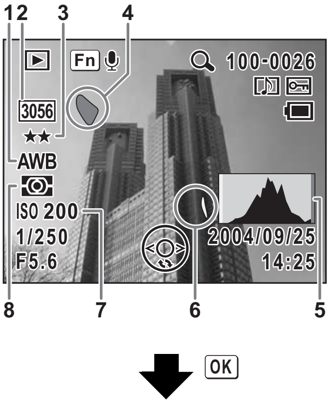
通常表示

1 Fnボタンガイド表示（p.148）
2 デジタルズーム表示（p.119）
3 ボイスメモ表示（p.149）
4 フォルダ番号
5 ファイル番号
6 プロテクトマーク（p.131）
7 バッテリー残量表示（p.16）
8 現在の日時（p.29）
9 十字キーガイド表示
10 絞り値（p.50）
11 シャッター速度（p.51）



ヒストグラム表示

1 ホワイトバランス（p.95）
2 記録サイズ（p.91）
3 画質（p.93）
4 白とび
5 ヒストグラム
6 黒つぶれ
7 感度（p.101）
8 測光方式（p.100）



表示なし
撮影情報を表示しません。

表示なし

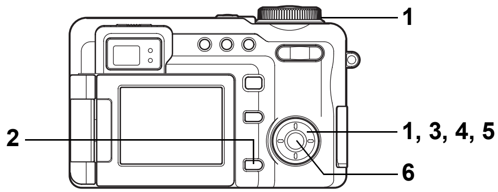
↓ OK

通常表示へ

撮影情報を確認する☞p.81

「白とび」「黒つぶれ」表示について

ヒストグラム表示に切り替えたときに、画像の中で白くとんでいる部分は赤く点滅表示します。また黒くつぶれている部分は黄色で点滅表示します。これらの表示は、画像をパソコンの画面で見たり、プリントしたときに、その部分が明るすぎたり暗すぎたりして、細部を再現できないことを表します。



スライドショウで連続再生する

SDメモリーカードに保存された全画像を連続して再生します。

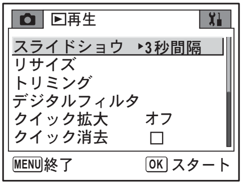
1　再生モードに入り、フロントレバーまたは十字キー（◀▶）でスライドショウを開始する画像を選ぶ

2　MENUボタンを押す

「▶再生」メニューが表示されます。

3　十字キー（▲▼）で「スライドショウ」を選ぶ

現在の設定でスライドショウをスタートする場合は、手順6に進みます。



4　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

5　十字キー（▲▼）で再生間隔を切り替える

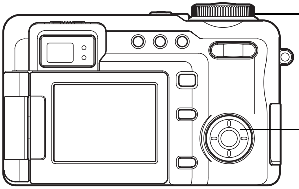
3秒、5秒、10秒、15秒、20秒、30秒から選択できます。

6　OKボタンを押す

設定した時間間隔でスライドショウが始まります。
OKボタン、**MENU**ボタンなどどれかのボタンを押すとスライドショウが終了します。

- スライドショウは、終了するまで何度でも繰り返します。
- TIFF画像など表示に時間のかかる画像は、表示開始後2秒経過で次の画像に進みます。
- ボイスメモ付き画像は、設定した再生間隔にかかわらず、すべて再生されてから次の画像に移ります。
- 動画の再生中に十字キー（▶）を押すと、次の画像へ移ります。
- ボイスレコーディングモードで録音した音声は、再生されません。

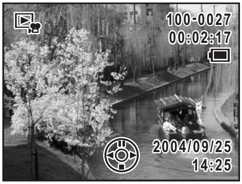
テレビで静止画／動画を見る☞p.126



動画を再生する

動画を再生します。再生中は液晶モニタに操作ガイドが表示されます。音声も同時に再生されます。

1　再生モードに入り、フロントレバーまたは十字キー（◀▶）で再生したい動画を選ぶ



2　十字キー（▲）を押す

再生が開始します。

再生中にできる操作

十字キー（◀）	逆方向に再生
十字キー（▶）	順方向に再生
十字キー（▲）	一時停止
ズーム/⊞/🔍ボタン（♠）	音量を大きくする
ズーム/⊞/🔍ボタン（♠♠♠）	音量を小さくする

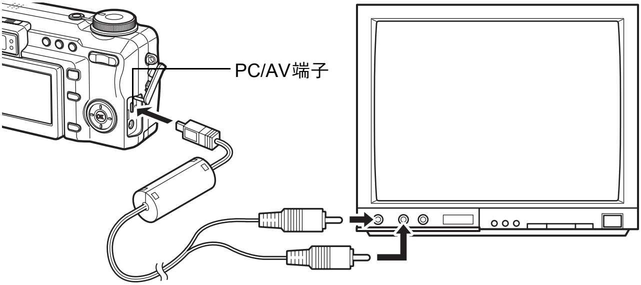
一時停止中にできる操作

十字キー（◀）	コマ戻しする
十字キー（▶）	コマ送りする
十字キー（▲）	一時停止を解除（再生）

3　十字キー（▼）を押す

再生が停止し、再生開始画面に戻ります。

テレビで静止画／動画を見る



AVケーブルを使用すると、テレビなど、ビデオ入力端子を備えた機器をモニタにして撮影や再生ができます。ケーブルを接続するときは、テレビとカメラの電源を必ずオフにしてください。

1　端子カバーを開き、PC/AV端子にAVケーブルを接続する

2　AVケーブルのもう一方の端子を、テレビの映像入力端子と音声入力端子に接続する

ステレオ音声の機器に接続するときは、音声端子をL（白）に差し込んでください。

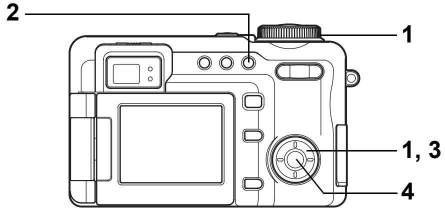
3　テレビとカメラの電源をオンにする

メモ

- 長時間使用するときは、ACアダプタキットK-AC7J（別売）の使用をおすすめします。
- ビデオの出力方式は国や地域によって違います。うまく映らないときは、ビデオの出力方式を確認してください。テレビなど接続する機器の使用説明書もご覧ください。

ビデオ出力方式を選択する☞p.160

消去する



1画像、1音声ずつ消去する

1画像、1音声ずつ消去します。

注意
- 消去した画像は復元できません。
- プロテクトされている画像は消去できません。（☞p.131）

1　再生モードに入り、フロントレバーまたは十字キー（◀▶）で消去したい画像または音声を選ぶ

2　🗑ボタンを押す

消去画面が表示されます。

3　十字キー（▲）で「消去」を選ぶ

4　OK ボタンを押す

消去されます。



メモ
「▶ 再生」メニューの「クイック消去」を☑（オン）に設定すると手順3の操作を省略することができます。（☞p.128）

ボイスメモを消去する

ボイスメモ付きの画像の場合は、画像は消去せずにボイスメモのみを消去することができます。

1 再生モードに入り、フロントレバーまたは十字キー（◀▶）で消去したいボイスメモ付きの画像を選ぶ

2 🗑ボタンを押す

消去画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「音声消去」を選ぶ



4 OKボタンを押す

ボイスメモが消去されます。

> メモ：画像とボイスメモの両方を消去するには、手順3で「消去」を選びます。

クイック消去を☑（オン）／□（オフ）する

クイック消去を☑（オン）に設定すると、消去画面が表示されたとき、「消去」が選択された状態になり、消去手順が簡単になります。

1 再生モードでMENUボタンを押す

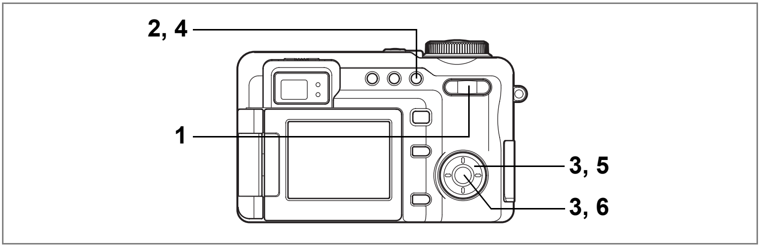
「▶再生」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「クイック消去」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を設定する

4 ▶ボタンを押す

再生できる状態になります。
設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。



選択して消去する（9画面表示で消去）

9画面表示で複数の画像や音声を選択し、一括して削除します。

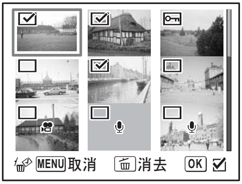
注意
- 消去した画像は復元できません。
- プロテクトされている画像や音声は消去できません。

1　再生モードで、ズーム/▦/🔍ボタンの▦を押す

画像が9コマずつ表示されます。

2　🗑ボタンを押す

3　十字キー（▲▼◀▶）で削除する画像または音声に移動し、OKボタンを押す



画像が選択され、☑が表示されます。
ズーム/▦/🔍ボタンの🔍を長押しすると、押しているあいだだけ選択した画像が全画面表示され、離すと9画面表示に戻ります。
プロテクトされた画像は1画面表示できません。

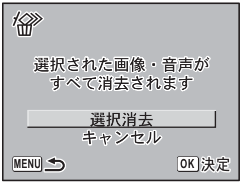
4　🗑ボタンを押す

消去確認画面が表示されます。

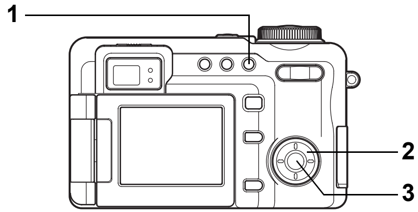
5　十字キー（▲▼）で「選択消去」を選ぶ

6　OKボタンを押す

選択した画像が消去されます。



メモ
1度に選択できる画像の数は9999枚までです。



まとめて消去する

保存されている全画像、全音声を消去します。

注意
- 消去した画像は復元できません。
- プロテクトされている画像や音声は消去できません。

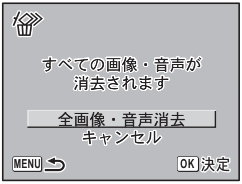
1　再生モードで 🗑 ボタンを2回押す

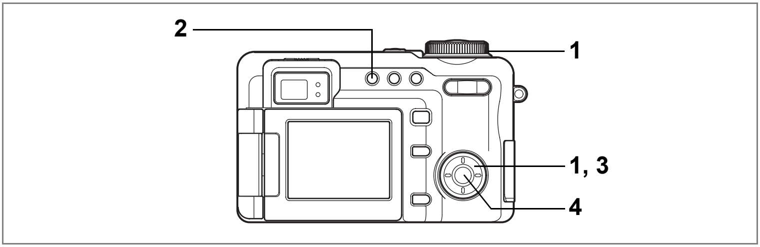
全画像・音声消去画面が表示されます。

2　十字キー（▲）で「全画像・音声消去」を選ぶ

3　OK ボタンを押す

全画像、全音声が消去されます。





消去できないようにする（プロテクト）

画像や音声を誤って消去しないようにプロテクト（保護）することができます。

1　再生モードに入り、フロントレバーまたは十字キー（◀▶）でプロテクトする画像または音声を選ぶ

2　O‑π ボタンを押す

プロテクト画面が表示されます。

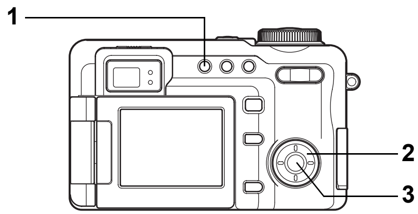
3　十字キー（▲）で「プロテクト」を選ぶ

4　OK ボタンを押す

選択した画像がプロテクトされます。



メモ
- プロテクトを解除するには、手順3で「解除」を選びます。
- プロテクトされた画像や音声には、再生時にO‑πが表示されます。



全ての画像と音声をプロテクトするには

全ての画像と音声をプロテクトすることができます。

注意 SDメモリーカードをフォーマットすると、プロテクトされた画像や音声も消去されます。

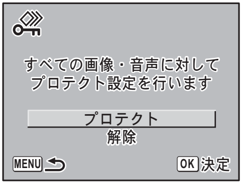
1　再生モードでO⊸ボタンを2回押す

全画像・音声プロテクト画面が表示されます。

2　十字キー（▲）で「プロテクト」を選ぶ

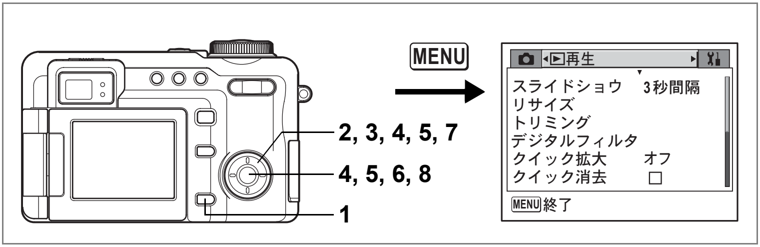
3　OKボタンを押す

全画像、全音声がプロテクトされます。



メモ 手順2で「解除」を選ぶと、全画像、全音声のプロテクト設定が解除されます。

編集する



画像のサイズと画質を変更する（リサイズ）

選択した画像の記録サイズと画質を変更して、ファイルサイズを元のファイルサイズよりも小さくすることができます。SDメモリーカードがいっぱいになって撮影できなくなったとき、画像をリサイズして上書きすれば、空き容量が増え、撮影を続けることができます。

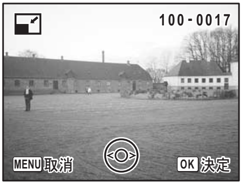
1　再生モードでMENUボタンを押す

「▶再生」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「リサイズ」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

リサイズ画面が表示されます。



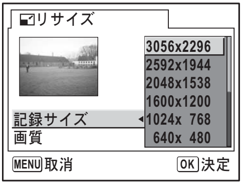
4　十字キー（◀▶）でリサイズする画像を選び、OKボタンを押す

サイズと画質の選択画面が表示されます。

5　サイズと画質を選択する

十字キー（▶）でポップアップを表示し、十字キー（▲▼）で選択し、**OK**ボタンを押します。

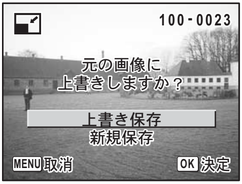
元の画像よりも大きいサイズ、きれいな画質は選択できません。



6　OKボタンを押す

上書き確認画面が表示されます。

7　十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

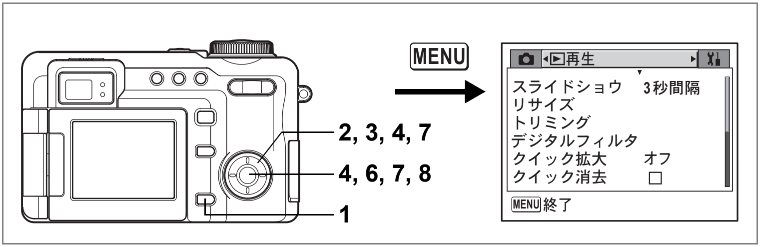


8　OK ボタンを押す

リサイズされた画像が保存されます。
シャッターボタンまたは ▶ ボタンを押すと、リサイズを中止して撮影モードまたは再生モードになります。

メモ

- TIFF画像はリサイズできません。
- 動画はリサイズできません。
- 元の画像よりも大きな記録サイズ、きれいな画質は選択できません。



画像をトリミングする

画像周囲の不要な部分をカットして、別の画像として保存します。

1　再生モードでMENUボタンを押す

「▶再生」メニューが表示されます。

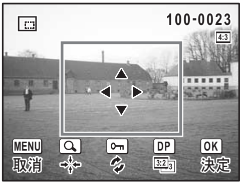
2　十字キー（▲▼）を押して「トリミング」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

トリミングできる画面が表示されます。

4　十字キー（◀▶）でトリミングする画像を選び、OKボタンを押す

トリミング画面が表示されます。



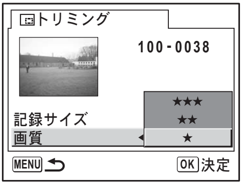
5　トリミング条件を選ぶ

トリミング画面でできる操作

十字キー（▲▼◀▶）	トリミング位置を移動する
ズーム/⊞/🔍ボタン	トリミングサイズを変える
O‑πボタン	トリミング範囲を回転する
DPOFボタン	トリミング範囲の横縦比を切り替える（4:3 ⇔ 3:2）

6　OKボタンを押す

サイズと画質の選択画面が表示されます。



6
画像の編集と印刷

7 サイズと画質を選択する

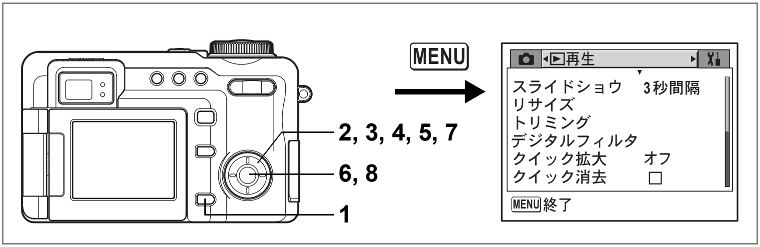
十字キー（▶）でポップアップを表示し、十字キー（▲▼）で選択し、**OK** ボタンを押します。
元の画像よりも大きいサイズ、きれいな画質は選択できません。

8 OK ボタンを押す

トリミングされた画像が新しい名前で保存されます。
シャッターボタン、▶ボタンを押すと、トリミングを中止して撮影モード、または再生モードになります。

メモ

- TIFF画像はトリミングできません。
- 動画はトリミングできません。
- トリミングサイズに応じた画像サイズで保存されます。



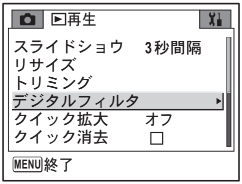
デジタルフィルタを使って編集する

撮影した静止画像に対してデジタルフィルタ処理を行います。
デジタルフィルタには、白黒、セピア、赤、桃、紫、青、緑、黄、SOFT、明るさの10種類のフィルタがあります。

1　再生モードでMENUボタンを押す

「▶再生」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「デジタルフィルタ」を選ぶ



3　十字キー（▶）を押す

デジタルフィルタで処理できる画像が表示されます。



4　十字キー（◀▶）で編集する画像を選ぶ

5　十字キー（▲▼）でデジタルフィルタを選ぶ

を選んだときは、フロントレバーを左右に動かすと明るさを調整できます。

6　OKボタンを押す

7　十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

8　OKボタンを押す

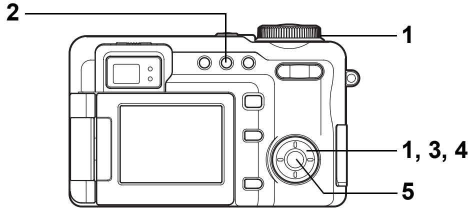
デジタルフィルタで編集された画像が保存されます。
元の画像と同じ記録サイズ、画質で保存されます。



注意　デジタルフィルタ処理では、画質がTIFFに設定されていても★★★（JPEG）で保存されます。

プリントサービスの設定をする（DPOF）

SDメモリーカードに保存した画像にDPOF（Digital Print Order Format）設定をすると、DPOF対応プリンタやラボプリントサービスでDPOF設定にしたがってプリントできます。



1画像ずつ設定する

各画像ごとに、次の項目の設定をします。
枚数：プリントする枚数を設定します。99枚までの設定ができます。
日付：プリントする画像に日付を入れるか入れないかを設定します。

1　フロントレバーまたは十字キー（◀▶）でプリント指定する画像を選ぶ

2　DPOFボタンを押す

DPOF設定画面が表示されます。

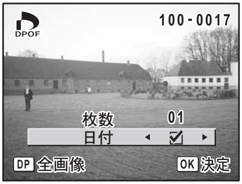


3　十字キー（◀▶）でプリント枚数を設定し、十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

4　十字キー（◀▶）で日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑　：プリントに日付を入れる
□　：プリントに日付を入れない



5　OK ボタンを押す

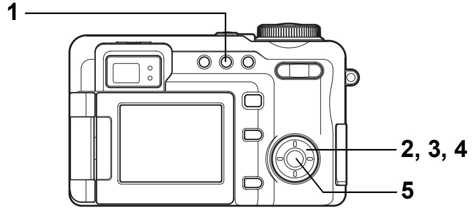
DPOF設定が保存され、再生できる状態になります。

メモ

- すでにDPOFが設定されている画像は、設定された枚数と日付のオン／オフが表示されます。
- DPOFを解除するには、枚数を「0」に設定して、**OK** ボタンを押します。

注意

- 動画や音声のみのファイルには、DPOF設定をすることはできません。
- プリンタやプリント取扱い店のプリント機器によっては、DPOFの設定で日付をオンにしてもプリントに日付が写し込まれない場合があります。



全画像を設定する

1　再生モードでDPOFボタンを2回押す

全画像DPOF設定画面が表示されます。

2　十字キー（◀▶）でプリント枚数を設定する

99枚まで設定ができます。



3　十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

4　十字キー（◀▶）で日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑　：プリントに日付を入れる
□　：プリントに日付を入れない

5　OKボタンを押す

設定した値でDPOF設定が保存され、再生できる状態になります。

注意　全画像設定でプリント枚数の指定をすると、すべてのコマに指定した枚数が設定されます。プリントをする前に必ず、枚数の設定が正しいか確認してください。

メモ
- 全画像設定を行うと、1画像ずつの設定は解除されます。
- 動画や音声のみのファイルにはDPOF設定をすることはできません。

カメラを直接プリンタにつないでプリントする（PictBridge）

付属のUSBケーブル（I-USB7）でカメラをPictBridge対応プリンタに接続すると、パソコンを介さなくてもカメラからダイレクトに画像をプリントすることができます。プリントする画像の選択やプリントする枚数は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラ側で設定します。

注意

- カメラをプリンタに接続するときは、ACアダプタキットK-AC7J（別売）のご使用をおすすめします。プリンタと通信中にバッテリーが消耗すると、プリンタが誤動作したり、画像データが壊れることがあります。
- データ転送中にUSBケーブルを抜かないでください。
- プリンタの種類によっては、カメラ側の設定（画質、DPOFの設定など）が一部しか反映されないことがあります。
- 設定されたプリント枚数が500枚以上になる場合、カメラを直接PictBridge対応のプリンタと接続してプリントするときに、正しくプリントされないことがあります。
- プリントサイズの設定はカメラではできません。プリンタ側で設定してください。詳しくはプリンタの使用説明書をご覧ください。

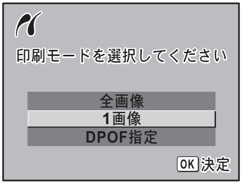
カメラをプリンタに接続する

1 「詳細設定」メニューの「USB接続」で「PictBridge」を選ぶ

「USB接続モードを変更する」（p.161）をご覧ください。

2 付属のUSBケーブルでカメラをプリンタに接続する

PictBridgeメニュー画面が表示されます。

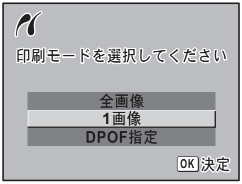


注意

「USB接続」で「PictBridge」に設定したままカメラをパソコンに接続しないでください。

1画像ずつプリントする

1　PictBridge メニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「1画像」を選ぶ。



2　OK ボタンを押す

1画像印刷画面が表示されます。

3　十字キー（◄►）でプリントする画像を選ぶ



4　十字キー（▲▼）でプリントする枚数を選ぶ

99枚まで設定ができます。

5　Fnボタンで、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑ ：プリントに日付を入れる

□ ：プリントに日付を入れない

6　OK ボタンを押す

設定した値で印刷をはじめます。
印刷中に**MENU**ボタンを押すと、印刷を中止します。

全画像をプリントする

1 PictBridge メニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「全画像」を選ぶ



2 OK ボタンを押す

全画像印刷画面が表示されます。



3 十字キー（▲▼）を押してプリントする枚数を選ぶ

全画像を何枚ずつプリントするかを選びます。

4 Fn ボタンで、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑ ：プリントに日付を入れる
□ ：プリントに日付を入れない

5 OK ボタンを押す

設定した条件で全画像がプリントされます。
印刷中に**MENU**ボタンを押すと、印刷を中止します。

6 画像の編集と印刷

プリントサービスの設定（DPOF）内容でプリントする

1　PictBridgeメニュー画面で十字キー（▲▼）を押して「DPOF指定」を選ぶ

2　OKボタンを押す

DPOF指定印刷画面が表示されます。
十字キー（◀▶）で、画像と印刷設定を確認できます。



3　OKボタンを押す

選んだ画像に設定されているプリントサービスの設定内容でプリントされます。
印刷中に**MENU**ボタンを押すと、印刷を中止します。

メモ　印刷中は､ストロボランプが点滅して通信中であることをお知らせします。

プリンタからカメラを取り外す

プリントが終了したら、カメラをプリンタから取り外します。

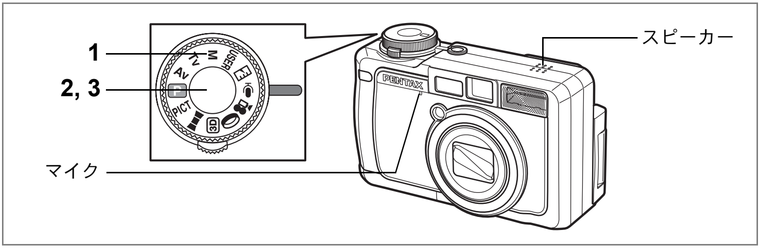
1　カメラからUSBケーブルを取り外す

2　プリンタからUSBケーブルを取り外す

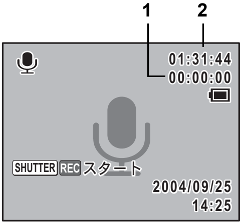
メモ　カメラからUSBケーブルを取り外すと、カメラは自動的に電源オフになります。

音声を録音する（ボイスレコーディングモード）

音声を記録します。



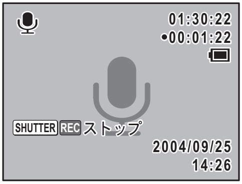
1 モードダイヤルを 🎙 に合わせる



液晶モニタに録音可能な時間と、これから録音するファイルの録音時間が表示されます。

1 録音時間
2 残り録音可能時間

2 シャッターボタンを押す



録音が開始されます。録音中は、セルフタイマーランプ、ストロボランプが点滅します。
シャッターボタンを1秒以上押し続けると、押している間だけ録音され、シャッターボタンを離すと録音を停止します。

3 シャッターボタンを押す

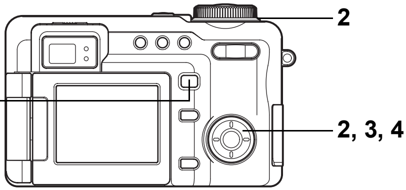
録音が終了します。

メモ

- 音声はモノラルのWAVEファイルで記録されます。
- マイクはカメラ正面にあります。最適な状況で録音できるように、カメラの向きを調整してください。
- **OK** ボタンを押すと、液晶モニタの表示を消すことができます。もう一度 **OK** ボタンを押すと、再表示します。

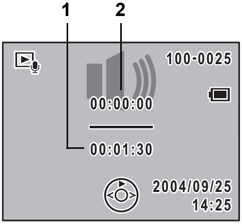
音声を再生する

ボイスレコーディングモードで録音した音声を再生します。



1　▶ボタンを押す

2　フロントレバーまたは十字キー（◀▶）で再生したい音声ファイルを選ぶ



3　十字キー（▲）を押す

録音を再生します。

1 ファイルの総録音時間
2 再生済時間

再生中にできる操作

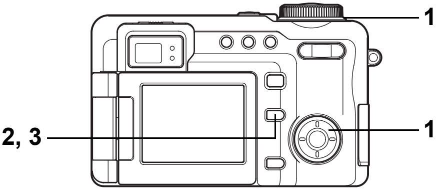
十字キー（▲）	再生を一時停止 もう一度押すと、再生を再開
十字キー（◀）	巻戻し再生する
十字キー（▶）	早送り再生する
ズーム/⊞/🔍ボタン（♠）	音量を大きくする
ズーム/⊞/🔍ボタン（♠♠♠）	音量を小さくする

4　十字キー（▼）を押す

再生が停止します。

画像に音声を付ける（ボイスメモ）

撮影した静止画像に30秒までの音声（ボイスメモ）を付けることができます。



ボイスメモを録音する

1　再生モードに入り、フロントレバーまたは十字キー（◀▶）でボイスメモを付けたい画像を選ぶ

再生された画像にボイスメモが付いていなければ、液晶モニタのFnボタン操作ガイドに🎤が表示されます。

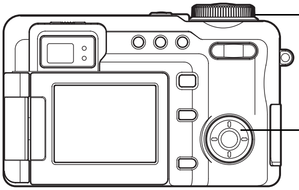


2　Fnボタンを押す

ボイスメモの録音を開始します。ボイスメモは最長30秒録音できます。

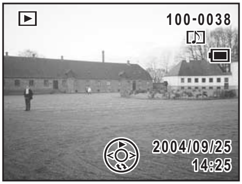
3　Fnボタンを押す

ボイスメモの録音が終了します。



ボイスメモを再生する

1　再生モードに入り、フロントレバーまたは十字キー（◀▶）でボイスメモを再生する画像を選ぶ



再生された画像に［♪］が表示されていれば、ボイスメモが録音されています。

2　十字キー（▲）を押す

録音されたボイスメモが再生されます。

再生中にできる操作

ズーム/⊞/🔍ボタン（♠）　音量を大きくする
ズーム/⊞/🔍ボタン（♠♠♠）　音量を小さくする

3　十字キー（▼）を押す

ボイスメモの再生を停止します。

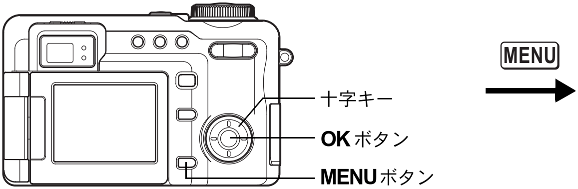
ボイスメモを消去する☞p.128

メモ

- すでにボイスメモが録音されている画像にボイスメモを上書きすることはできません。いったんボイスメモを消去してから、もう一度録音してください。（☞p.128）
- プロテクト（O‑n）されている画像（☞p.131）にボイスメモを付けることはできません。

カメラの設定をする

「🔧詳細設定」メニューの呼び出しかた



SDメモリーカードをフォーマットする

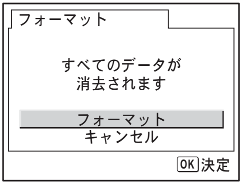
SDメモリーカードに保存されているすべてのデータを消去します。

注意
- SDメモリーカードのフォーマット中は、カードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトされた画像も消去されます。ご注意ください。
- パソコンなどこのカメラ以外の機器でフォーマットされた SD メモリーカードは使用できません。必ずカメラでフォーマットを行ってください。

1 「🔧詳細設定」メニューの「フォーマット」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

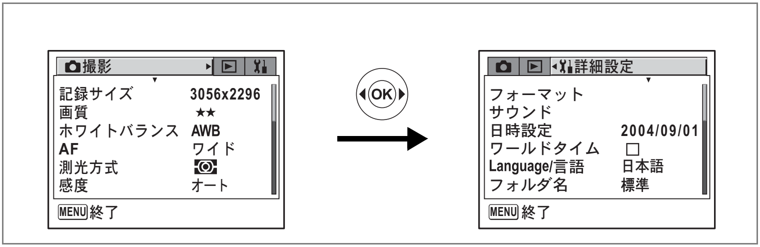
フォーマット画面が表示されます。



3 十字キー（▲▼）で「フォーマット」を選ぶ

4 OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。フォーマットが終わると撮影できる状態になります。



日時を変更する

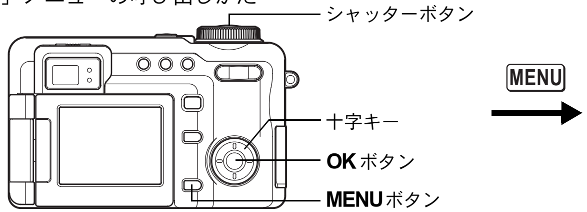
初期設定で設定した日付と時刻を変更します。また、カメラに表示する日付の表示形式を設定します。「年/月/日」「月/日/年」「日/月/年」から選べます。

1　「詳細設定」メニューの「日時設定」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

日時設定画面が表示されます。
日時の設定方法は「日時を設定する」（p.29）をご覧ください。

「🔧詳細設定」メニューの呼び出しかた



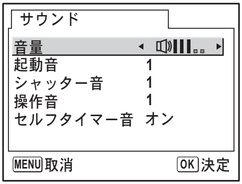
サウンドの設定を変更する

各種操作音の音量、それぞれの音の種類を変更できます。

1 「🔧詳細設定」メニューの「サウンド」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

サウンド画面が表示されます。



操作音量を変更する

3 十字キー（▲▼）を押して「音量」を選ぶ

4 十字キー（◀▶）を押して音量を切り替える

音量を0にすると操作音は鳴りません。

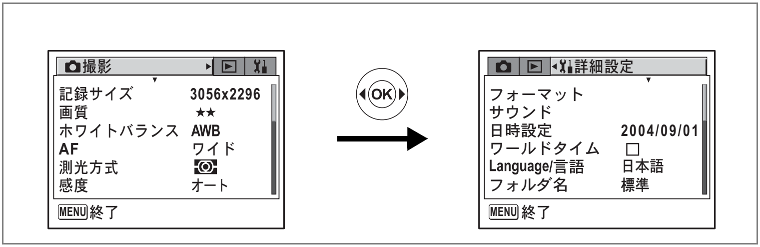
音の種類を変更する

5 十字キー（▲▼）を押して「起動音」を選ぶ

6 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「1」「2」「3」「オフ」「USER」のいずれかを選び、十字キー（◀）を押す



8　手順5～7を繰り返して「シャッター音」「操作音」「セルフタイマー音」を設定する

セルフタイマー音は「オン」「オフ」「USER」から選びます。

9　シャッターボタンを押す

今行った設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

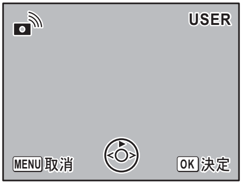
USER音を設定する

任意の音声の冒頭の2秒間をUSER音として起動音やシャッター音に使用できます。あらかじめ使用する音声をカメラで録音しておきます。（☞p.146）

1　前項の手順7、8で「USER」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

カメラにUSER設定ができる音声が記録されている場合、再生画面が表示されます。USER設定されている音声にはUSERと表示されます。



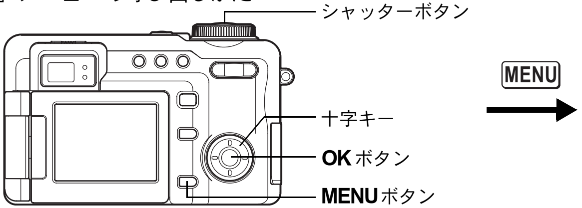
3　十字キー（◀▶）でファイルを選ぶ

十字キー（▲）　冒頭の2秒間を再生
十字キー（▼）　再生終了

4　OKボタンを押す

選んだ音声が、起動音やシャッター音のUSER音として設定されます。

「詳細設定」メニューの呼び出しかた



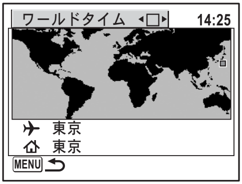
ワールドタイムを設定する

「日時を設定する」(p.29) で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。
「ワールドタイム」を設定しておくと、海外で使用する際、液晶モニタに目的地として設定した国や地域の日時を表示できます。

1 「詳細設定」メニューの「ワールドタイム」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ワールドタイム設定画面が表示されます。



3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

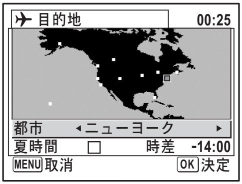
☑ ：目的地で選択した都市の時刻を表示
□ ：現在地で選択した都市の時刻を表示

4 十字キー（▼）を押す

選択枠が✈に移動します。✈の都市が点滅表示されます。

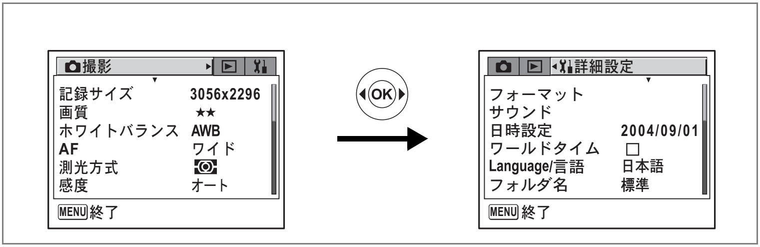
5 十字キー（▶）を押す

目的地設定の拡大画面が表示されます。
十字キー（◀▶）を押すと、拡大表示する地域が切り替わります。



6 十字キー（▼）を押す

選択枠が都市に移動します。



7　十字キー（◀▶）で、目的地都市名を選ぶ

選択した都市の現在時刻、位置、時差が表示されます。

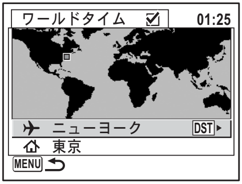
8　十字キー（▼）で「夏時間」を選択する

9　十字キー（◀▶）で、☑（オン）／□（オフ）を切り替える

行き先が夏時間を採用している場合は、☑（オン）にします。

10　シャッターボタンを半押しする

ワールドタイムの設定が保存され、撮影できる状態になります。
設定を続ける場合は、**OK** ボタンを押してワールドタイム設定画面に戻ります



メモ　手順4で ⌂ を選ぶと現在地の都市や夏時間を設定できます。

表示言語を変更する

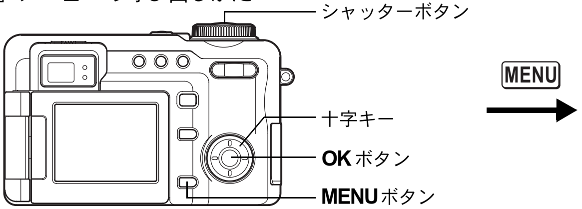
メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。
英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／イタリア語／ロシア語／韓国語／中国語（繁体字/簡体字）／日本語の9言語に対応しています。

1　「詳細設定」メニューの「Language/言語」を 選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

Language/言語 画面が表示されます。
表示言語の変更方法は、「言語を設定する」（p.28）をご覧ください。

「🔧詳細設定」メニューの呼び出しかた

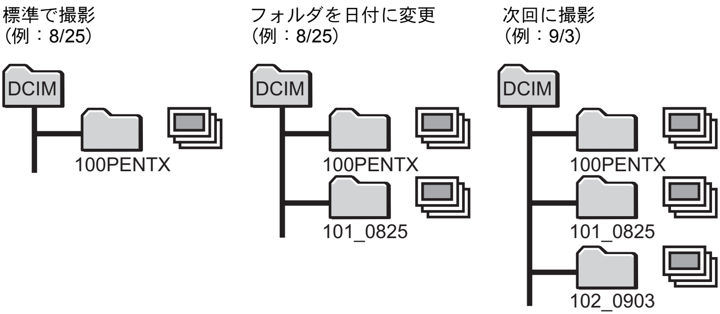


画像のフォルダ名を変更する

画像のフォルダ名を、標準から日付に変更できます。日付に設定すると写真は撮影日ごとに違うフォルダに保存されます。

画像フォルダ名

標準	XXXPENTX（XXXは3桁のフォルダ番号）
日付	XXX_mmdd（3桁のフォルダ番号_月日）



1　「🔧詳細設定」メニューの「フォルダ名」を選ぶ

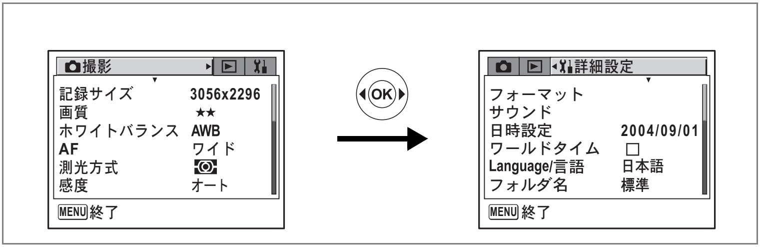
2　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3　十字キー（▲▼）で「標準」または「日付」を選ぶ

4　シャッターボタンを半押しする

フォルダ名の設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。



起動画面表示を変更する

1　「詳細設定」メニューの「起動画面表示」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

起動画面変更画面が表示されます。



3　十字キー（◀▶）で起動画面の☑（表示）／□（非表示）を切り替える

4　十字キー（▼）を押す

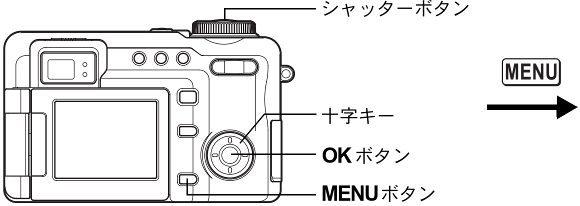
5　十字キー（◀▶）で起動画面を選ぶ

6　OKボタンを3回押す

起動画面の表示設定が保存され、撮影または再生できる状態になります。

8 設定

「詳細設定」メニューの呼び出しかた



撮影情報表示をお好みに変更する

静止画撮影中に液晶モニタに表示される情報を、フル表示と非表示のあいだでユーザーの好みに合わせて 2 通り設定できます。
工場出荷時には、設定1はフル表示、設定2は表示無し、となっています。表示できる項目はp.181を参照してください。

撮影情報を確認する☞p.81

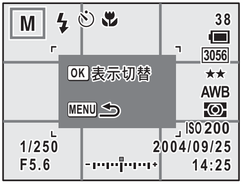
1 「詳細設定」メニューの「DISPLAY」を選ぶ

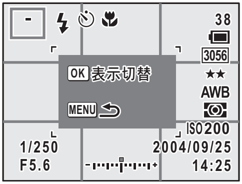
2 十字キー（▶）を押す

撮影画面情報表示画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「1」または「2」を選び、十字キー（▶）を押す

「1」を選ぶと設定1変更画面が表示されます。
ドライブモードアイコンが選択枠で囲まれています。





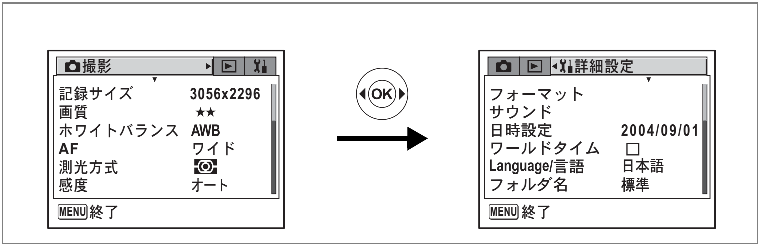
4 OK ボタンで選択枠の項目の表示／非表示を選ぶ

5 十字キー（▲▼◀▶）で選択枠を移動する

6 手順4～5を繰り返し、表示情報をお好みに設定する

7 シャッターボタンを半押しする

撮影情報の表示設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。



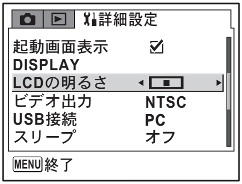
液晶モニタの明るさを設定する

液晶モニタの明るさを設定できます。

1　「詳細設定」メニューの「LCDの明るさ」を選ぶ

2　十字キー（◀▶）で明るさを調整する

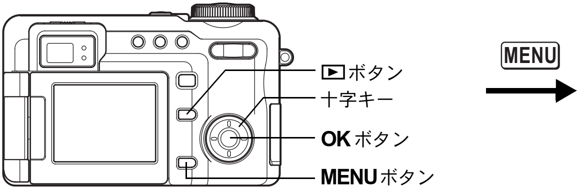
バーのスライダーが左に移動すると暗くなり、右に移動すると明るくなります。



3　シャッターボタンを半押しする

LCDの明るさの設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

「詳細設定」メニューの呼び出しかた



ビデオ出力方式を選択する

テレビをモニタにして撮影や再生をするときの出力形式を、NTSC方式とPAL方式から選択します。

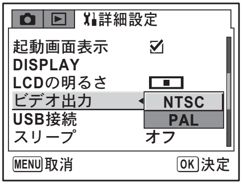
1　「詳細設定」メニューの「ビデオ出力」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3　十字キー（▲▼）で「NTSC」「PAL」を切り替える

モニタするテレビの出力方式に合わせて選択します。

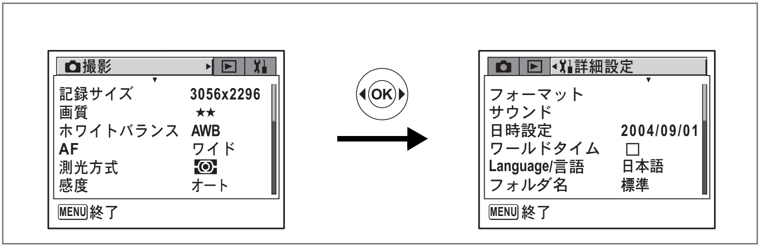


4　ボタンを押す

ビデオ出力方式の設定が保存され、再生できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

メモ　日本国内では、NTSC方式です。

テレビで静止画／動画を見る☞p.126



USB接続モードを変更する

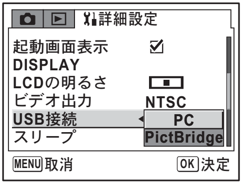
USBケーブルの接続先（パソコンまたはPictBridge対応プリンタ）に応じてUSB接続モードを切り替えます。

1　「詳細設定」メニューの「USB接続」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3　十字キー（▲▼）で「PC」「PictBridge」を切り替える



「PC」　　　　：パソコンに接続する場合に選択

「PictBridge」：PictBridge対応のプリンタに直接接続する場合に選択

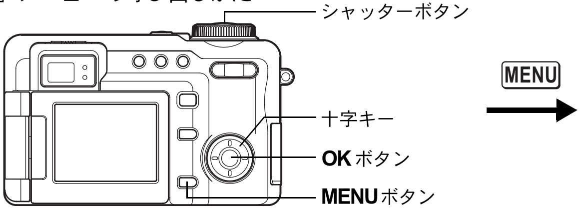
4　▶ボタンを押す

USBモードの設定が保存され、再生できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

注意　「USB接続」で「PictBridge」に設定したままカメラをパソコンに接続しないでください。

メモ　パソコンとの接続については、別冊の『PC活用編 デジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむには』を参照してください。

「⚙詳細設定」メニューの呼び出しかた



スリープを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に液晶モニタが消えるように設定します。スリープ中に電源スイッチ以外のボタンを押すと、スリープ前の状態に戻ります。

1 「⚙詳細設定」メニューの「スリープ」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

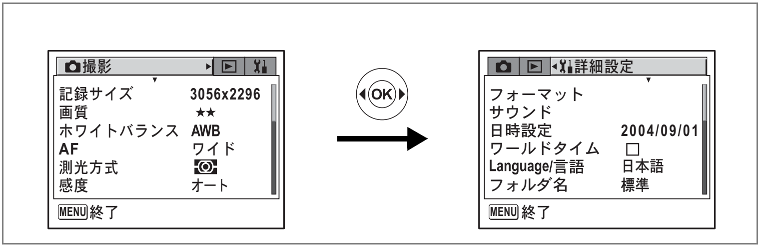
ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「2分」「1分」「30秒」「オフ」のいずれかを選ぶ

4 シャッターボタンを半押しする

スリープの設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

メモ　スライドショウで再生しているときや、動画再生中はスリープは働きません。



オートパワーオフを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に電源が切れるように設定できます。

1　「詳細設定」メニューの「オートパワーオフ」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3　十字キー（▲▼）で「5分」「3分」「オフ」を切り替える

4　シャッターボタンを押す

オートパワーオフの設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6（p.43）を参照してください。

メモ　スライドショウで再生しているときや、動画再生中は、オートパワーオフは働きません。

設定をリセットする

日時設定、Language/言語、ワールドタイム以外の設定内容をすべてご購入時の状態に戻します。リセットする項目については初期設定一覧（p.179）を参照してください。

1　「詳細設定」メニューの「リセット」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

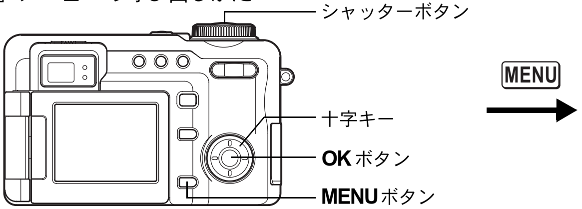
リセット画面が表示されます。

3　十字キー（▲）で「リセット」を選ぶ

4　OK ボタンを押す

リセットが実行され、撮影または再生できる状態になります。

「⚙詳細設定」メニューの呼び出しかた



Fn設定をする

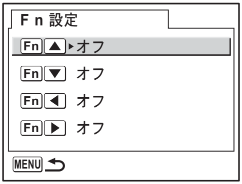
Fnボタンは、カメラの設定を簡単な手順で行うために使うボタンです。あらかじめ十字キー（▲▼◀▶）に機能を登録しておくと、**Fn**ボタンを押し、続いて十字キーを押すことで、**MENU**ボタンからメニュー画面を表示するよりも簡単に機能を設定できます。

Fn設定を登録する

1　「⚙詳細設定」メニューの「Fn設定」を選ぶ

2　十字キー（▶）を押す

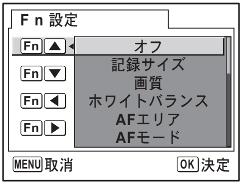
Fn設定画面が表示されます。



3　十字キー（▲▼）で設定するキーを選ぶ

4　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

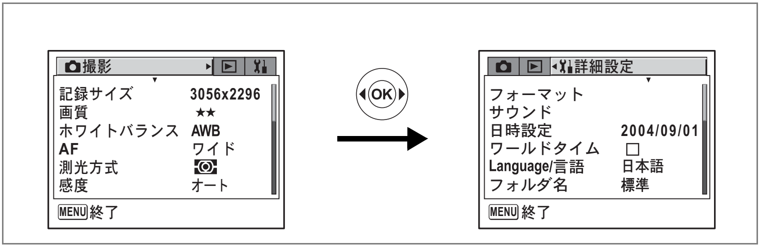


5　設定する機能を選び、OK ボタンを押す

6　手順3〜5を繰り返し、必要な機能を登録する

7　シャッターボタンを半押しする

Fn設定が保存され、直ちに撮影できる状態になります。設定後にその他の操作を行いたい場合は、「メニューの基本操作」の手順6 (p.43) を参照してください。



メモ

- 登録できるのは次の17機能とオフ（設定なし）です。
  記録サイズ、画質、ホワイトバランス、AFエリア、AFモード、フォーカスリミット、AF補助光、測光方式、感度、ストロボ光量補正、デジタルズーム、画像仕上、シャープネス、彩度、コントラスト、フォーマット、MF
- 撮影モードによって設定制限がある項目は、**Fn** ボタンで呼び出した場合も同様の制限を受けます。（例：マニュアル露出モード中、感度はオートには設定できない。）

Fn切替機能を使う

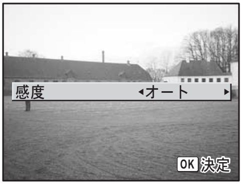
1 撮影モードでFnボタンを押す

Fnガイド画面が表示されます。
使用できるボタンやレバー、十字キーに設定された機能が表示されます。



2 十字キー（▶）を押す

現在の感度が画面中央に表示されます。



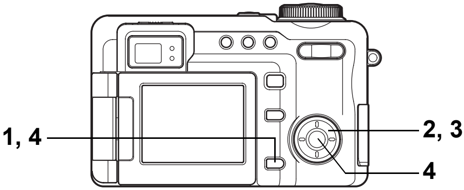
3 十字キー（◀ ▶）を押して感度を選ぶ

4 OK ボタンを押す

感度が設定され、撮影できる状態になります。

決まった時刻にアラームを鳴らす

指定した時刻にアラームを鳴らし、指定した画像を表示できます。



アラームを確認する

1　再生モードでMENUボタンを押す

「▶再生」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「アラーム」を選ぶ

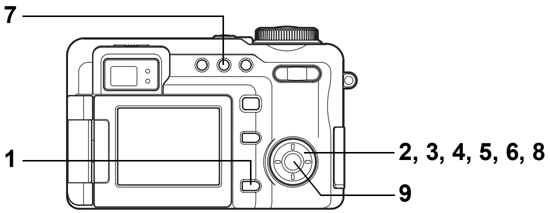
3　十字キー（▶）を押す



アラーム一覧が表示されます。
チェックされているアラームがオンとなります。（スヌーズ機能）が☑（オン）のアラームは、アラームを止めても繰り返し鳴ります。

4　MENU ボタンまたは OK ボタンを 2 回押す

オンのアラームがあるときは、「アラームを設定しました」と表示された後電源がオフになります。



アラームを設定する

1　再生モードでMENUボタンを押す

「▶再生」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「アラーム」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

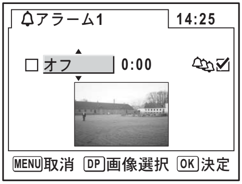
アラーム一覧が表示されます。



4　十字キー（▲▼）で1〜3を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

アラーム設定画面が表示されます。

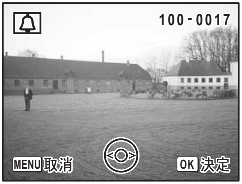


6　アラームモード、時刻、（スヌーズ機能）を設定する

十字キー（◀▶）：項目を移動する
十字キー（▲▼）：設定値を切り替える

7　DPOFボタンを押す

アラーム表示画像の選択画面が表示されます。



8　十字キー（◀▶）を押して、アラーム時に表示する画像を選ぶ

9　OKボタンを4回押す

オンのアラームがあるときは、「アラームを設定しました」と表示された後電源がオフになります。

アラームを止める

電源オフの状態で指定した時刻になると、指定した画面が表示され、アラームが1分間鳴ります。
1分間経過するか、鳴っているあいだにどれかのボタンを押すと、アラームは停止します。
スヌーズ機能がオンの場合、5分経過すると再び鳴り始め、アラームを5回実行するか、**OK**ボタンと**MENU**ボタンを同時に押すまで、繰り返し鳴ります。



注意

カメラの電源がオンになっている場合、インターバル撮影待機中の場合は、指定した時刻になってもアラームは鳴りません。

8 設定

デジタル露出計機能

Optio 750Zは、高画質デジタルカメラとして写真／動画の撮影を行うだけでなく、高機能な反射光式デジタル露出計としてもお使いいただけます。またズームを望遠側にすることで、スポット露出計としてお使いいただくことも可能です。ご愛用の一眼レフカメラ、クラシックカメラなどでの写真撮影をお楽しみいただく際、被写体各部の輝度を測光し、目的に合った露出を決めることができます。

デジタル露出計モードとは

デジタル露出計モードとは、「これから撮影しようとする被写体の明るさ（輝度）を計測し、シャッター速度と絞りの値の最適な組み合わせ（露出）を算出する操作」を行うためのモードです。写真を撮影したり、撮影した写真を再生するなどの通常の操作とは異なります。
輝度を計測する操作は、被写体にカメラを向け、シャッターボタンを押すだけの簡単なものです。被写体の明るさに応じたシャッター速度と絞りの組み合わせは、Optio 750Zが自動的に算出します。

デジタル露出計モードを利用するための準備

本機をデジタル露出計として用いるには、まずデジタル露出計モードに切り替えたのち、「デジタル露出計」メニューで「感度」「露出ステップ」「カラーモード」の3つを設定します。

注意
デジタル露出計モード時は、表示できるメニューは「デジタル露出計」メニューのみです。「撮影」メニューなど、他のメニューを表示することはできません。

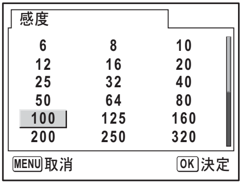
1　モードダイヤルをに合わせる
デジタル露出計モードに切り替わります。

2　MENUボタンを押す
「デジタル露出計」メニューが表示されます。

3　十字キー（▲▼）を押して「感度」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

感度の選択画面が表示されます。



5 十字キー（▲▼◀▶）を押して、写真撮影に用いるカメラに装填されているフィルムの感度を選ぶ

適切な感度を選択したら、**OK** ボタンを押して「[露出計アイコン]デジタル露出計」メニューに戻ります。

注意

「[露出計アイコン]デジタル露出計」メニューで設定した「感度」は、デジタル露出計モードでのみ有効です。また「[カメラアイコン] 撮影」メニューで設定した「感度」は、デジタル露出計モードには反映されません。デジタル露出計モードと撮影モードの「感度」設定は相互に連動しませんので、ご注意ください。なお液晶モニタの表示は設定した感度に対応した明るさにならないことがあります。

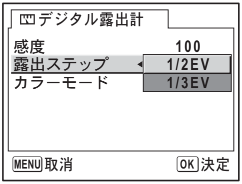
6 十字キー（▲▼）を押して「露出ステップ」を選ぶ

7 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

8 十字キー（▲▼）を押して、「1/2EV」「1/3EV」いずれかを選択する

露出値を設定する際に、1/2EVずつ切り替えるか、1/3EVずつ切り替えるかを選択します。露出ステップを選択したら、**OK** ボタンを押して「[露出計アイコン]デジタル露出計」メニューに戻ります。



メモ

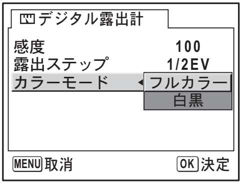
ここで設定した露出ステップは、画面のEV表示にも反映されます。たとえば「1/2EV」を選択すると、後述するEVスケールや露出測定結果表示は1/2EV単位の表示となります。

9 十字キー（▲▼）を押して「カラーモード」を選ぶ

10 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

11 十字キー（▲▼）を押して、「フルカラー」「白黒」いずれかを選択する



デジタル露出計モード時の液晶モニタ表示のカラーモードを選択します。
カラーモードを選択したら、**OK** ボタンを押して「デジタル露出計」メニューに戻ります。

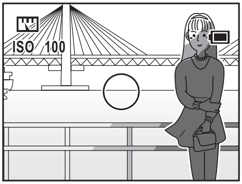
メモ
カラーモードの設定は、測光結果には反映されませんが、使用するフィルムに合わせて設定することで、写真の仕上がりをイメージしながら測光を行うことができます。

12 MENUボタンを押す

設定した「感度」「露出ステップ」「カラーモード」で露出計測が行える状態になります。

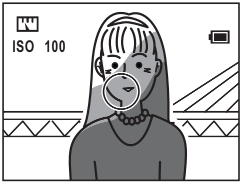
露出の計測

1　デジタル露出計モードで、被写体にレンズを向ける



2　ズームレバーを使って測定する部分を決定する

被写体を液晶モニタで確認しながら、測定したい部分を ○ の中に正しく捉えるように調整します。

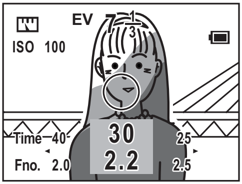


メモ　ズームを望遠側に設定すると、スポット露出計としてお使いいただけます。

注意　デジタル露出計モード時は、デジタルズームは使用できません。ズームで調整できるのは、光学ズームの範囲内（1～5倍）となります。

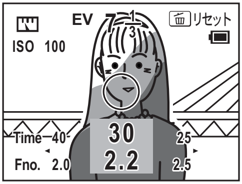
3　シャッターボタンを半押しする

被写体へのAFロックが行われ、測定画面が表示されます。
被写体が明るすぎたり暗すぎて測定できない場合は、画面上部に表示されているEVの文字が点滅します。



4　シャッターボタンを全押しする

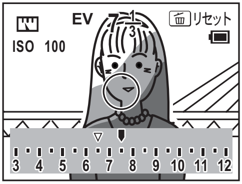
手順3で測定された露出値（EV値）が記憶されます。
また、シャッター速度および絞り値の組み合わせが表示されます。数値の組み合わせは十字キー（◀▶）で動かすことができます。数値の組み合わせをいろいろ表示してみることで、撮影時に用いたいシャッター速度に応じた絞り値、絞りに応じたシャッター速度を確認することができます。



> メモ EVとはExposure Valueの略で、露出の明るさ（被写体の明るさ）を示す数値です。EV値は、絞り（F値）が1.0、シャッター速度が1/1の時にEV=0と定義されています。

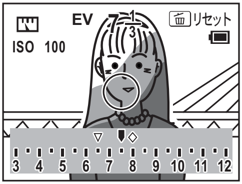
5 OK ボタンを押す

デジタル露出計モードの画面表示が切り替わり、測定されたEV値がスケール表示されます。このスケールのことを「EVスケール」と呼びます。



6 手順3と4を繰り返して、2回目以降の測定を行う

測定後 **OK** ボタンを押すと、1回目（▿）と2回目（◇）の測定結果が、スケール上に表示されます。



スケール上の記号

- ▿：1回目の測定値
- ◇：2回目の測定値
- ▮：現在の露出値（EV）

1回目に測定した値は、何回測定しても保持されています。3回目以降の測定値は、2回目の測定値に上書きして記憶されます。
なお、🗑ボタンを押すと、記憶されている1回目の測定値もクリアされ、最初から測定をし直すことができます。

自分の判断で露出を決定するには

EVスケール上に1回目と2回目（以降）の測定値を表示しているときに、十字キー（◀▶）を押すと、シャッター速度と絞り値の組み合わせの基準となるEV値を1/2もしくは1/3ずつ増減させることができます。（EV値を増減させるステップの設定については、p.169を参照）またこの操作でEV値を決定した上で、再び **OK** ボタンを押すと、そのEV値に応じたシャッター速度／絞り値の組み合わせを表示することができます（手順4と同じ画面に切り替わります）。その際、十字キー（◀▶）を押すと、シャッター速度／絞り値の組み合わせのバリエーションを確認することができます。
この方法を用いれば、単に露出計が計測した数値をそのまま使うだけでなく、1回目と2回目（以降）の測定値を基にご自分の判断でEV値を決め、そのEV値に基づいたシャッター速度／絞り値の組み合わせを求める、という使い方もできます。

反射光式露出計の活用方法

本機に限らず、反射光式露出計は一般的に、「適正な露出を、唯一の正解として、確実に計測してくれる」というものではありません。反射光式露出計は、被写体各部の輝度を測るというのが通常の使い方ですが、被写体周囲の光量は、同じような輝度であっても、被写体の色や素材によって様々な影響をフィルム（デジタルカメラの場合はCCD等）に与えます。また本機のようなスポット露出計の場合は、輝度を測定する範囲をかなり厳密に指定できるため、自分のイメージしたとおりの「絵」をカメラで表現するには、被写体のさまざまな場所の輝度を測定した上で、どの値をどのような基準でカメラの設定に用いるかをユーザーご自身が判断しなければなりません。ここでは、反射光式露出計の測定値を適切な判断材料として用いるための一般的な活用方法をご紹介します。

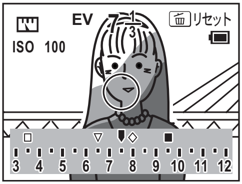
平均測光法

被写体の最も明るい部分（ハイライト）と最も暗い部分（シャドウ）の2箇所を測光し、その平均値から適切なEV値を求める方法です。
Optio 750Zを露出計としてご利用いただく場合は、まず1回目の計測でハイライト部を、次に2回目の計測でシャドウ部を測光します。p.173の手順6のように、1回目の測定値と2回目（以降）の測定値が記録され、EVスケール上に視覚的に表示されますので、そのふたつの値の平均も簡単に取ることができます（十字キー（◀▶）でEVスケールを左右に動かし、EV値を1回目と2回目のちょうど中間辺りにシフトすると、2回の計測の平均値が求められます）。
被写体の最も明るい部分と暗い部分から、全体の中での中間的な輝度の部分の露出を求めますので、明るさの偏りのない、平均的な絵を撮るのに効果的な方法です。ただし、ハイライトとシャドウの差が極端な被写体の場合は、3箇所以上の輝度の露出を計測してその平均を算出し、絵の中のどの部分を「中間的な輝度」とするのか、ご自分で検討することが必要です。なお、撮影するカメラの光軸に反射率18％の灰色板を垂直に置いて測光すると、一度の測光でかなり適正に近い測光値を得られますので、お試しください。

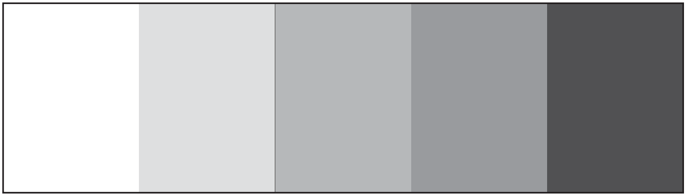
ホワイトポイント、ブラックポイントを利用する方法

平均測光法は、一般的に、画角の中の明るい部分から暗い部分までの階調が滑らかな絵を作るために利用されます。
その一方で、本機の露出計機能では、画角の中の最も明るい部分を完全に飛ばしてしまうという専門的な撮影を行うための測光法もご利用いただけます。真っ白な背景の中に被写体が浮かんでいるような写真を撮影することができます。
本機での手順としては、まず通常の手順で露出を計測しEVスケールを表示したのち、⚡/Oπボタンを押します。EVスケール上に、その計測値に対するホワイトポイントが表示されますので、十字キー（◀▶）を押してEVスケールの「現在の露出値」をホワイトポイントに合わせたのち**OK**ボタンを押します。画面表示が切り替わり、「現在の露出値」に対するシャッター速度／絞り値の組み合わせが表示されますので、その値の組み合わせで撮影に用いるカメラを設定すれば、明るい部分を白く飛ばした絵を実現することができます。
また、これと反対の方法として、「暗い部分を真っ黒に撮る」という方法（ブラックポイントの利用）もご利用いただけます。EVスケール表示中に⏲/**DPOF**ボタンを押すと、ブラックポイントが表示されますので、あとは上記したホワイトポイントの利用法と同様の方法で、シャッター速度／絞り値の組み合わせを決定し、撮影に用いるカメラを設定してください。
なお、ホワイトポイント、ブラックポイントいずれをご利用される場合も、最初に測光した部分の輝度によって表現される絵は変わってきますので、いろいろな測光を試してみましょう。

□：ホワイトポイント
■：ブラックポイント



反射光式デジタル露出計で被写体の輝度（反射率）を計測する際の目安として、以下のグレイスケールチャートをご利用ください。



露出の仕組みや光の測り方などについて、さらに詳しく知りたい方のために、弊社では下記のテキストをご用意しています（有料）。

(1)「林檎の秘密」すぐに役立つ写真の基礎知識
(2)「林檎の秘密DIGITAL」すぐに役立つデジタル写真の基礎知識

なお（1）のテキストには、標準的な露出を測るのに便利な「標準反射板」が付属しています。

ご希望の方は、ペンタックスファミリー、またはペンタックスフォーラムへお問合せください。

都市名一覧

ワールドタイムで指定できる都市名です。

地域	都市名
北米	ホノルル
	アンカレジ
	バンクーバー
	サンフランシスコ
	ロサンゼルス
	カルガリー
	デンバー
	シカゴ
	マイアミ
	トロント
	ニューヨーク
	ハリファックス
中南米	メキシコシティ
	リマ
	サンティアゴ
	カラカス
	ブエノスアイレス
	サンパウロ
	リオデジャネイロ
ヨーロッパ	マドリッド
	ロンドン
	パリ
	ミラノ
	ローマ
	ベルリン
	アテネ
	ヘルシンキ
	モスクワ
アフリカ・西アジア	ダカール
	アルジェ
	ヨハネスブルグ
	イスタンブール
	カイロ
	エルサレム

地域	都市名
アフリカ・西アジア	ナイロビ
	ジッダ
	テヘラン
	ドバイ
	カラチ
	カブール
	マーレ
	デリー
	コロンボ
	カトマンズ
	ダッカ
東アジア	ヤンゴン
	バンコク
	クアラルンプール
	ビエンチャン
	シンガポール
	プノンペン
	ホーチミン
	ジャカルタ
	香港
	北京
	上海
	マニラ
	台北
	ソウル
	東京
	グアム
オセアニア	パース
	アデレード
	シドニー
	ヌーメア
	ウェリントン
	オークランド
	パゴパゴ

動作モード別に設定可能な撮影メニュー

○：設定の変更がすべて作動に反映します。
×：初期設定のままで作動します。設定の変更は無効です。

項目		M	Tv	Av	Ⓟ	PICT	▮■▮	3D	◐	🎥	⊓	🎤	参照
記録サイズ		○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	p.91
画質		○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	p.93
ホワイトバランス		○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×	p.95
AF	AFエリア	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	p.97
	AFモード	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	p.97
	フォーカスリミット	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	p.98
	AF補助光	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	p.98
測光方式		○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	p.100
感度		○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	p.101
ストロボ光量補正		○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	p.89
オートブラケット		○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	p.63
インターバル撮影		○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	p.66
動画	記録サイズ	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	p.111
	カラーモード	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	p.112
	フレームレート	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	p.113
	早送り動画	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	p.114
立体視法		×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	p.78
デジタルズーム		○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	p.58
クイックビュー		○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	p.102
モードメモリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	p.107
画像仕上		○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×	p.103
シャープネス		○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×	p.104
彩度		○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×	p.105
コントラスト		○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×	p.106

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
表示内容の意味を示します。

ラストメモリ設定

する　：カメラの電源をオフにしても現在の設定（ラストメモリ）が保存される。
しない：カメラの電源をオフにすると初期設定に戻る。
※　　：「する」／「しない」はモードメモリ（p.107）の設定による。

リセット設定

する　：リセット（p.163）で初期設定に戻る。
しない：リセットしても設定が保存される。

●「撮影」メニュー項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
記録サイズ		3056×2296	する	する	p.91
画質		★★	する	する	p.93
ホワイトバランス		AWB（オート）	※	する	p.95
AF	AFエリア	ワイド	する	する	p.97
	AFモード	シングル	する	する	p.97
	フォーカスリミット	オン	する	する	p.98
	AF補助光	オン	する	する	p.98
測光方式		（分割測光）	※	する	p.100
感度		オート	※	する	p.101
ストロボ光量補正		0	※	する	p.89
オートブラケット		露出（±0.3V）	する	する	p.63
インターバル撮影	撮影間隔	10秒	する	する	p.66
	撮影枚数	2枚	する	する	p.66
	撮影開始時間	0時間0分後	する	する	p.66
動画	記録サイズ	640×480	する	する	p.111
	カラーモード	フルカラー	する	する	p.112
	フレームレート	15fps	する	する	p.113
	早送り動画	オフ	する	する	p.114
立体視法		平行法	する	する	p.78
デジタルズーム		×2	※	する	p.58
クイックビュー		2秒	する	する	p.102

モードメモリ	ストロボ	オン	する	する	p.87
	ストロボ光量補正	オフ	する	する	p.89
	ホワイトバランス	オフ	する	する	p.95
	露出補正	オフ	する	する	p.59
	デジタルズーム	オン	する	する	p.58
	測光方式	オフ	する	する	p.100
	感度	オフ	する	する	p.101
	フォーカス方式	オフ	する	する	p.84
	ズーム位置	オフ	する	する	p.57
	MF位置	オフ	する	する	p.85
	DISPLAY	オフ	する	する	p.81 p.121
	ファイルNo	オン	する	する	—
画像仕上		標準	する	する	p.103
シャープネス		標準	する	する	p.104
彩度		標準	する	する	p.105
コントラスト		標準	する	する	p.106

●「▶再生」メニュー項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
スライドショウ		3秒間隔	する	する	p.123
リサイズ		—	しない	—	p.133
トリミング		—	しない	—	p.135
デジタルフィルタ		白黒	しない	—	p.137
クイック拡大		オフ	する	する	p.120
クイック消去		オフ	する	する	p.128
アラーム(1～3)	アラーム選択	オフ	する	する	p.167
	アラーム設定	オフ	する	する	p.167
	時刻	00:00	する	する	p.167
	スヌーズ設定	オフ	する	する	p.167
	画像選択	画像なし	する	する	p.167

●「詳細設定」メニュー項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
フォーマット		—	—	—	p.150
サウンド	音量	3	する	する	p.152
	起動音	1	する	する	
	シャッター音	1	する	する	
	操作音	1	する	する	
	セルフタイマー音	オン	する	する	
日時設定	表示スタイル(年月日)	初期設定による	する	しない	p.29
	表示スタイル（時間）	初期設定による	する	しない	
	日付	初期設定による	する	しない	
	時刻	初期設定による	する	しない	
ワールドタイム	ワールドタイム設定	オフ	する	する	p.154
	目的地（都市）	現在地と同じ	する	しない	
	目的地（夏時間）	現在地と同じ	する	しない	
	現在地（都市）	初期設定による	する	しない	
	現在地（夏時間）	初期設定による	する	しない	
Language/言語		初期設定による	する	しない	p.28
フォルダ名		標準	する	する	p.156
起動画面表示	起動画面表示設定	オン	する	する	p.157
	画像選択	Optioロゴ画面	する	する	
DISPLAY設定1 フル表示 (設定2 非表示)	撮影モード	表示　(非表示)	する	する	p.158
	ストロボモード	表示　(非表示)	する	する	
	ドライブモード	表示　(非表示)	する	する	
	フォーカスモード	表示　(非表示)	する	する	
	グリッド線	非表示 (非表示)	する	する	
	シャッター速度	表示　(非表示)	する	する	
	絞り値	表示　(非表示)	する	する	
	撮影可能枚数	表示　(非表示)	する	する	
	バッテリー残量表示	表示　(非表示)	する	する	
	記録サイズ	表示　(非表示)	する	する	
	画質	表示　(非表示)	する	する	
	ホワイトバランス	表示　(非表示)	する	する	
	測光方式	表示　(非表示)	する	する	
	感度	表示　(非表示)	する	する	
	AFエリア枠	表示　(非表示)	する	する	
	露出バー	表示　(非表示)	する	する	
	日時および ヒストグラム	ヒストグラム表示 (非表示)	する	する	

LCDの明るさ		標準	する	する	p.159
ビデオ出力		初期設定による	する	しない	p.160
USB接続		PC	する	する	p.161
スリープ		1分	する	する	p.162
オートパワーオフ		3分	する	する	p.163
Fn設定（上下左右とも）		オフ	する	する	p.164
USER1～USER3	撮影モード	P（プログラム）	する	する	p.54
	記録サイズ	3056×2296	する	する	
	画質	★★	する	する	
	ホワイトバランス	オート	する	する	
	AFエリア	ワイド	する	する	
	AFモード	シングル	する	する	
	測光方式	（分割測光）	する	する	
	感度	オート	する	する	
	ストロボ光量補正	0	する	する	
	デジタルズーム	×2	する	する	
	画像仕上	標準	する	する	
	シャープネス	標準	する	する	
	彩度	標準	する	する	
	コントラスト	標準	する	する	
リセット		—	—	—	p.163

● 撮影モードでの設定（メニュー以外）

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
プログラムモード	シャッター速度	—	—	—	p.49
	絞り値	—	—	—	
絞り優先モード	シャッター速度	—	—	—	p.50
	絞り値	開放	する	する	
シャッター速度優先モード	シャッター速度	1/250	する	する	p.51
	絞り値	—	—	—	
マニュアル露出モード	シャッター速度	1/250	する	する	p.52
	絞り値	開放	する	する	
ユーザーモード		USER1	する	する	p.53
ピクチャーモード		風景	する	する	p.55
デジタルフィルタモード		白黒	する	する	p.74

● キーによる操作

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照先
⚡ボタン	ストロボモード	オート	※	する	p.87
⏲ボタン	ドライブモード	シングル撮影	しない	する	p.60～p.73
MFボタン	フォーカスモード	オートフォーカスモード	※	する	p.84
▶ボタン	動作モード	撮影モード	しない	—	—
Fnボタン	Fnガイド画面	非表示	しない	—	p.164
MENUボタン	メニュー画面	非表示	しない	—	p.42
OKボタン（撮影時）	静止画	標準表示	※	する	p.81
	動画	標準表示	※	する	
	音声	標準表示	※	する	p.146
OKボタン（再生時）	静止画	標準表示	※	する	p.121
	動画	標準表示	※	する	
	音声	標準表示	※	する	p.147
フロントレバー	露出補正	0.0EV	※	する	p.59
ズームボタン	ズーム位置	ワイド端	※	する	p.57

別売アクセサリー一覧

本機には、別売アクセサリーとして以下の製品が用意されています。

ACアダプタキット K-AC7J

充電式リチウムイオンバッテリー D-LI7（※）

バッテリー充電器キット K-BC7J（※）
（バッテリー充電器D-BC7、ACコードD-CO2Jのセット）

電源キット K-D17J（※）
（充電式リチウムイオンバッテリー D-LI7、バッテリー充電器 D-BC7、ACコードD-CO2Jのセット）

USBケーブル I-USB7（※）

AVケーブル I-AVC7（※）

ストラップ O-ST17（※）

カメラケース O-CC7

リモートコントロール E

リモートコントロール F

3Dイメージビュワー O-3DV1

（※）の製品は同梱品と同じものです。

メッセージ一覧

カメラを使用中に、液晶モニタに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

電池容量がなくなりました	電池残量がありません。バッテリーを充電器で充電してください。(p.14)
カードが入っていません	SDメモリーカードが入っていない状態でシャッターボタンを押すと表示されます。
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードに容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。 新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。(p.18、p.127) 撮影済み画像の、画質または記録サイズを変えると保存できる可能性があります。(p.133)
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影/再生ともにできません。パソコン上では画像を表示またはコピーできる場合もあります。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています。(p.150)
フォーマット中	SDメモリーカードをフォーマット中です。
カードがロックされています	SDメモリーカードがライトプロテクトされています。(p.19)
圧縮に失敗しました	撮影時にSDメモリーカードの容量の上限を超えたときに表示されます。
画像・音声がありません	SDメモリーカードに再生できる画像・音声が保存されていません。
動画記録を中止します	動画撮影時にカメラ内部の温度上昇が限界を超えた場合に表示されます。
高温のため動作を終了します	カメラ内部の温度上昇が限界を超えた場合に表示されます。表示後、電源がオフになります。
インターバル撮影を開始します	インターバル撮影を開始して、待機状態に入るときに表示されます。
インターバル撮影を中止しますか?	インターバル撮影の待機中にカメラの電源をオンにしたときに表示されます。

インターバル撮影を終了しました	インターバル撮影を中止した場合または設定した枚数の撮影を完了した場合に、自動で電源がオフになるときに表示されます。
消去中です	画像を消去中に表示されます。
この画像を表示できません	このカメラでは再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
フォルダが作成できません	最大のフォルダNo.で最大のファイルNo.が使用されているため、画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください。(p.150)
プロテクトされています	プロテクトされた画像や音声を消去しようとした場合に表示されます。
記録中です	画像がまだ記録中なのに、動画モードや再生モードに切り替えたとき、またはプロテクト、DPOF設定記録中に表示されます。画像または設定の記録が終了したら表示が消えます。
処理中です	画像処理などに時間がかかり5秒以上スルー画像が表示できない場合に表示されます。
アラームを設定しました	アラームを設定して自動で電源がオフになるときに表示されます。

PictBridge機能を使用する場合に、液晶モニタに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

用紙がありません	接続したプリンタの用紙がない場合に表示されます。
インクがありません	接続したプリンタのインクがない場合に表示されます。
プリンタエラーです	接続したプリンタからエラーメッセージが送られた場合に表示されます。
データエラーです	接続したプリンタからデータに関してのメッセージが送られた場合に表示されます。
用紙が詰まりました	接続したプリンタで紙詰まりが起こった場合に表示されます。

こんなときは？

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	バッテリーの入れかたを間違えている	バッテリーの挿入方向を確認してください。 電池室の⊕⊖表示にしたがってバッテリーを入れなおしてください。（p.15）
	バッテリーの残量がない	バッテリーを充電してください。または、ACアダプタを使用してください。
液晶モニタに何も表示されない	USBケーブルでパソコンに接続している	パソコンに接続しているときは、液晶モニタは常にオフになります。
	テレビに接続している	テレビに接続しているときは、液晶モニタは常にオフになります。
	液晶モニタがオフにセットされている	**OK** ボタンを押すと、液晶モニタがオンになります。（p.81）
	表示はされているが、確認しづらい	日中屋外での撮影は、液晶モニタが表示されていても、確認しづらいことがあります。液晶モニタを明るく設定してください。（p.159）
シャッターが切れない	ストロボが充電中	ストロボが充電中は撮影できません。充電が完了すると撮影できます。
	SDメモリーカードに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.18、127）
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。

現象	原因	対処方法
撮影した写真が暗い	夜景などの暗い場所で撮るものまでの距離が遠い	撮るものまでの距離が遠すぎると、撮影した画像が暗くなります。ストロボの光がとどく範囲で撮影してください。
	背景が暗い	夜景など暗い背景で人物の写真を撮ると、人物は適正露出でも背景にはストロボの光がとどきませんので暗くなってしまうことがあります。ピクチャーモードの[icon]にセットして撮影すると、人物も夜景もきれいに撮ることができます。（p.55）
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	コントラストの低いもの（青空や白壁など）、暗いもの、細かい模様のもの、速く動いているもの、窓やネット越しの風景などは、オートフォーカスが苦手なものです。いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。あるいはマニュアルフォーカスを使用してください。 また被写体が暗いものの場合などにAF補助光を使用すると、ピントが合いやすくなることがあります。（p.98）
	AFエリアに被写体が入っていない	液晶モニタ中央のAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、 AFエリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。
	被写体が近すぎる	フォーカスモードを🌷またはs🌷にセットしてください。（p.84）
	フォーカスモードが🌷またはs🌷になっている	フォーカスモードが🌷またはs🌷にセットされているときは、通常の撮影域にはピントが合いません。

現象	原因	対処方法
ストロボが発光しない	ストロボの発光方法が （発光禁止）になっている	オートまたは に設定してください。（p.87）
	モード ドライブモードが または フォーカスモードが▲または ピクチャーモードが	これらのモードではストロボは発光しません。
ズームが動かない	フォーカスモードが にセットされている	スーパーマクロモードではズームは作動しません。
パソコンとのUSB接続がうまくいかない	PictBridge モードになっている	カメラのUSB接続モードを「PC」に切り替える。（p.161）

主な仕様

型式	ズームレンズ内蔵全自動コンパクトタイプデジタルスチルカメラ			
有効画素数	700万画素			
撮像素子	総画素数741万画素、 原色フィルタ／インターライントランスファー 1/1.8型CCD			
記録画素数	静止画	横縦比4:3	3056×2296、2592×1944、2048×1536、1600×1200、1024×768、640×480	
		横縦比3:2	3056×2040、2592×1728、2048×1368、1600×1064、1024×680、640×424 （ピクセル）	
	動画	横縦比4:3	640×480、320×240（ピクセル）	
感度	オート、マニュアル（80/100/200/400：標準出力感度）			
記録方式	静止画	TIFF、JPEG（Exif2.2）、DCF準拠、DPOF対応、PictBridge対応、PRINT Image Matching対応		
	動画	MOV（QuickTime MotionJPEG準拠）、ストリーミング記録、約30フレーム／秒、約15フレーム／秒、PCM方式、モノラル		
	音声	ボイスメモ、ボイスレコード：PCM方式、モノラル		
画質	静止画	TIFF、★★★（S.ファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）		
記録媒体	SDメモリーカード			

撮影枚数と時間（64MBのSDメモリーカードを使用した場合）

静止画

記録サイズ		画質			
横縦比	ピクセル数	TIFF	★★★ S.ファイン	★★ ファイン	★ エコノミー
4:3	3056×2296	約2枚	約15枚	約30枚	約47枚
	2592×1944	約4枚	約22枚	約44枚	約67枚
	2048×1536	—	約34枚	約67枚	約101枚
	1600×1200	—	約56枚	約110枚	約149枚
	1024×768	—	約121枚	約215枚	約298枚
	640×480	—	約258枚	約352枚	約484枚
3:2	3056×2040	—	約17枚	約34枚	約56枚
	2592×1728	—	約24枚	約47枚	約75枚
	2048×1368	—	約38枚	約75枚	約121枚
	1600×1064	—	約61枚	約121枚	約184枚
	1024×680	—	約149枚	約242枚	約322枚
	640×424	—	約298枚	約387枚	約484枚

動画

フレームレート / 記録サイズ	30fps	15fps	音声
640×480	約50秒	約1分50秒	約2時間12分
320×240	約1分30秒	約2分50秒	

ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、白熱灯、蛍光灯（W、N、D）、マニュアル	
レンズ	焦点距離	7.8mm～39mm （35mmフィルム換算：37.5mm～187.5mm相当）
	最大F値	F2.8～F4.6
	レンズ構成	7群9枚（非球面レンズ2枚使用）
	ズーム方式	電動式
	撮影範囲	約33.7mm×約24.7mmを画面一杯に撮影可能 （スーパーマクロモード）
デジタルズーム	撮影時	最大約8倍（光学5倍ズームと合わせ、最大約40倍ズーム相当のズーム倍率）
ファインダー	方式	実像式ズームファインダー、$-3m^{-1}$～$+1m^{-1}$の範囲で視度調整可能
	倍率	広角0.37×、望遠1.66×
液晶モニタ	1.8型CGシリコンTFTカラー LCD（微反射型）、明るさ調整付、約13.4万画素（バックライト付）、上下270度、左右180度回転機構付	
再生機能	1コマ、インデックス（9画面）、拡大（最大10倍）、スクロール、回転表示、音声、スライドショウ、ムービー再生、ヒストグラム表示、デジタルフィルタ、トリミング、リサイズ	
フォーカスモード	オートフォーカス、マクロ、スーパーマクロ、マニュアルフォーカス、AFエリア移動	
オートフォーカス	方式	撮像素子によるTTLコントラスト検出方式 （外部パッシブセンサ併用） 11点AF（ワイド／スポット切替可）
	測距モード	シングル、コンティニュアス
	撮影範囲（レンズ前面から）	ノーマル：約0.6m～∞（ズーム全域） マクロ：約0.15m～約0.65m（ズーム全域） スーパーマクロ：約0.02m～約0.65m（広角のみ） 遠景：∞（ズーム全域）
	フォーカスロック	シャッターボタン半押しによる
	補助投光	低輝度時LED自動発光

マニュアルフォーカス	撮影範囲	0.02m～∞（広角時）、0.15m～∞（ズーム全域）
露出機構	測光方式	撮像素子によるTTL測光（分割、中央部重点、スポット）
	露出補正	±2EV（1/3EVステップで設定可能）
	撮影モード	プログラム（P）、絞り優先（Av）、シャッター優先（Tv）、マニュアル（M）、ピクチャー、動画、3D撮影、パノラマアシスト、デジタルフィルタ、ユーザー
	デジタル露出計モード	反射光式デジタル露出計として使用可
ピクチャーモード	風景、ポートレート、セルフポートレート、夜景、夜景ポートレート、スポーツ、花、花火、サーフ＆スノー、紅葉、夕景、料理	
デジタルフィルタ	白黒、セピア、赤、桃、紫、青、緑、黄、SOFT（撮影前設定、撮影後処理とも） 明るさ（撮影後処理のみ）	
オートブラケット	露出、ホワイトバランス、彩度、シャープネス、コントラスト	
動画	連続録画時間	1秒～SDメモリーカードの容量いっぱいまで
シャッター	型式	メカニカル併用電子シャッター
	速度	約1/2000秒～約15秒（マニュアル露出、シャッター優先時：約1/1000秒～、1秒より長秒時にはノイズリダクションあり）
ストロボ	型式	赤目軽減機能付内蔵ストロボ
	発光モード	オート（低照度時）、発光禁止、強制発光、オート＋赤目軽減、強制発光＋赤目軽減、低速シンクロ（夜景、夜景ポートレート、夕景のみ）
	撮影範囲	広角時　約0.4m～約5.2m（感度：オート） 望遠時　約0.15m～約3.2m（感度：オート）
	ストロボ光量補正	±1/2EV（1/3ステップで設定可）
ドライブモード	1コマ撮影、10秒セルフタイマー撮影、2秒セルフタイマー撮影、即リモコン撮影、3秒後リモコン撮影、連続撮影、インターバル撮影、多重露出、オートブラケット（露出、ホワイトバランス、彩度、シャープネス、コントラスト） 同時設定（多重露出+セルフタイマーまたはリモコン、オートブラケット＋セルフタイマーまたはリモコン）	
セルフタイマー	電子制御式、制御時間：約10秒、約2秒	
リモコン	ペンタックス リモートコントロールE、F（別売） 受信後即露出開始、または3秒後に露出開始の切替え可 リモートコントロールEでは、リモコンによるズーム操作可	
時計機能	ワールドタイム設定：世界68都市に対応（28タイムゾーン）	

アラーム	選択した画像を指定時間にアラームと同時に表示（最大3メモリー）、スヌーズ機能付	
電源	専用リチウムイオンバッテリーD-LI7、ACアダプタキット（別売）	
バッテリー寿命（撮影可能枚数）	約245枚	（ストロボ使用率50％、23℃、専用リチウムイオンバッテリー D-LI7を使用した場合） ※撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安です。
入出力ポート	USB／ビデオ端子（PC通信方式USB1.1）、外部電源端子	
ビデオ出力方式	NTSC／PAL（モノラル音）	
PictBridge	対応プリンタ	PictBridge対応のプリンタ
	印刷モード	1画像印刷、全画像印刷、DPOF印刷
大きさ	100（幅）×61.5（高）×42（厚）mm（操作部材を除く）	
質量	210g（バッテリー、SDメモリーカード含まず）	
撮影時質量	255g（バッテリー、SDメモリーカード含む）	
主な付属品	充電式リチウムイオンバッテリー、バッテリー充電器キット、USBケーブル、AVケーブル、ソフトウェア（CD-ROM）、ストラップ、使用説明書、保証書	

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2. 保証期間中［ご購入後 1 年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。

4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。

5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後 5 年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。

6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。[保証期間中のみ有効]

7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

ペンタックスピックアップリペアサービス

全国（一部の離島を除く）どこからでも均一料金で修理品梱包資材のお届け・修理品のお引取りから、修理完成品のお届けまでを一括して提供する便利なサービスです。

TEL 0120-737-919（フリーダイヤル）TEL 03-3975-4314（携帯・PHS用）

（受付時間：土・日・祝日・年末年始および弊社休業日を除く9：00～17：00）

インターネット受付

URL：http://www.pentax.co.jp/japan/support/

メモ

メモ

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス　**http://www.pentax.co.jp/**

お客様相談センター（弊社製品に関するお問い合わせ）

〒174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9
営業時間午前 9：00 ～午後 6：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）
0570-001313（市内通話料でご利用いただけます。）
携帯電話、PHS の方は、下記の電話番号をご利用ください。
☎**03-3960-3200**（代）　☎**03-3960-0887** デジタルカメラ専用

［ショールーム・写真展・修理受付］

ペンタックスフォーラム　☎**03-3348-2941（代）**

〒163-0401 東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビル 1 階（私書箱 240 号）
営業時間午前 10：30 ～午後 6：30（年末年始および三井ビル点検日を除き年中無休）

［修理受付］

ペンタックス札幌営業所お客様窓口　☎**011-612-3231（代）**

〒060-0010 札幌市中央区北 10 条西 18-36 ペンタックス札幌ビル 2 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス仙台営業所お客様窓口　☎**022-371-6663（代）**

〒981-3133 仙台市泉区泉中央 1-7-1 千代田生命泉中央駅ビル 5 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス名古屋営業所お客様窓口　☎**052-962-5331（代）**

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-19-8 ペンタックスビル 3 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス大阪営業所お客様窓口　☎**06-6271-7996（代）**

〒542-0081 大阪市中央区南船場 1-17-9 パールビル 2 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス広島営業所お客様窓口　☎**082-234-5681（代）**

〒730-0851 広島市中区榎町 2-15 榎町ビュロー 1 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス福岡営業所お客様窓口　☎**092-281-6868（代）**

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 パールビル 2 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

［宅配便・郵便修理受付・修理に関するお問い合わせ］

ペンタックスサービス（株）東日本修理センター　☎**03-3975-4341（代）**

〒175-0082 東京都板橋区高島平 6-6-2 ペンタックス（株）流通センター内
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックスサービス（株）西日本修理センター　☎**06-6271-7996（代）**

〒542-0081 大阪市中央区南船場 1-17-9 パールビル 2 階
営業時間午前 9：00 ～午後 5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

for your
precious moments

ペンタックス株式会社
〒174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9
ペンタックス販売株式会社
〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-1

☆この説明書には再生紙を使用しています。
☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

57382
01-200407
Printed in Japan